

朕明治二十五年勅令第三十一號ニ依レル外務省試補任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月九日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文  
外務大臣 陸奥宗光

勅令第二百一號(官報十一月十日)

明治二十五年勅令第三十一號ニ依リ外務省試補タルノ資格ヲ有シ現ニ同省試補タル者ハ別ニ試験ヲ用井ス同省高等官ニ任用スルコトヲ得

〔參照〕

勅令第三十一號(明治二十五年三月二十四日官報)

第一條 外務省留學生ニシテ白耳蘭國大學校ニ於テ外交學科ヲ修メ外交官合格試験及第證書ヲ有スル者ハ高等試験ヲ要セ

ス文官高等試験委員ノ銜ヲ經テ外務省試補ヲ命シ事務練習ノ後外務省高等官及ヒ外交官ニ任用スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ任用シタル外務省高等官及ヒ外交官ハ高等試験ヲ經ルニ非サレハ其他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

朕陸軍定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月九日

陸軍大臣 伯爵大山 巖

勅令第二百一號(官報十一月十日)

陸軍定員令中左ノ通改正ス

一 附表第十三號甲 衛戍監獄定員表東京ノ部士官ノ區畫(一)(二)(三)等軍醫「六」ヲ「七」ニ下士ノ區畫「三七」ヲ「三八」ニ仙臺名古屋大阪廣島熊本ノ部士官ノ區畫(一)(二)(三)等軍醫「三」ヲ「四」ニ下士ノ區畫「一八」ヲ

二九ニ改ム  
一 附表第十三號乙 衛戍監獄定員表左ノ如ク改ム  
第十三號乙

衛戍監獄定員表		位階	級	長	曹	配	守	守長	番	守
東	京	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大	阪	一	一	一	一	一	一	一	一	一
仙臺	名古屋	一	一	一	一	一	一	一	一	一
廣島	熊本	一	一	一	一	一	一	一	一	一
札	幌	一	一	一	一	一	一	一	一	一

〔參照〕  
勅令第二百六十七號陸軍定員令(明治二十三年十一月四日官報抄錄  
第十三號甲

衛戍病院定員表		位階	附級	上	長	官	藥	品	士	官	下	士
東	京	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大	阪	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
仙臺	名古屋	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
廣島	熊本	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
札	幌	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

橫須賀	佐藤	一等軍醫	一
新橋	金子	一等軍醫	一
大津	橋本	二等軍醫正	一
丸尾	小島	二等軍醫正	一
丸尾	小島	二等軍醫正	一
丸尾	小島	二等軍醫正	一
丸尾	小島	二等軍醫正	一
丸尾	小島	二等軍醫正	一
丸尾	小島	二等軍醫正	一
丸尾	小島	二等軍醫正	一

第十三號乙

衛戍監獄定員表

考備	札	衛戍監獄定員表					
		大尉	中尉	少尉	一等軍醫	下士	
大東	長	一	副長	一	一	一三	一八
大東	副長	一	副長	一	一	九	一六
大東	副長	一	副長	一	一	七	一一
大東	副長	一	副長	一	一	二	五

(一)東京札幌ヲ除クノ外當分ノ内各監獄ニ看守長一名ヲ増加ス(二)監獄長副長  
全員九ノ内四分一ハ飛馬本文ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得

朕會計年度開始前現金支出規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月十日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文  
大藏大臣 渡邊國武

勅令第二百三號(官報十一月十二日)

明治二十二年勅令第九十五號會計年度開始前現金支出規則中左ノ通改正ス

第一條中 大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシヲ 大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシニ改ム

第二條 大藏大臣前條計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ニ令達スヘシ

附則

本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第九十五號會計年度開始前現金支出規則(明治二十二年七月十三日官報)抄録

第一條 各省大臣ハ會計法第十五條第二項ニ依リ現金前渡ヲナスニ當リ該年度ノ未タ開始セサルトキハ其前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ其計算書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第二條 大藏大臣前條ノ計算書ヲ檢視シ現金前渡ヲ正當ト認メタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

朕出納官更身元保證金ニ關スル明治二十二年勅令第四號中削除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月十日

大藏大臣 渡邊國武

勅令第二百四號(官報十一月十一日)

明治二十六年十一月 勅令 第二百三號 第二百四號

出納官吏身元保證金ニ關スル明治二十三年勅令第四號中第六條ヲ削除ス

附則

本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第四號(明治二十三年一月二十日官報抄録)  
第六條 出納官吏ノ身元保證金納入拂戻等ニ關スル取裁規則ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

朕整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ニ關スル明治二十三年勅令第六十八號中削除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月十日

大藏大臣 渡邊 國武

勅令第二百五號(官報十一月十一日)

整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金、政府紙幣交換基金、鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ニ關スル明治二十三年勅令第六十八號第五中、會計主務官及ノ六字ヲ削ル

附則

本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第六十八號(明治二十三年四月五日官報抄録)  
整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ規程ハ左ニ掲クルモノ、  
外編テ明治二十三年勅令第六十號會計規則ニ添増ス(シ)  
第五 會計主務官及收入官吏ノ會計檢査院ニ提出スヘキ計算書ヲ大藏大臣ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

御名 御璽

明治二十六年十一月十日

陸軍大臣 伯爵 大山 巖

朕陸軍軍吏部現役下士補充條例中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第二百六號(官報十一月十一日)

明治二十四年勅令第八十七號陸軍軍吏部現役下士補充條例中左ノ通追加ス  
第一條及第二條中「司計部」ノ下ニ「若クハ糧餉部」ノ六字ヲ加フ

〔參照〕

勅令第八十七號陸軍軍吏部現役下士補充條例(明治二十四年九月三日官報抄録)  
第一條 陸軍軍吏部現役下士ノ補充ハ歩騎砲工輜重兵科ノ上等兵中軍吏部下士出身志願ノ者ヲシテ軍隊ニ於テ三箇月間會計事務ヲ見習ハシメ該隊軍吏適當ト認メタル者ヲ師團監督部長ニ上申シ部長試験ヲ行ヒ合格者ノ内ヨリ一箇年間所要ノ人員ヲ採リ更ニ二箇月間當該監督部若クハ司計部ノ事務ヲ見習ハシメタル者ヲ以テス  
第二條 師團監督部長ハ前條監督部若クハ司計部ノ事務ヲ見習ハシメタル者ノ優秀順序ヲ定メ軍吏部下士候補名簿ヲ製シ之ヲ陸軍省經理局長ニ呈ス(シ)

朕海軍軍法會議構成員ヲ命シタル主理候補年俸ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月十日

内閣總理大臣 伯爵 伊藤 博文  
海軍大臣 伯爵 西鄉 從道

勅令第二百七號(官報十二月十一日)

主理候補ニシテ軍法會議ノ構成員ヲ命セラレタル者ニハ三百圓以下ノ年俸ヲ給スルコトヲ得

朕札幌農學校ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月十日

内閣總理大臣 伯爵 伊藤博文  
文部大臣 井上 毅

勅令第二百八號(官報十一月十一日)

第一條 札幌農學校ハ文部省直轄學校トス

第二條 文部大臣ハ便宜北海道廳長官ニ委任シテ札幌農學校ヲ監督セシムルコトヲ得

第三條 札幌農學校職員ノ定員ハ左ノ如シ但兼任ハ此ノ限ニアラス

- 校長 一人
- 教授 六人
- 助教授 十人
- 書記 六人

附則

第四條 本令ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

第五條 明治二十四年勅令第四百二十二號、同年勅令第四百四十三號及明治二十六年勅令第九十五號

ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治二十四年七月二十勅令第四百四十二號ハ札幌農學校官制、同勅令第四百四十三號ハ札幌農學校官制官俸給ノ件、同二十六年九月廿九勅令第九十五號ハ札幌農學校教授ノ官俸俸給ニ關スル件ナリ

朕貴族院並ニ衆議院守衛長及守衛番長特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月十日

内閣總理大臣 伯爵 伊藤博文

勅令第二百九號(官報十一月十一日)

貴族院並ニ衆議院ノ守衛奉職滿五年以上ニシテ現ニ其ノ職ニ在ル者ハ試験ヲ要セス文官普通試験委員ノ銜ヲ經テ貴族院又ハ衆議院ノ守衛番長若クハ守衛番長ニ任用スルコトヲ得

第一回帝國議會會期前又ハ其ノ會期中ニ貴族院又ハ衆議院ノ守衛ヲ命セラレ引續キ其ノ職ニ在ル者ハ其ノ奉職年數ニ拘ラス前項ニ依ルコトヲ得

朕陸軍大學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月十四日

内閣總理大臣 伯爵 伊藤博文  
陸軍大臣 伯爵 大山 巖

勅令第二百十號(官報十一月十五日)

陸軍大學校條例中左ノ通改正ス

第二條中副官 各兵科ノ下「大中尉」ヲ削リ「大尉(教官ヲ兼シムルコトヲ得)」ノ四字ヲ加フ又

兵學教官 參謀佐尉官ノ次項ニ「同 海軍參謀佐尉官或ハ海軍佐官若クハ海軍大尉」ノ一項ヲ加フ

第三條 削除

第十七條第一項中從事セシノ下「ム」ヲ削リ「メ」第三學年者ニアリテハ砲兵射的學校及要塞砲兵聯隊

ニ派遣シ野戰及要塞砲兵射擊術及其用法ヲ實地ニ研究セシムノ五十一字ヲ加フ  
 同條第二項中共隊長ニ隸ノ下ニ「ス」ヲ削リシ砲兵射的學校及要塞砲兵聯隊派遣中研究ノ事項ニ關シ  
 テハ該隊長若クハ該隊長ノ指揮ヲ受クルモノトス」ノ四十七字ヲ加フ  
 第十八條第二項中隊附服務ヲ終ノ下「レ」ヲ削リ「リ」タル後砲兵射的學校長並ニ要塞砲兵聯隊長ハ  
 學生研究ヲ終リタル後各ノ三十二字ヲ加フ  
 第四條ヲ第三條ニ以下逐條繰上ケ

〔參照〕

勅令第七十一號陸軍大學校條例(明治二十四年八月十三日官報)抄錄  
 第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 陸軍大佐
  - 副官 各兵科大尉
  - 視長 騎兵科尉官
  - 軍吏 兵學教官
  - 參謀佐尉官 各兵科佐官若クハ大尉
  - 教官 監督部上長官若クハ監督補
  - 同 衛生部上長官若クハ一等軍醫
  - 同 獸醫(校附獸醫ヲ以テ兼勤セシム)
  - 同 陸軍教授
- 第三條 諸教官ハ前條掲ケル所ノ外他ニ本職アル者ヲシテ兼務セシムルヲ得  
 第十七條 學生ヲシテ毎年七八月ノ際ニ隊附服務セシム但第二學年者ニアリテハ尙ホ其年附屬セシ軍隊ノ秋季演習ニ從事セシム  
 學生ハ隊附服務中勤務上ニ關シテハ其隊長ニ隸ス  
 第十八條第二項 當該隊長ハ學生隊附服務ヲ終レハ其成績ヲ校長ニ申報ス

朕陸軍定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月十四日

陸軍大臣 伯耆大山 巖

勅令第二百一十一號(官報十一月十五日)  
 陸軍定員令中附表第十四號甲陸軍大學校定員表左ノ通改正ス

第十四號甲

陸軍大學校定員表

區分	階級		職名		校馬
	大佐	中佐	少佐	大尉	
本部長	一	二			
數官	兵學教官	一			
	陸軍教授	八			
部	陸軍教授				
	學生				六〇
副官	副官	二			
	軍吏	九			
獸醫	獸醫	一			
	獸醫	一			
視長	視長	一			
	視長	一			
校馬	校馬				五〇
	校馬				九

計	三十四
將校同相當官並陸軍教授	三四
將校馬	二八
一	兵學教官ノ内ハ海軍參謀佐官或ハ海軍佐官若クハ海軍大尉ニシテ本職アル者ヲシテ兼勤
二	教官ノ内ハ監督部上長官(士官)一ハ衛生部上長官(一等軍醫)一ハ獸醫トス而シテ獸醫ハ校
三	附屬醫ヲシテ之ヲ兼ネシム
四	附屬醫ハ定員ノ外副官ヲシテ兼ネシムルコトヲ得
五	附屬教官ハ本表ノ外他ニ本職アル者ヲシテ兼勤セシメ若クハ學識アルモノヲ撰テ囑託
六	附屬教官ハ本表ノ外他ニ本職アル者ヲシテ兼勤セシメ若クハ學識アルモノヲ撰テ囑託

〔參照〕  
勅令第二百六十七號陸軍定員令(明治二十三年十一月四日官報抄錄)  
第十四號甲

陸軍大學校定員表

階級	區分		部	數	官數	學生	計
	相當官並	陸軍教授					
大佐乘馬中佐少佐乘馬大尉乘馬中尉乘馬少尉乘馬	陸軍	陸軍	陸軍	七	一	三	二一
	陸軍	陸軍	陸軍	七	一	三	二一
副官	陸軍	陸軍	陸軍	一	一	一	三
	陸軍	陸軍	陸軍	一	一	一	三
下士 並 校馬	陸軍	陸軍	陸軍	八	一	六	一五
	陸軍	陸軍	陸軍	九	一	六	一五
計	陸軍	陸軍	陸軍	一八	一	一〇	二九
備考	教官ノ内ハ監督部上長官(士官)一ハ衛生部上長官(一等軍醫)一ハ獸醫トス而シテ獸醫ハ校附屬醫ヨリ之ヲ兼ニス						

朕在外國公使館附陸海軍武官俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月二十二日

内閣總理大臣伯耆伊藤博文  
海軍大臣伯耆西郷從道  
陸軍大臣伯耆大山巖

勅令第二百一十二號(官報十一月二十四日)

在外國公使館附陸海軍武官俸給令

- 第一條 在外國公使館附陸海軍武官ノ俸給ハ分チテ本俸及在勤俸ノ二種トス
- 第二條 公使館附陸軍武官ノ本俸ハ陸軍給與令ニ定ムル所ノ現役俸及職務俸トス
- 第三條 公使館附陸海軍武官ノ在勤俸年額ハ別表ニ依ル
- 陸軍大尉ニシテ公使館附少佐ノ職務心得ヲ命セラレタル者ノ在勤俸ハ陸軍佐官ノ在勤俸額ニ同
- 第四條 清國公使館附陸海軍武官ニシテ特ニ天津在勤ヲ命セラレタル者ニハ年額三百六十圓以內ヲ増給スルコトヲ得
- 第五條 在勤俸ハ海外在勤ノ場合ニ於テ本俸ノ外任所到着ノ翌日ヨリ任所出發ノ前日マテ之ヲ給ス
- 第六條 任所替ヲ命セラレタルトキハ舊任所出發ノ當日ヨリ新任所到着ノ日マテハ在勤俸ヲ給セス

第七條 隨朝若クハ任所替ヲ命セラレタル者其ノ辭令到達ノ日ヨリ三十日ヲ過キ尙出發セサルトキハ其ノ翌日ヨリ在勤俸ヲ給セス但特ニ滞在ヲ命セラレタル者ハ此ノ限ニアラス

第八條 俸給ハ年額ヲ十二分シテ一箇月分トシ毎月下旬ニ之ヲ給ス但外國ニ送金ヲ要スルモノハ半箇年分以内ニ於テ前金渡ヲ爲スコトヲ得

第九條 歐米各國ニ在勤スル者ノ在勤俸ハ金貨ヲ以テ支給シ東洋諸國ニ在勤スル者ノ在勤俸ハ銀貨ヲ以テ支給ス

附則

第十條 本令ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

明治二十一年勅令第十八號及本年勅令第六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表)

在外國公使館附陸海軍武官在勤俸

任所	英 露 米 佛 獨 伊 清 朝 鮮	
	陸軍	海軍
佐官	二千二百圓	二千二百圓
尉官	二千圓	二千圓

〔參照〕

勅令第十八號在外國公使館附陸海軍武官俸給令(明治二十一年四月三日官報)

第一條 在外國公使館附陸海軍武官ノ年俸ハ別表ニ依ル

第二條 本令ニ關スル支給細則ハ陸軍大臣大藏大臣ト協議シ之ヲ定ム(ヘシ)

別表

在外國公使館附陸軍武官年俸表

國名	大 佐	中 佐	少 佐	大 尉	中 尉	少 尉
英 國	銀三千七百五十圓	銀三千五百圓	銀三千二百五十圓	銀二千六百圓	銀二千三百五十圓	銀二千一百圓
露 國	銀三千七百五十圓	銀三千五百圓	銀三千二百五十圓	銀二千六百圓	銀二千三百五十圓	銀二千一百圓
佛 國	銀三千七百五十圓	銀三千五百圓	銀三千二百五十圓	銀二千六百圓	銀二千三百五十圓	銀二千一百圓
米 國	銀三千七百五十圓	銀三千五百圓	銀三千二百五十圓	銀二千六百圓	銀二千三百五十圓	銀二千一百圓
獨 國	銀三千七百五十圓	銀三千五百圓	銀三千二百五十圓	銀二千六百圓	銀二千三百五十圓	銀二千一百圓
伊 國	銀三千六百五十圓	銀三千四百圓	銀三千二百圓	銀二千五百圓	銀二千二百圓	銀二千圓
澳 國	銀三千六百五十圓	銀三千四百圓	銀三千二百圓	銀二千五百圓	銀二千二百圓	銀二千圓
和 國	銀三千六百五十圓	銀三千四百圓	銀三千二百圓	銀二千五百圓	銀二千二百圓	銀二千圓
清 國	銀三千三百圓	銀三千圓	銀二千七百圓	銀二千四百圓	銀二千一百圓	銀一千八百圓
朝鮮國	銀三千三百圓	銀三千圓	銀二千七百圓	銀二千四百圓	銀二千一百圓	銀一千八百圓

勅令第六號(明治二十六年二月二十三日官報抄録)  
在外國公使館附少佐ノ職務心得ヲ命シタル大尉ニハ同少佐ノ年俸十分ノ八ヲ給ス

朕外交官及領事官試驗規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十六年十一月二十二日

内閣總理大臣 伯耆伊藤博文  
外務大臣 陸奥宗光

勅令第二百十三號(官報十一月二十四日)

外交官及領事官試驗規則

第一條 外交官及領事官試驗ハ須要ニ應シ外務省ニ於テ外交官及領事官試驗委員之ヲ行フ

第二條 外交官及領事官試驗ヲ行フヘキ期日ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三條 年齡滿二十年以上ノ男子ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當セサル者ハ外交官及領事官試驗ヲ受クルコトヲ得

一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニアラス

二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

三 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四條 外交官及領事官試驗ヲ受ケント欲スル者ハ其ノ出願書ニ履歷書及論文竝ニ之ヲ英文、佛

文又ハ獨逸文ニ翻譯シタルモノヲ添ヘ之ヲ試驗委員ニ差出スヘシ

第五條 外交官及領事官試驗ハ前條ノ履歷書及論文竝ニ其ノ譯文ニ就キ試驗ヲ受クルニ足ルヘキ

者ト試驗委員ニ於テ認めタル者ヲ召集シテ之ヲ行フ

第六條 外交官及領事官試驗ヲ分チテ第一次試驗及第二次試験トス第一次試験ニ合格シタル者ニ

アラサレハ第二次試験ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 第一次試験ハ左ノ科目ヲ用非テ之ヲ行ヒ仍體格ヲ検査ス

一 作文 邦文並ニ第四條ノ譯文ニ用非タル外國文

二 外國語 第四條ノ譯文ニ用非タル國語

三 公文摘要 邦文

四 口述要領筆記 邦文

第八條 第二次試験ハ左ノ科目ヲ用非テ之ヲ行フ

一 憲法

二 行政法

三 經濟學

四 國際公法

五 國際私法

以上ノ科目ハ試験ノ際選擇取捨スルコトヲ得ス

一 刑法

二 民法

三 財政學

四 商法

五 刑事訴訟法

六 民事訴訟法

七 外交史

以上ノ科目ハ受験者ヲシテ其ノ中ニ就キ豫メ一科目ヲ選擇セシメ之ヲ試験ス

第九條 第二次試験ハ分チテ筆記試験及口述試験トス筆記試験ニ合格シタル者ニアラサレハ口述

試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十條 出願人ノ願ニ依リ英語、佛語又ハ獨逸語ノ外仍他ノ外國語ヲ試験スルコトアルヘシ

前項ノ試験ヲ受ケント欲スル者ハ其ノ旨豫メ出願書ニ記載スヘシ

第十一條 外交官及領事官試驗ヲ出願スル者ニハ手数料トシテ金十圓ヲ納メシム

第十二條 不正ノ方法ニ因リ試験ヲ受ケント企テタル者及試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ其

ノ期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス試験合格ノ後是等ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス

第十三條 試験合格者ヲ定ムル方法ハ試験委員ノ議定スル所ニ依ル

試験合格ノ有効期限ハ合格後外交官又ハ領事官ニ任用セラレタル者ヲ除ク外一箇月間トス



第十四條 外交官及領事官試験ニ關スル細則ハ外務大臣之ヲ定ム

朕郡市ノ區域ニ依ラサル警察署管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月二十五日

内務大臣伯爵井上 馨

勅令第二百十四號 (官報十一月二十七日)

郡市ノ區域ニ依ラサル警察署管轄區域別表ノ通之ヲ定ム

附則

本令ハ明治二十六年十二月一日ヨリ施行ス

(別表)

警察署管轄區域表

府 都 京	府 縣	署 名	管 轄 區 域
京	府	河原町警察署	京都市上京區ノ内 寺町通 <small>小路迄</small> 及樂木町 <small>大原口突抜町</small> 以東
京	府	中立賣警察署	京都市上京區ノ内 大原口町 <small>元立本寺前町</small> 及中本通 <small>水瀧寺橋通</small>
京	府	一條警察署	京都市上京區ノ内 東堀川通以東 <small>(河原町警察署管轄界迄)</small>
京	府	越前町警察署	京都市上京區ノ内 堀川以西
京	府	五條警察署	京都市下京區ノ内 鴨川以東
京	府	堀川警察署	京都市下京區ノ内 鴨川以西 <small>(堀川警察署管轄界迄)</small>
京	府	五條警察署	京都市下京區ノ内 西洞院通東側以西
京	府	堀川警察署	京都市下京區ノ内 西洞院通東側以西
京	府	堀川警察署	京都市下京區ノ内 西洞院通東側以西

大	
東警察署	大阪市ノ内 東區
西警察署	大阪市ノ内 西區
南警察署	大阪市ノ内 南區
北警察署	大阪市ノ内 北區
會根崎警察署	西成郡ノ内 下福島村 川崎村 北中島村 豐里村 中津村 傳法村 上福島村 野田村 神津村 大道村 川北村 稻村 會根崎村 豐洲村 歌島村 中島村 神島村 北野村 豐崎村 西中島村 新庄村 千船村
難波警察署	西成郡ノ内 難波村 今宮村 川南村 藤間村 木津村 天保町 西濱町 九條村 難波村 三軒家村
天王寺警察署	東成郡 住吉郡
池田警察署	豐島郡 能勢郡
茨木警察署	島上郡 島下郡
堺警察署	堺市
堺警察署	大島郡
岸和田警察署	日根郡

府									
宮田林警察署									
八尾警察署									
志紀郡									
安富郡									
丹南郡									
八上郡									
古市郡									
錦部郡									
石川郡									
南郡									
枚方警察署									
茨田郡									
交野郡									
讚良郡									
安治川水上警察署									
府下水上全部									

神奈川縣									
伊勢佐木町警察署									
久良岐郡ノ 戸太村									
横濱市ノ内 宮田川西北 港橋ヨリ海岸通ニ至ル街路西北									
大岡川北東									
横濱市ノ内 大岡川北 港橋ヨリ海岸通ニ到ル街路東南									
吉田川東南									
大岡川西南									
山手外國人居留地界以北									
久良岐郡ノ 屏風浦村 大岡川村 日下村 金澤村 六浦莊村 中村									
横濱市ノ内 山手外國人居留地界以南									
久良岐郡ノ 水牧村 根岸村									
大住郡									
大磯警察署									
神戶市宇治川以東									
神戶市宇治川以西									
武蔵郡									
荏原郡									
姫路市									
飾東郡									
飾西郡									
兵庫警察署									
西宮警察署									
姫路警察署									

長 崎 縣		庫 縣					
浦上警察署	梅香警察署	長崎警察署	村岡警察署	和田山警察署	豐岡警察署	龍野警察署	福崎警察署
西彼杵郡 内 浦上村 長浦村 江島村 神浦村	西彼杵郡 内 下長崎村 上長崎村 野母村 矢上村 長浦村 江島村 神浦村	長崎市 内 十善寺 外國人居留地境 以南	七美郡 二方郡	養父郡 朝來郡	美含郡 氣多郡	城崎郡 掛西郡 掛東郡	神東郡 神西郡
土井首村 藤原村 喜津村 龜津村 平島村 黒崎村	深堀村 梅島村 大草村 瀬川村 七宝村 三笠村	伊王島村 川原村 伊木力村 大津村 多良村 式見村	高島村 爲石村 長興村 面高村 松島村 福田村	紋燒村 茂木村 時津村 黒瀬村 瀬戸村 浦上山里村	高嶺村 日見村 村松村 村見村 西浦上村		

新 潟 縣			縣			
相川警察署	浦和警察署	桶川警察署	川越警察署	武生水警察署	殿原警察署	長崎水上警察署
羽茂郡 加茂郡 雜太郡	北足立郡 内 浦和町 芝村 大久保村 青木村 戸塚村	北足立郡 内 桶川町 大石村 鴻巣町 吹上村	入間郡 内 川越町 古谷村 高階村 山根村	比企郡 内 楠木村	上縣郡 下縣郡	長崎港水上
	六辻村 尾間木村 葛宮村 横曾根村 川口町	原市町 上尾町 中丸村 小針村	阪戸村 大井村 毛呂村 霞ヶ園村			
	土合村 谷田村 植水村 南平柳村 大門村	双葉村 上平村 馬室村	勝呂村 仙波村 川角村 柏原村			
	美谷本村 三笠村 三橋村 北平柳村 野田村	宮原村 小室村 常光村	三芳野村 南古谷村 南如村 入西村			
	征目村 片柳村 大宮町 新郷村	指扇村 加納村 田間宮村	山田村 日東村 福岡村 大家村			
	戸田村 水崎村 日進村 安行村	平方村 川田谷村 箕田村	田面湯村 奥宮村 越生町			
	藤町 奥野町 鳩ヶ谷町	大谷村 石戸村 小谷村	芳野村 福原村 梅園村			

所澤警察署		飯能警察署		松山警察署		大宮警察署		本庄警察署	
入間郡ノ内 山口村 宗岡村	新座郡 飯能町 高萩村 加治村 入間郡ノ内 入間川町	秩父郡ノ内 香野村 名栗村	秩父郡ノ内 大間村 横見郡 大宮町 大瀧村 大田村 小鹿野町 野上村 矢納村	秩父郡ノ内 大間村 横見郡 大宮町 大瀧村 大田村 小鹿野町 野上村 矢納村	秩父郡ノ内 大間村 横見郡 大宮町 大瀧村 大田村 小鹿野町 野上村 矢納村	秩父郡ノ内 大間村 横見郡 大宮町 大瀧村 大田村 小鹿野町 野上村 矢納村	秩父郡ノ内 大間村 横見郡 大宮町 大瀧村 大田村 小鹿野町 野上村 矢納村	秩父郡ノ内 大間村 横見郡 大宮町 大瀧村 大田村 小鹿野町 野上村 矢納村	秩父郡ノ内 大間村 横見郡 大宮町 大瀧村 大田村 小鹿野町 野上村 矢納村

熊谷警察署		深谷警察署		忍野警察署		加須警察署		岩槻警察署	
男衾郡ノ内 水島村 北埼玉郡ノ内 成田村	男衾郡ノ内 水島村 北埼玉郡ノ内 成田村	男衾郡ノ内 水島村 北埼玉郡ノ内 成田村	男衾郡ノ内 水島村 北埼玉郡ノ内 成田村	男衾郡ノ内 水島村 北埼玉郡ノ内 成田村	男衾郡ノ内 水島村 北埼玉郡ノ内 成田村	男衾郡ノ内 水島村 北埼玉郡ノ内 成田村	男衾郡ノ内 水島村 北埼玉郡ノ内 成田村	男衾郡ノ内 水島村 北埼玉郡ノ内 成田村	男衾郡ノ内 水島村 北埼玉郡ノ内 成田村

縣		祥				馬	
越ヶ谷警察署	幸手警察署	前橋警察署	高崎警察署	澁川警察署	藤岡警察署	伊勢崎警察署	
内 南埼玉郡ノ 越ヶ谷町 榎井村 大森村 蒲生村 出羽村 増林村 新力村 大相模村	内 北埼玉郡ノ 草加町 谷塚村 新田村 三輪野江村 彦成村 早稲田村 旭村 戸ヶ崎村	内 北埼玉郡ノ 松伏領村 八木郷村 吉川村 内 北埼玉郡ノ 幸手町 上高野村 八代村 吉田村 内 南埼玉郡ノ 鷺宮村 久喜町 太田村 須賀村 百間村 内 南埼玉郡ノ 鷺宮村 久喜町 太田村 須賀村 百間村	内 西群馬郡ノ 高崎町 元橋社村 新高尾村 中川村 大畑村 岩鼻村 中川村 大畑村 内 西群馬郡ノ 高崎町 元橋社村 新高尾村 中川村 大畑村 岩鼻村 中川村 大畑村	内 西群馬郡ノ 澁川町 胸寄村 古巻村 白旗井村 明治村 桃井村 伊香保町 豊秋村	内 西群馬郡ノ 金島村 長尾村 小野上村 高山村	多胡郡 佐位郡	

縣		千				葉	
沼田警察署	千葉警察署	佐倉警察署	北條警察署	木更津警察署	佐原警察署		
那波郡 利根郡 北勢多郡 千葉郡 市原郡 印旛郡 下埴生郡 南相馬郡	安房郡 平郡 朝夷郡 長狭郡 笠降郡 天羽郡 周淮郡	香取郡ノ内 佐原町 十倉島村 瑞穂村 八郷村 神里村	金江津村 滑河町 大須賀村 山倉村 古城村	水新島村 小御門村 本大須賀村 森山村 東城村	新島村 東大月村 香西村 中和村 橋村	米澤村 大倉村 香取村 萬歳村 豊里村	津宮村 高岡村 府馬村 笹川村 神代村 栗源村 神崎町 眞文村 小見川町

茨				縣					
石岡警察署	土浦警察署	水戸警察署	茂原警察署	東金警察署	船橋警察署	松戸警察署	福岡警察署		
新治郡ノ内 新治町 七重村 林村 葛籠村	筑波郡ノ内 山ノ莊村 石岡町 新治町 葛籠村	東茨城郡 水戸市 上埴生郡 長柄郡 武射郡 山邊郡	上埴生郡 長柄郡	武射郡 山邊郡	東葛飾郡ノ内 船橋町 國分村 中山村	東葛飾郡ノ内 松戸町 小金町 十倉二村 木間ノ内村 船橋町 新川村 葛飾町 中山村	香取郡ノ内 飯高村 常盤村 豊和村 中村 東條村 久賀村 日吉村 吉田村	匝瑳郡 多古町	匝瑳郡 常盤村 豊和村 中村 東條村 久賀村 日吉村 吉田村
新治郡ノ内 新治町 七重村 林村 葛籠村	筑波郡ノ内 山ノ莊村 石岡町 新治町 葛籠村	東茨城郡 水戸市 上埴生郡 長柄郡 武射郡 山邊郡	上埴生郡 長柄郡	武射郡 山邊郡	東葛飾郡ノ内 船橋町 國分村 中山村	東葛飾郡ノ内 松戸町 小金町 十倉二村 木間ノ内村 船橋町 新川村 葛飾町 中山村	香取郡ノ内 飯高村 常盤村 豊和村 中村 東條村 久賀村 日吉村 吉田村	匝瑳郡 多古町	匝瑳郡 常盤村 豊和村 中村 東條村 久賀村 日吉村 吉田村

奈		縣木柘		縣				城					
那山警察署	奈真警察署	足利警察署	龍ヶ崎警察署	水海道警察署	谷田部警察署	江戸崎警察署	下館警察署	下妻警察署					
添下郡	添上郡 山邊郡	足利郡 梁田郡	河内郡ノ内 龍ヶ崎町 長戸村 八原村	岡田郡	新治郡ノ内 葛城村 田水山村 大磯村	河内郡ノ内 古波村 阿波村 伊崎村 大須賀村 高田村	眞壁郡ノ内 五所村 中村 新治村 河間村 笹野村 竹島村 嘉田生崎村 大田村	眞壁郡ノ内 下妻町 眞壁町 大野村 島羽村 大園村 古里村 黒子村 川西村 上妻村 谷貝村					
添下郡	添上郡 山邊郡	足利郡 梁田郡	河内郡ノ内 龍ヶ崎町 長戸村 八原村	岡田郡	新治郡ノ内 葛城村 田水山村 大磯村	河内郡ノ内 古波村 阿波村 伊崎村 大須賀村 高田村	眞壁郡ノ内 五所村 中村 新治村 河間村 笹野村 竹島村 嘉田生崎村 大田村	眞壁郡ノ内 下妻町 眞壁町 大野村 島羽村 大園村 古里村 黒子村 川西村 上妻村 谷貝村					

重		三		縣		眞											
飯高郡	伊賀郡	名張郡	山田郡	阿拜郡	在懸郡	河山郡	朝明郡	三重郡	廣瀬郡	葛下郡	忍海郡	高市郡	葛上郡	十市郡	式下郡	式上郡	平群郡

岡		靜		縣																																																			
掛川警察署	藤枝警察署	下田警察署	三島警察署	江尻警察署	伊岡警察署	鳥羽警察署	飯野郡	芥志郡	茨波郡	靜岡市	安倍郡	有渡郡之内 長田村	大里村	大谷村	久能村	豊田村	有度村	鹿原郡	有渡郡之内 清水町	入江町	不二見村	三保村	君海郡	田力郡	賀茂郡之内 熱海町 上大見村	多賀村	網代村	宇佐美村	伊東村	小室村	對馬村	那賀郡	賀茂郡之内 上大見村	網代村	宇佐美村	伊東村	小室村	對馬村	下田郡	下田町	濱崎村	朝日村	竹麻村	南崎村	三股村	三股村	賀茂郡之内 南上村 城東村	南中村	稻俣村	稻生澤村	稻取村	上河津村	下河津村	松崎村	岩科村

縣賀滋	縣梨山	縣								
水之本警察署	甲府警察署	澁松警察署			氣賀警察署			見付警察署		
西淺井郡	伊香郡 西山梨郡 甲府市	豐田郡ノ内 敷知郡ノ内 吉津村	中瀬村 濨松町 淺橋村 新津村 新所村	赤佐村 舞阪町 新津村 新所村	龍池村 新居町 篠原村 知波田村	豐西村 中ノ町村	三方原村 入野村 白鵜村	長上郡 長上郡	濱名郡 濱名郡	引佐郡 引佐郡
								東瀬名村 和地村 北庄内村 南庄内村 村橋村 吉野村	豐田郡ノ内 中瀬町 二俣町 池田村 今井村 上阿多古村 下阿多古村 熊村	中泉町 井通村 向笠村 佐久間村
									和地村 北庄内村 南庄内村 村橋村 吉野村	梅原村 天龍村 岩田村 敷地村 下阿多古村 熊村
										山名郡 山名郡
										城東郡 城東郡

城宮	縣					阜			岐	
第伯警察署	原町警察署	鹽釜警察署	北方警察署	掛斐警察署	高田警察署	高須警察署	笠松警察署	岐阜警察署		岐阜市
原原ノ内 高清水村	宮城郡ノ内 原町 玉瀨村 榎前村	宮城郡ノ内 松島村	本荘郡 本荘郡	池田郡 池田郡	大野郡 大野郡	上石津郡 上石津郡	多藪郡 多藪郡	海西郡 海西郡	下石津郡 下石津郡	中島郡 中島郡
富野村	玉瀨村 榎前村	鹽釜町	多智城村	利府村	岩切村	浦戸村	七濱村	高砂村	厚見郡 厚見郡	各務郡 各務郡
一迫村 富野村	七北田村	七郷村	大澤村	花山村	宮野村	藤里村				



縣	若柳警察署	栗原郡ノ内 若柳町	尾松村 大岡村	文字村 畑岡村	栗駒村 有賀村	岩ヶ崎町 金成村	津久毛村 萩野村	鳥矢崎村 澤邊村
縣	磐前多 警察署	磐前郡	磐前郡	磐前郡	磐前郡	磐前郡	磐前郡	磐前郡
縣	檜葉 警察署	檜葉郡	檜葉郡	檜葉郡	檜葉郡	檜葉郡	檜葉郡	檜葉郡
縣	宇行 多方 警察署	宇行郡	宇行郡	宇行郡	宇行郡	宇行郡	宇行郡	宇行郡
縣	大川目 警察署	南九戸郡	北九戸郡 待渡村	大野村 種市村	種市村	種市村	種市村	種市村
縣	輕米 警察署	北九戸郡	輕米村 晴山村	輕米村	伊保内村	葛巻村	戸田村	江刺家村
縣	弘前 警察署	弘前市	弘前市	弘前市	弘前市	弘前市	弘前市	弘前市
縣	山形市 警察署	山形市	山形市	山形市	山形市	山形市	山形市	山形市
縣	南村山郡 警察署	南村山郡	南村山郡	南村山郡	南村山郡	南村山郡	南村山郡	南村山郡

形	東村山郡 警察署	東村山郡	天童町 津山村	高橋村 千布村	山羽村 山寺村	明治村 高瀬村	寺津村 楯山村	藤塚村 成生村
縣	東田川郡 警察署	東田川郡	渡前村 手向村	横山村 立谷澤村	押切村 狹川村	長沼村 瀧川村	八榮島村 大和村	藤島村 十六合村
縣	西田川郡 警察署	西田川郡	八榮里村 余目村	新細村	榮村	廣野村	泉村	常萬村
縣	米澤市 警察署	米澤市	南置賜郡	山添村	黄金村	本郷村	大泉村	東村
縣	秋田 警察署	秋田市	河邊郡	針原村 上瀬町	大久保村	濱黒崎村 大山村	廣田村 月岡村	島村 大莊村
縣	石川 警察署	東磐前郡	金澤市大手通以北	豊田村 太田村	針原村 大久保村	濱黒崎村 大澤野村	廣田村 下夕村	島村 大莊村
縣	富	富	富	富	富	富	富	富



廣		岡 山 縣			縣	
廿日市警察署	海田市警察署	吳警察署	岡山水上警察署	津山警察署	岡山警察署	西郷警察署
佐伯郡ノ内 津原村 原村 淡原村	安藝郡ノ内 海田市町 下瀬野村 草津村 大竹村 三和村	佐伯郡ノ内 飛渡瀬村 深江村 津久茂村	縣下水上全部	東南條郡 西北條郡	御野郡 岡山市	周吉郡 篠地郡 海士郡 知夫郡
津田村 吉和村 殿島町	古田村 小方村 四和村 宮内村 油見村 架谷村 地御前村	中村 如賀村 矢賀村 仁保島村 阪村 牛田村 戸阪村	莊山田村 上瀨刈島村 下瀨刈島村 瀬戸島村 大屋村 渡子島村 熊野村 帶田屋村 倉橋島村			
玖波村 玖島村 木野村	河内村 砂谷村 非口村 觀音村 上水内村 石内村 友原村 甘日市町	鹿川村 三高村 沖村 大佛村				

島						
廣島水上警察署	庄原警察署	府中市警察署	可部警察署	忠海警察署	西條警察署	竹原警察署
佐伯郡	安藝郡 廣島市 三上郡 三上郡 品治郡 高宮郡 沼田郡	品治郡 高宮郡 沼田郡	高宮郡 沼田郡	沼田郡ノ内 入野村 久野村 大崎中野村 東野村	賀茂郡ノ内 西條町 川上村 原村 大野村 大草村 豊濱村 東生口村	賀茂郡ノ内 竹原町 内海村 阿賀村 吉名村 水谷村 田方里村 小谷村
ノ水上				久野村 大崎中野村 東野村 高根島村 名荷村 大長村	吉土賀村 西高屋村 船野跡村 上黒瀬村 板城村 東高屋村 川瀬村 沼田西村 瀬戸田町 藤入寺村 南方村	東野村 野路村 郷原村 下黒瀬村 中黒瀬村 賀永村 川尻村 中黒瀬村 乃美尾村 早田原村 廣村
				船木村 本郷村 高根島村 名荷村 大長村	戸野村 高阪村 久友村 小泉村 大崎南村 下北方村 上北方村 西野村 沼田東村 瀬戸西村 藤入寺村 南方村	御前字村 志和堀村 板城村 東高屋村 西三永村 西志和村 吉川村 榎田村 大栗村 南生口村 大栗村 大栗村 御手洗町



愛		媛	
松山警察署	溫泉郡 久米郡 和氣郡ノ内 伊登村 伊豫郡ノ内 余土村 下浮穴郡ノ内 三内村	三津警察署	風早郡 和氣郡ノ内 三津濱町 興居島村
今治警察署	越智郡 野間郡	小松警察署	周布郡 桑村郡
西條警察署	新居郡 宇摩郡ノ内 別子山村	川之江警察署	宇摩郡ノ内 別子山村 川之江村 上山村 小宮土村 關川村
郡中警察署	伊豫郡ノ内 郡中町 南山崎村	松前村	郡中村
	岡田村	南伊豫村	北伊豫村
	北山崎村		

高知		福	
大洲警察署	喜多郡 内 下浮穴郡ノ内 上灘村 浮穴村 中山村 佐原谷村 出淵村 下藤村 砥部村 原町村	八幡濱警察署	内 西字和郡ノ内 八幡濱町 双岩村 川上村 三机村 伊方村 三崎村 千丈村 神山村
宇和島警察署	北字和郡 南字和郡	高知警察署	高知市 土佐郡
甘木警察署	夜須郡	田主丸警察署	竹野郡 下座郡
福島警察署	上妻郡	小倉警察署	企救郡ノ内 小倉町 芝津村 足立村 朽瀬村 柳ヶ浦村 松ヶ枝村 城野村 東谷村 東紫村 中谷村 西紫村 曾根村 板櫃村

縣		岡														
大限警察署	飯塚警察署	深江警察署	前原警察署	豐津警察署	行市警察署	松崎警察署	久留米警察署	福岡警察署	門司警察署	企救郡ノ内	文字關村	東郷村				
										嘉麻郡ノ内	大限町	碓井村	千手村	足白村	宮野村	熊田村
										穂波郡	庄内村	笠松村	額田村	宮野村	熊田村	
										怡土郡ノ内	深江村	福吉村	一貴山村	長系村	加布里村	
										怡土郡ノ内	雷山村	周船寺村	怡土村			
										志摩郡	仲津郡ノ内	豐津村	被郷村	東原川村	南原川村	節九村
										仲津郡ノ内	今川村	泉村	今元村	仲津村	豐島村	城井村
										京都郡	御井郡ノ内	味飯村	北野村	大城村	金島村	大堰村
										御原郡	三瀬郡ノ内	島飼村				
										久留米市	御井郡ノ内	國分村	上津籠木村	節原村	舍川村	山川村
御井郡ノ内	御井町	高真内村				宮ノ内村										
福岡市	福岡市					弓削村										

分		大														
玉津警察署	國崎警察署	日田警察署	別府警察署	杵築警察署	鶴崎警察署	大分警察署	若津警察署	三瀬郡ノ内	大川町	荒木村	安武村	大善寺村	三瀬村	大塚村		
								西國東郡ノ内	江上村	城島村	青木村	水室村	木佐木村	大塚村	三又村	川口村
								東國東郡ノ内	江上村	久間田村	深武村	蒲池村	大茂村	西平田村	大野島村	
								大分郡ノ内	大分町	西大分町	八幡村	荏原村	豐府村	瀧尾村	東大分村	
								阿南村	東阿南村	谷村	賀來村	山布川村	石城川村	狹間村		
								東庄内村			西原田村	野津原村	諏訪村	西庄内村		
								速見郡ノ内	湯平村							
								北海郡ノ内	川添村	丹生村	西大在村	東大在村	小佐井村	市村		
								速見郡ノ内	杵築町	東村	北杵築村	八阪村				
								東國東郡ノ内	大内村	奈持江村	南安岐村	安岐村	西安岐村	朝來村		
西國東郡ノ内	朝田村															
別府警察署	速見郡ノ内	濱藤町	別府町	石垣村	朝日村	御越村	北山布村	南山布村								
日田警察署	速見郡ノ内	東山香村	中山香村	立石村	山浦村	上村	豐岡村	日田町								
國崎警察署	東國東郡ノ内	藤原村	大神村	川崎村	南端村											
玉津警察署	西國東郡ノ内	竹田津村	上伊美村	伊美村	姫島村	熊毛村	來浦村	宮來村								
西國東郡ノ内	西武藏村	豐崎村	國崎村	小原村	旭川村	武藏村	中武藏村									
西國東郡ノ内	西都甲村	高田町	來細村	河内村	田染村	田原村	東都甲村									
西國東郡ノ内	白野村	三浦村	柳村	三重村	西真玉村	中真玉村	上真玉村									



御名 御璽

明治二十六年十一月二十九日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文  
内務大臣伯爵井上馨

勅令第二百五十五號(官報十一月三十一日)  
中央衛生會官制中左ノ通改正ス  
第六條中醫師十二人ヲ十五人ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
委員中醫師及化學家ノ任期ハ四箇年トス但滿期後再任セラル、コトヲ得  
第十一條第二項中「定員三八トシ」ノ六字ヲ削ル

〔參照〕

勅令第五百五十四號中央衛生會官制(明治二十三年八月四日官報)抄錄  
第六條 委員ハ左ノ各官ヲ以テ之ニ充ツ  
陸軍省醫務局長  
海軍中央衛生會議長  
宮内省待醫局長  
帝國大學醫科大學長  
警視總監  
東京府知事  
内務省衛生局長  
内務省醫務局長  
内務省醫務局長  
内務省醫務局長  
三ノ  
其他醫師十二人化學家三八ヲ以テ委員トス  
委員中醫師化學家内務省醫務局長及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス  
第十一條 中央衛生會ニ委員ヲ選ク上官ノ指圖ヲ承ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス  
書記ハ定員三八トシ内務省ヲ以テ之ニ充ツ

御名 御璽

明治二十六年十一月二十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

朕海軍大學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
勅令第二百五十六號(官報十二月一日)  
海軍大學校條例  
第一條 海軍大學校ハ海軍將校ニ高等ノ學術ヲ教授シ樞要ノ職ニ充ツヘキ者ヲ養成シ竝ニ海軍機關官及軍醫官ニ高等ノ學術ヲ教授スル所トス  
第二條 海軍大學校ノ學科ハ將校科機關科及軍醫科ノ三トス  
將校科ニ於ケル砲術、水雷術及航海術ハ其ノ一科ヲ專修セシム  
第三條 學生ノ學年ハ將校及機關官ハ一箇年半トシ軍醫官ハ一箇年トス  
第四條 海軍大學校ニ左ノ職員ヲ置ク  
校長 海軍少將 一人  
副官 海軍少佐若クハ大尉 一人  
教頭 海軍佐官 一人  
教官 海軍佐官二人 内一人ハ教頭 海軍大尉 二人 海軍機關監 一人  
海軍少佐若クハ大尉若クハ大技士一人 海軍軍醫監 二人 海軍大軍醫 二人 海軍大機關士 一人  
海軍參謀若クハ陸軍各兵科ノ佐尉官一人 水機アル者ヲ以テ兼補ス  
主計長 海軍大主計 一人  
前項定員ノ外木職アル者ヲシテ教官ニ兼務セシムルコトヲ得



第五條 校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ及學術進歩ノ責ニ任ス

第六條 校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第七條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第九條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十一條 海軍大學校ニ於テ教授スル海軍將校、機關官及軍醫官ヲ海軍大學校學生ト稱ス

前項學生ノ外選科生ヲ置キ任意ノ課目ヲ選修セシムルコトヲ得

第十二條 學生ハ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ選拔ス

將校科學生 海軍大尉ニシテ一箇年以上海上勤務ニ服シ身體強健且勤務勵精ニシテ才學發達ノ見込アル者

機關科學生 海軍大機關士ニシテ一箇年以上海上勤務ニ服シ身體強健且勤務勵精ニシテ才學發達ノ見込アル者

軍醫科學生 海軍大軍醫及海軍少軍醫ニシテ身體強健且勤務勵精ナル者

第十三條 學生選拔ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十四條 學生ハ海軍大臣之ヲ命ス

第十五條 卒業試験ニ及第シタル學生ニハ卒業證書ヲ授與ス

第十六條 學生ノ學用品ハ自辨トス但授業ニ要スル書籍及器械等ハ其ノ種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

第十七條 海軍大學校ニ書記四人ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則

第十八條 本令ハ明治二十六年十二月二十日ヨリ施行ス但軍醫科學生ハ明治二十七年三月三十一日マテ之ヲ置カス

御名 御璽

海軍大臣伯喬西鄉從道

明治二十六年十一月二十九日

勅令第二百十七號(官報十二月一日)

海軍兵學校條例

第一條 海軍兵學校ハ海軍將校ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條 海軍兵學校ノ學科ハ砲術、水雷術、運用術、航海術、機關術及普通學トス

第三條 生徒ノ學年ハ四箇年トス

第四條 海軍兵學校ニ練習船ヲ附屬セシムルコトヲ得

第五條 海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長	海軍大佐	一
副官	海軍大尉	二
教頭	海軍少佐	一
砲術教官	海軍少尉	一
水雷術教官	海軍少尉	一
運用術教官	海軍少尉	一
	海軍大尉	三
	海軍少尉	一
	海軍大尉	一
	海軍少尉	一
	海軍大尉	三
	海軍少尉	一

航海術教官	海軍少佐	二
機關術教官	海軍大尉	一
普通學教官	海軍大尉	一
監事長	海軍大尉	一
監事	海軍大尉	一
軍醫長	海軍大尉	一
軍醫	海軍大尉	一
主計長	海軍大尉	一
主計	海軍大尉	一

本條定員ノ外本職アル者ヲシテ教官ニ兼務セシムルコトヲ得

第六條 校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及生徒教育ノ責ニ任ス

第七條 校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第八條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第九條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第十條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十一條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ維持シ及共ノ體育ノ事ヲ掌ル

第十二條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第十四條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條	主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル
第十六條	主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス
第十七條	第五條ニ掲グル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム
	海軍上等兵曹 教員 三人
	海軍機關師 教員 一人
	海軍下士 二十八人 内十八人ハ教員
	海軍書記 五人
	海軍卒 六十八人
第十八條	生徒ハ年齡滿十六年以上十九年未滿ニシテ海軍將校タラシコトヲ志願スル者ニ就キ身體検査及學術試驗ヲ爲シ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所要ノ人員ヲ採用ス
第十九條	左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス
	一 有妻ノ者
	二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
	三 復權ヲ得サル家資分散者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人
第二十條	生徒ノ召募及検査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ告示ス
第二十一條	生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス
第二十二條	生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス
第二十三條	生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ退校セシム
	一 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
	二 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者

三 傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者  
 附則  
 第二十四條 本令ハ明治二十六年十二月二十日ヨリ施行ス但明治二十六年十二月三十一日マテハ  
 機關生徒ヲ置クコトヲ得

朕海軍機關學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月二十九日

海軍大臣伯爵西鄉從道

勅令第二百十八號(官報十二月二日)

海軍機關學校條例  
 第一條 海軍機關學校ハ之ヲ橫須賀ニ置キ海軍機關官ト爲ルヘキ生徒ヲ教育シ竝ニ海軍少機關士  
 候補生ニ技術ヲ專修セシムル所トス  
 第二條 海軍機關學校ノ學科ヲ本科及專科ノ二種トス  
 本科ハ生徒ノ修ムルモノトシ專科ハ造船、造機及造兵ノ三科ニ別テ本科卒業後其ノ科ニ特選セ  
 ラレタル海軍少機關士候補生ノ修ムルモノトス  
 第三條 專科ヲ修ムル海軍少機關士候補生ヲ專科生ト稱ス  
 第四條 生徒ノ學年ハ四箇年トシ專科生ノ學年ハ二箇年トス  
 第五條 海軍機關學校ニ工場ヲ置キ實習ノ用ニ供ス  
 第六條 海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長	海軍機關大監	一人
副官	海軍大機關士	一人
教頭	海軍機關少監	一人
教官	海軍機關少監	一人
監事長	海軍機關少監	一人
監事	海軍大機關士	四人
軍醫長	海軍大軍醫	一人
主計長	海軍大主計	一人
主計	海軍少主計	一人

前項定員ノ外本職アル者ヲレテ教官ニ兼務セシムルコトヲ得  
 第七條 校長ハ海軍大臣ニ繼シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス  
 第八條 校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス  
 第九條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス  
 第十條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス  
 第十一條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス  
 第十二條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ專科生及生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ維持シ其ノ體育ノ事ヲ掌ル  
 第十三條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス  
 第十四條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル  
 第十五條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル  
 第十六條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス  
 第十七條 第六條ニ掲グル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍機關師 教員 二人  
 海軍下士 教員 四人  
 海軍書記 三人  
 海軍技手 教員 十一人 内七人ハ兼務

第十八條 生徒ハ年齢滿十六年以上十九年未滿ニシテ海軍機關官タラシコトヲ志願スル者ニ就キ身體検査及學術試験ヲ爲シ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所要ノ人員ヲ採用ス

第十九條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

- 一 有妻ノ者
- 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
- 三 復讐ヲ得サル家資分散者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ和贖人

第二十條 生徒ノ召募及検査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ告示ス

第二十一條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第二十二條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十三條 生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム

- 一 品行不真或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
- 二 試験ノ成績不真ニシテ卒業ノ目的ナキ者
- 三 傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

第二十四條 専科生ハ須要ニ應ジ海軍少機關士候補生ヨリ海軍大臣之ヲ特選ス

第二十五條 専科生ノ學用品ハ自辨トス但授業ニ要スル書籍及器械等ハ其ノ種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

第二十六條 海軍機關學校ニ機關工練習所ヲ附屬セシム

第二十七條 機關工練習所ハ掌機工及掌備工ト爲ルヘキ機關手及火夫ヲ教育スル所トス

第二十八條 機關工練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

長 海軍機關少監 一人  
 教官 海軍大機關士 三人  
 部長 海軍大機關士 三人 教官ヲ以テ兼補ス

第二十九條 機關工練習所長ハ校長ノ命ヲ承ケ所内一切ノ事務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス

第三十條 機關工練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第三十一條 部長ハ所長ノ命ヲ承ケ部員ノ紀律ヲ維持シ其ノ行狀技術ヲ熟知シ且部員ニ係ル事務ヲ掌理ス

第三十二條 第二十八條ニ掲グル職員ノ外機關工練習所ニ左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍機關師 教員 二人  
 海軍下士 六人 内三人教員  
 海軍卒 九人

第三十三條 機關工練習所ニ於テ教育スル海軍機關手及火夫ハ機關工練習生ト稱ス

第三十四條 機關工練習生ト爲ルヘキ者ハ海軍機關手及三等火夫以上ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ

- 一 年齢三十五年未滿ニシテ身體強健ナル者
- 二 一箇年以上海上勤務ニ服シタル者但四等火夫ヨリ起算ス

三 品行方正ニシテ技能アリ掌機工若クハ掌艦工タルニ堪フヘキ者

四 卒業後七箇年間現役ニ服スヘキ者

五 試験ニ合格シタル者

第三十五條 機關工練習生卒業シタルトキハ掌機工證狀若クハ掌艦工證狀ヲ授與ス其ノ證狀ハ試験ノ成績ニ依リ各二等ニ分ツ

前項ノ證狀ヲ得タル者ハ掌機工又ハ掌艦工ト稱ス

第三十六條 掌機工及掌艦工ニハ臂章ヲ附與シ且加俸ヲ給ス

第三十七條 海軍機關學校ニ技手練習所ヲ附屬セシム

第三十八條 技手練習所ハ鎮守府造船部及海軍造兵廠ノ職工ニシテ造船造機及造兵ノ技手出身志願者ヲ生徒ト爲シ之ヲ教育スル所トス

第三十九條 技手練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

長 海軍少技監若クハ海軍大技士 一人  
 海軍少技監若クハ海軍大技士 一人 所長ヨリ兼務ス

教官 海軍大技士若クハ海軍少技士 二人 所長ヨリ兼務ス

前項定員ノ外本職アル者ヲ以テ教官ニ兼補スルコトヲ得

第四十條 技手練習所長ハ校長ノ命ヲ承ケ所内一切ノ事務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス

第四十一條 技手練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第四十二條 第三十九條ニ掲グル職員ノ外技手練習所ニ教員トシテ技手二人ヲ置ク

第四十三條 技手生徒ト爲ルヘキ者ハ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ

一 年齢滿二十一年以上三十年未滿ノ者

二 品行方正ニシテ將來技手タルニ堪フヘキ見込アル者

三 鎮守府造船部及海軍造兵廠ニ於テ三百日以上現業ニ服シタル者

四 身體検査及學術試験ニ合格シタル者

五 卒業後滿十箇年間海軍ニ従事スヘキ者

第四十四條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ技手生徒ニ採用セス

一 徵兵令第二十八條ニ該ル者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復權ヲ得サル家資分散者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人

第四十五條 技手生徒ニシテ卒業證書ヲ有スル者ハ海軍技手トナルヘキ資格アルモノトス

第四十六條 技手生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第四十七條 第十七條第三十二條及第四十二條ニ掲グル職員ハ海軍機關學校及兩練習所ニ通シテ勤務セシムルコトヲ得

附則

第四十八條 本令ハ明治二十六年十二月二十日ヨリ施行ス

第四十九條 明治二十三年勅令第二百五十三號海軍機關學校條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止シ該校練習生ハ此ノ際志願ニ依リ直ニ機關工練習生ニ採用ス

第五十條 海軍造船工學校官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止シ該校生徒ハ技手生徒トス

朕海軍砲術練習所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月二十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

勅令第二百十九號(官報十二月二日)

海軍砲術練習所條例

第一條 海軍砲術練習所ハ之ヲ横須賀軍港ニ置キ海軍將校及海軍上等兵曹ニ砲術ヲ教授シ並ニ掌砲兵及砲術教員ト爲ルヘキ海軍兵曹及水兵ヲ教育シ且砲術ノ進歩ヲ圖ル所トス

第二條 海軍砲術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 海軍大佐 一人

教官 海軍少佐 一人

分隊長 海軍大尉 五人 教官ヲ以テ兼補ス

分隊士 海軍少尉 四人

軍醫長 海軍大軍醫 一人

軍醫 海軍少軍醫 一人

主計長 海軍大主計 一人

主計 海軍少主計 一人

第三條 所長ハ横須賀鎮守府司令長官ニ隸シ所務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及學術進歩ノ責任ニ任ス

第四條 教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任ス

第五條 前任教官ハ所長ヲ補佐シ所長ノ命令ヲ執行シ所内ノ定則ヲ維持シ所長事故アルトキハ共ノ職務ヲ代理ス

第六條 分隊長ハ隊員ノ紀律ヲ維持シ其ノ行狀技倆ヲ熟知シ且隊員ニ係ル事務ヲ掌理ス

第七條 分隊士ハ分隊長ノ命ヲ承ケ服務ス

第八條 軍醫長ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第九條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條 主計長ハ所長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十一條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條 第二條ニ掲ル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等兵曹 教員 八人

海軍下士 三十三人 内十七人教員

海軍卒 八十九人

前項職員ノ外書記一人ヲ置キ編修ニ從事セシムルコトヲ得

第十三條 海軍砲術練習所ニ於テ砲術ノ教授ヲ受ル海軍將校及海軍上等兵曹ハ左ノ諸項ノ一二該ル者タルヘシ

一 海軍大學校將校科ヲ卒業シタル者

二 海軍大尉以上ニシテ志願ノ者

三 海軍少尉

四 海軍上等兵曹ニシテ海軍砲術練習所ニ於テ砲術ヲ修得シタル者

前項ノ外進級資格ヲ有スル海軍少尉候補生ヲ入學セシムルコトヲ得

第十四條 海軍砲術練習所ニ於テ教育スル海軍兵曹及水兵ヲ砲術練習生ト稱ス

第十五條 砲術練習生ハ掌砲兵トシテ志願スル者砲術教員ト爲スヘキ者及砲術復習ヲ志願スル者ニ就キ採用ス

第十六條 掌砲兵ト爲ルヘキ者ハ海軍三等兵曹以下三等水兵以上ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ

- 一 身體強健、視力完全且品行方正ナル者
  - 二 一箇年以上海上勤務ニ服シタル者但四等水兵ヨリ起算ス
  - 三 卒業後五箇年間現役ニ服スヘキ者
  - 四 試験ニ合格シタル者
- 第十七條 砲術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌砲證狀ヲ有スル海軍兵曹若クハ一等水兵ニシテ卒業後三箇年間現役ニ服スヘキ者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス
- 第十八條 砲術復習ヲ志願スル者ハ身體強健、視力完全且品行方正ニシテ尙掌砲兵タルニ適合シ卒業後三箇年間現役ニ服スヘキ者ニアラサレハ採用セス
- 第十九條 砲術練習生卒業シタルトキハ掌砲證狀ヲ授與ス其ノ證狀ハ試験ノ成績ニ依リ二等ニ分ツ
- 掌砲證狀ヲ有スル者ハ掌砲兵ト稱ス
- 第二十條 砲術教員ト爲スヘキ砲術練習生卒業シタルトキハ砲術教員適任證書及掌砲證狀ヲ授與ス
- 第二十一條 掌砲證狀若クハ砲術教員適任證書ヲ授與シタル者ニハ臂章ヲ附與シ且加俸ヲ給ス
- 第二十二條 掌砲證狀ノ有効期限ハ滿五箇年トシ砲術教員適任證書ノ有効期限ハ滿三箇年トス其ノ期滿レハ臂章ヲ除キ且加俸ヲ止ム
- 第二十三條 海軍砲術練習所ニ練習用トシテ船艇ヲ附屬ス
- 第二十四條 海軍砲術練習所ニ於テ商船學校生徒ニ砲術ヲ教授スルコトヲ得
- 附則
- 第二十五條 砲術練習證條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

御名 御璽

明治二十六年十一月二十九日

海軍大臣伯耆西郷從道

勅令第三百二十號 (官報 十二月一日)

海軍水雷術練習所條例

- 第一條 海軍水雷術練習所ハ之ヲ横須賀軍港ニ置キ海軍將校、海軍機關官及海軍上等兵曹ニ水雷術ヲ教授シ並ニ掌水雷兵、水雷工又ハ水雷術教員ト爲ルヘキ海軍下士卒ヲ教育シ且水雷術ノ進歩ヲ圖ル所トス
- 第二條 海軍水雷術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク
- |     |       |   |
|-----|-------|---|
| 所長  | 海軍大佐  | 一 |
| 教官  | 海軍少佐  | 一 |
|     | 海軍大尉  | 四 |
|     | 海軍大尉  | 八 |
| 分隊長 | 海軍大尉  | 二 |
|     | 海軍少尉  | 八 |
| 分隊士 | 海軍大尉  | 四 |
|     | 海軍少尉  | 八 |
| 軍醫長 | 海軍大軍醫 | 一 |
| 軍醫  | 海軍少軍醫 | 一 |
| 主計長 | 海軍大主計 | 一 |
| 主計  | 海軍少主計 | 一 |
- 第三條 所長ハ横須賀鎮守府司令長官ニ隸シ所務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及學術進歩ノ責ニ任ス
- 第四條 教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任ス

第五條 先任教官ハ所長ヲ補佐シ所長ノ命令ヲ執行シ所内ノ定則ヲ維持シ所長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

第六條 分隊長ハ隊員ノ紀律ヲ維持シ其ノ行狀伎倆ヲ熟知シ且隊員ニ係ル事務ヲ掌理ス

第七條 分隊長ハ分隊長ノ命ヲ承ケ服務ス

第八條 軍醫長ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第九條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條 主計長ハ所長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十一條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條 第二條ニ掲クル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等兵曹 教員 四人

海軍機關師 教員 二人

海軍下士 二十八人内十八教員

海軍卒 七十九人

前項職員ノ外書記一人ヲ置キ編修ニ從事セシムルコトヲ得

第十三條 海軍水雷術練習所ニ於テ水雷術ノ教授ヲ受ル海軍將校、海軍機關官及海軍上等兵曹ハ左ノ諸項ノ一ニ該ル者タルヘシ

一 海軍大學校將校科ヲ卒業シタル者

二 海軍大尉及海軍大機關士以上ニシテ志願ノ者

三 海軍少尉及海軍少機關士

四 海軍上等兵曹ニシテ海軍水雷術練習所ニ於テ水雷術ヲ修得シタル者前項ノ外進級資格ヲ有スル海軍少尉候補生及海軍少機關士候補生ヲ入學セシムルコトヲ得

第十四條 海軍水雷術練習所ニ於テ教育スル海軍下士卒ヲ水雷術練習生ト稱ス

第十五條 水雷術練習生ハ掌水雷兵若クハ水雷工タランコトヲ志願スル者、水雷術教員ト爲スヘキ者及水雷術復習ヲ志願スル者ニ就キ採用ス

第十六條 掌水雷兵ト爲ルヘキ者ハ海軍三等兵曹以下三等水兵以上又水雷工ト爲ルヘキ者ハ海軍三等鍛冶手以下三等鍛冶以上ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ

一 身體強健、視力完全且品行方正ナル者

二 一箇年以上海上勤務ニ服シタル者但四等水兵及四等鍛冶ヨリ起算ス

三 卒業後五箇年間現役ニ服スヘキ者

四 試験ニ合格シタル者

第十七條 水雷術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌水雷證狀ヲ有スル海軍兵曹若クハ一等水兵ニシテ卒業後三箇年間現役ニ服スヘキ者ノ中ヨリ所長之ヲ選抜ス

第十八條 水雷術復習ヲ志願スル者ハ身體強健、視力完全且品行方正ニシテ尙掌水雷兵タルニ適合シ卒業後三箇年間現役ニ服スヘキ者ニアラサレハ採用セス

第十九條 水雷術練習生卒業シタルトキハ掌水雷證狀若クハ水雷工證狀ヲ授與ス其ノ證狀ハ試験ノ成績ニ依リ各二等ニ分ツ

掌水雷證狀ヲ有スル者ハ掌水雷兵ト稱シ水雷工證狀ヲ有スル者ハ水雷工ト稱ス

第二十條 水雷術教員ト爲スヘキ水雷術練習生卒業シタルトキハ水雷術教員適任證書及掌水雷證狀ヲ授與ス

第二十一條 掌水雷證狀、水雷工證狀若クハ水雷術教員適任證書ヲ授與シタル者ニハ臂章ヲ附與シ且加俸ヲ給ス

第二十二條 掌水雷證狀ノ有効期限ハ滿五箇年トシ水雷術教員適任證書ノ有効期限ハ滿三箇年ト



ス其ノ期滿レハ臂章ヲ除キ且加俸ヲ止ム

第二十三條 海軍水雷術練習所ニ練習用トシテ船艇ヲ附屬ス

附則

第二十四條 水雷術練習艦條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○ 朕海軍軍醫學校條例海軍主計學校條例海軍掌砲兵掌水雷兵條例ノ廢止ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月二十九日

海軍大臣伯耆西郷從道

勅令第三百二十一號(官報十二月一日)

○ 海軍軍醫學校條例ハ明治二十七年三月三十一日限り海軍主計學校條例ハ明治二十六年十二月三十日限り海軍掌砲兵掌水雷兵條例ハ海軍砲術練習所條例及海軍水雷術練習所條例施行ノ日ヨリ廢止ス

○ 朕軍艦團隊定員表ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月三十日

海軍大臣伯耆西郷從道

勅令第三百二十二號(官報十二月一日)

軍艦團隊定員表

艦名	大佐少佐		大尉少尉		少佐少尉		少尉少尉		兵四等		兵五等		兵六等		兵七等		兵八等		兵九等		兵十等		計
	大佐	少佐	大尉	少尉	少佐	少尉	少尉	少尉	兵四等	兵五等	兵六等	兵七等	兵八等	兵九等	兵十等	兵十等	兵十等	兵十等	兵十等	兵十等	兵十等	兵十等	
大和	1	1	4	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	22
武藏	1	1	4	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	22
葛城	1	1	4	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	22
天龍	1	1	5	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	23
八重山	1	1	6	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	24
高嶺	1	1	5	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	23
筑波	1	1	5	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	23
比叡	1	1	6	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	24
金剛	1	1	6	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	24
千代田	1	1	6	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	24
高千穂	1	1	7	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	25
浪速	1	1	7	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	25
扶桑	1	1	7	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	25
橋立	1	1	7	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	25
松島	1	1	7	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	25
鹿島	1	1	7	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	25
計	11	11	44	44	22	22	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	220

明治二十六年十二月 勅令 第三百二十二號

四四三



御名 御璽

明治二十六年十二月一日

陸軍大臣伯喬大山 巖

勅令第二百二十三號(官報十二月二日)  
陸軍諸生徒手當金ニ關スル明治二十五年勅令第百十八號中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス  
本令ハ明治二十三年七月ヨリ本令實施迄ノ間ニ於テ本令ニ該當スル者ニモ適用ス

(參照)

- 勅令第百十八號(明治二十五年十二月二十二日官報)  
陸軍軍人ト爲ルヘキ諸生徒ニシテ平時屯營内又ハ野外ニ於テ演習中傷病ヲ受ケ若クハ之ニ原因シテ疾病ニ罹リ將來軍人ノ服役ニ堪ヘス退學ヲ命シタル者ハ左ノ區別ニ依リ一時限手當金ヲ給スルコトヲ得
  - 一 軍人恩給法第九條ノ各項ニ等シキ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキハ同法第三號表ノ各項ニ從ヒ陸軍奉ノ金額六箇年分ヲ給ス
  - 二 軍人恩給法第十四條第二項ニ等シキ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキハ同法第三號表第六項陸軍奉ニ相當スル一箇年分ヨリ少カラズ五百兩分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス
- 前項ノ傷病疾病輕重ノ等差ハ陸軍大臣之リ定ム

陸作業及鐵道會計規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月四日

遞信大臣伯喬黑田清隆  
陸軍大臣伯喬大山 巖  
大藏大臣 渡邊國武

勅令第二百二十四號(官報十二月五日)

明治二十三年勅令第三十三號作業及鐵道會計規則中左ノ通改正ス

第六條中「六月三十日」ヲ「八月三十一日」ト改ム

第九條ニ左ノ三項ヲ加フ

作業事務長又ハ作業支部局長ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入確定額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後二箇月以内ニ共ノ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

作業事務長又ハ作業支部局長ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ共ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ計算書ハ特ニ監督ノ任アル官吏若クハ特ニ所管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第十二條中「第二十八條若クハ第二十九條」ノ十三字ヲ削ル

第十七條第一項中「支出ノ目的」ノ五字ヲ削リ「係給諸給ニ限リ」ヲ「支出科目ノ同一ナルモノハ」ト改メ第二項中「支出ノ目的」ノ五字ヲ削ル

第十八條中「第三十八條」ノ五字ヲ削ル

第十九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十九條ノ二 定額戻入ニ關スル規程ハ會計規則第六十三條第六十四條ノ例ニ依ル

第二十一條 金庫ハ案内仕拂請求書集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂

請求書ヲ受ケタルトキ共ノ仕拂請求書合式ニシテ且豫算各項ノ金額及仕拂元受高ニ超過セサル

トキハ仕拂ヲ爲スヘシ

前項ノ外金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絶スルハ會計規則第四十三條

第四十五條第二項第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル

第二十三條中「調定」ノ二字ヲ削ル

第二十八條 金庫出納役ハ毎月仕拂請求書受領濟額報告書ヲ調製シ其ノ翌月中ニ大藏省ニ送付ス

第二十九條 削除

第四十條第一中「調定」ノ二字ヲ削ル

第四十四條中「會計主務官及」ノ六字及「所屬省又ハ」ノ五字ヲ削リ「事務管理廳」ノ下ニ「若クハ特ニ監督ノ任アル官吏」ノ十三字ヲ加フ

第四十五條中「仕拂元受高」ノ下「確定額」ノ三字及「支出未濟額」ノ五字ヲ削ル

第四十八條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額仕拂請求書受領濟額ヲ登記シ又仕拂元受高

差引簿ヲ備ヘ仕拂元受高仕拂請求書受領濟額仕拂額ヲ登記スヘシ

第五十條中「出納官吏」ヲ「當該官吏」ト改ム

第五十三條中「鐵道局長官」ヲ「鐵道局長」ト改ム

附則

本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第三十三號作業及鐵道會計規則(明治二十三年三月二十日)抄録

第六條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ各省豫定經費請求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十二條 作業所ノ收入官吏ハ會計規則第二十五條第二十六條第二十八條若クハ第二十九條ノ手續ニ依リ收入ヲ取扱フヘシ

第十七條 仕拂請求書ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名仕拂ヲ請求スル金額支出科目年度番號支出ノ目的ヲ記載スヘシ但作

給請給ニ限リ集合仕拂請求書ヲ發シ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得

現金前渡ノ仕拂請求書ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格氏名前渡ヲナスヘキ金額支出科目年度番號支出ノ目的ヲ記載スヘシ

第十八條 仕拂請求取扱ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條第三十八條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル

第二十一條 金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絶スルハ會計規則第四十三條第四十五條第四十六條

仕拂命令取扱ノ例ニ依ル

第二十三條 毎年度内ニ仕拂ヲナスヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ仕拂請求書ヲ發セサルモノハ支出未濟トシテ順次翌年度

ニ繰越シ當該年度經過後滿五年内ハ支出ノ請求アル毎ニ仕拂請求書ヲ發スヘシ但支出未濟ノ繰越額ハ支出調定濟額ト

合シテ豫算額ヲ超過スルヲ得ス

第二十八條 會計主務官ハ其調定シタル支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ依リ毎月支出報告書ヲ調製シ察照書類ヲ添ヘ翌月十

五日マテニ所管大臣ヲ經山シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ但作業支部局ノ會計主務官ハ其支出報告書ヲ翌月七日マテニ

作業事務本局ノ會計主務官ニ送付スヘシ

第二十九條 作業事務本局ノ會計主務官ハ作業全部ノ支出合計表ヲ調製シ諸會計主務官ノ支出報告書ニ添付シ前條ノ手續

ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十條 拂出ニ關スルモノ左ノ如シ

第一 歳出ノ支出調定濟額

第四十四條 會計規則第九十五條ノ例ニ依リ會計主務官及收入官吏ノ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ所屬省又ハ事務管

理廳ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第四十五條 大藏省ハ各作業會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入濟額收入未濟額歳出ノ豫算額仕拂元受高確定額

支出濟額支出未濟額ヲ登記スヘシ

第四十八條 會計主務官ハ支出簿調定總計簿ヲ備ヘ支出簿ニハ歳出ノ豫算額確定額支出調定濟額支出未濟額ヲ登記シ

調定總計簿ニハ仕拂元受高支出調定濟額ヲ登記スヘシ

第五十條 本規則ニ依リ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程格式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ム

第五十三條 此規則ニ於テ作業事務本局ハ鐵道局長官、造幣局長官、印刷局事務本局長官、國製鐵所長、東京砲兵工廠總理、大阪砲兵

工廠總理、千住製鐵所長ヲ謂フ

電信燈塔用品製造所及廣島鐵山ニ於テハ其事務管理長ヲ以テ作業事務本局長トス

陸軍省府造船材料資金會計規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月四日

海軍大臣 伯耆西郷從道  
大藏大臣 渡邊國武

勅令第二百二十五號(官報 十二月五日)

明治二十三年勅令第三十四號陸軍省府造船材料資金會計規則第十二條中「出納官吏」ヲ「當該官吏」ト改

附則

本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

(參照)

勅令第三十四號陸軍省府造船材料資金會計規則(明治二十三年三月二十日)抄録  
第十二條 水規則ニ依リ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ム

陸軍省立學校及圖書館會計規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月四日

大藏大臣 渡邊國武  
文部大臣 井上 毅

勅令第二百二十六號(官報 十二月五日)

明治二十三年勅令第五十三號官立學校及圖書館會計規則中左ノ通改正ス

第十二條中「六月三十日」ヲ「八月三十一日」ト改ム  
第十四條ニ左ノ三項ヲ加フ

學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入確定額計算書ヲ調製シ證明書類ヲ添ヘ年度經過後二箇月以内ニ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證明書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ計算書ハ特ニ所管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第十七條ニ左ノ二項ヲ加フ

所管大臣ハ學校若クハ圖書館ノ支部長ヲシテ歳出豫算ノ一部ヲ執行セシメントスルトキハ仕拂豫算ヲ以テ之ヲ命スヘシ

仕拂豫算ニ關スル規程ハ會計規則第二章第三款ノ例ニ依ル

第十八條中「第二十八條若クハ第二十九條」ノ十三字ヲ削リ「學校長又ハ圖書館長」ヲ「學校長圖書館長又ハ其ノ支部長」ト改ム

第十八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十八條ノ二 學校又ハ圖書館ハ當該年度ノ歳入歳出額ヲ以テ仕拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ仕拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス

第十九條第二十條第二十二條中「學校長又ハ圖書館長」ヲ「學校長圖書館長又ハ其ノ支部長」ト改ム  
第二十條第二項  
在外國人藝術家又ハ學術研究旅行者ニ物品ノ購買採集若クハ實驗ヲ委託スル場合ニ於テハ其ノ

委託ヲ受ケタル在外國人藝術家又ハ學術研究旅行者ヲ受取人トシテ仕拂請求書ヲ發シ概算ヲ以テ現金ヲ交付スルコトヲ得

第二十一條中「學校長又ハ圖書館長ヲ」學校長圖書館長又ハ共ノ支部長ト改メ「豫算ニ違フコトナキヤ」豫算ノ目的ニ違フコトナキヤ金額ハ豫算定額及仕拂元受高ニ超過スルコトナキヤト改メ

第二十三條中「支出ノ目的ノ五字ヲ削リ」條給生徒給與ニ限リ「支出科目ノ同一ナルモノハ」ト改メ

第二十四條中「學校長又ハ圖書館長ヲ」學校長圖書館長又ハ共ノ支部長ト改メ「第三十八條ノ五字ヲ削ル

第二十五條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第二十五條ノ二 定額戻入ニ關スル規程ハ第二十五條ノ三ニ定メタル期限ノ外總テ會計規則第六章第三款ノ例ニ依ル

第二十五條ノ三 各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

第二十七條 金庫ハ案内仕拂請求書集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂請求書ヲ受ケタルトキ共ノ仕拂請求書合式ニシテ且豫算各項ノ金額及仕拂元受高ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ

前項ノ外金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絕スルハ會計規則第四十三條第四十五條第二項第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル

第二十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂請求書受領濟額報告書ヲ調製シ共ノ翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ

第三十八條 出納官吏ニ關スル規則ハ本條第二項ニ定メタル期限ノ外總テ會計規則第八章ノ例ニ依ル

依ル

會計規則第九十五條ノ例ニ依リ收入官吏ノ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ事務管理廳ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第三十九條中「歳出ノ豫算額」下「確定額」ヲ「仕拂元受高」ト改メ「支出未濟額」ノ五字ヲ削ル

第四十一條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額仕拂請求書受領濟額ヲ登記シ又仕拂元受高差引簿ヲ備ヘ仕拂元受高仕拂請求書受領濟額仕拂額ヲ登記スヘシ

第四十三條中「出納官吏」ヲ「當該官吏」ト改メ

附則

本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第五十三號官立學校及圖書館會計規則(明治二十三年三月二十八日官報)抄録

第十二條 歳入歳出豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ各省豫定經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十四條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十七條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣學校長若クハ圖書館長ニ命ジテ之ヲ執行セシムヘシ

第十九條 學校長又ハ圖書館長ハ經費ヲ支出スル爲メ仕拂命令官ノ責任ヲ以テ金庫ニ向ヒテ仕拂請求書ヲ發スヘシ

第二十條 學校長又ハ圖書館長ハ正當債主若クハ其代理人ノ爲メニスルニテ仕拂請求書ヲ發スルコトヲ得ス在外國人又ハ學術研究旅行者ニ物品ヲ購置シ委託スル場合ニ於テハ其委託ワナシタル在外國人又ハ旅行者ヲ請取人トシテ仕拂請求書ヲ發シ以テ現金ヲ交付スルコトヲ得

學術試験用品購入費獎學費生徒費事務費ニ限リ所管大臣ノ定ムル所ニ依リ身元保證金額ノ二倍ヲ極度トシ學校會社主任ノ官吏ニ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得

所管大臣ハ前項ニ依リ現金前渡ヲナスヘキ費目及金額ヲ定メタルトキハ之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第二十一條 學校長又ハ圖書館長ハ總テ仕拂請求書ヲ發スル前共支出ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ其金額ヲ算定シ又其支出ハ豫算ニ違フコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ照ルコトナキヤヲ調査スヘシ

第二十二條 學校長又ハ圖書館長ハ歳出豫算明細書ニ定メタル費目ノ被差流用ヲ要スルトキハ所管大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
 第二十三條 仕拂請求書ニハ受取人ノ氏名(概算渡現金前渡ノ場合ニハ受取人ノ資格トモ)仕拂ヲ要スル金額支出科目年度番號支出ノ目的ヲ記載スヘシ但條給生徒給與ニ限リ集合仕拂請求書トシテ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得  
 第二十四條 學校長又ハ圖書館長ノ發シタル仕拂請求取扱ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條第三十八條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル  
 第二十七條 金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絕スルハ會計規則第四十三條第四十五條第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル  
 第二十九條 會計主務官ハ其支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月支出調定豫算報告書ヲ調製シ豫算額ヲ添ヘ翌月五日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ  
 第三十八條 出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章ノ例ニ依ル  
 第三十九條 大藏省ハ各學校圖書館會計ノ主計簿ヲ備ヘ記入ノ豫算額確定額收入未濟額支出ノ豫算額確定額支出未濟額支出未濟額ヲ登記スヘシ  
 第四十一條 會計主務官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額確定額支出調定額未濟額ヲ登記スヘシ  
 第四十三條 本規則ニ依リ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

朕官設鐵道用品資金會計規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月四日

遞信大臣 伯爵 黒田清隆  
大藏大臣 渡邊國武

勅令第二百二十七號(官報十二月五日)

明治二十六年勅令第七十一號官設鐵道用品資金會計規則中左ノ通改正ス

第八條第一中調定ノ二字ヲ削ル

第十三條中出納官吏ヲ當該官吏ト改ム

附則

本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

(參照)

勅令第七十一號官設鐵道用品資金會計規則(明治二十六年七月十四日官報)抄録

第八條 受拂勘定ノ拂出ニ關スルモノ左ノ如シ

第一 歳出ノ支出調定額

第十三條 本規則ニ依リ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ル

朕官有ノ建物及其ノ附屬物ヲ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡貸渡スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月五日

内閣總理大臣 伯爵 伊藤博文  
大藏大臣 渡邊國武

勅令第二百二十八號(官報十二月六日)

官有ノ建物及其ノ附屬物ヲ公用ニ供スル爲メ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡シ又ハ貸渡ストキハ競争ニ付セス隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

朕海軍各軍法會議主理錄事服務並定員ニ關スル明治二十三年勅令第二百四十六號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月八日

海軍大臣 伯爵 西鄉從道

勅令第二百二十九號(官報十二月九日)  
海軍各軍法會議主理錄事服務並定員ニ關スル明治二十三年勅令第二百四十六號中左ノ通改正ス  
第一條中職務ヲ執行スルノ外ノ下ニ東京軍法會議ニ於テハ海軍大臣、鎮守府軍法會議ニ於テハ鎮  
守府司令長官ノ命ヲ承ケノ三十七字ヲ加フ

第二條 削除

第五條 各軍法會議ヲ通シテ主理ハ十二人、錄事ハ十三人ヲ以テ定員トス

〔參照〕

勅令第二百四十六號(明治二十三年十月二十日官報)抄錄

第一條 各軍法會議ノ上席主理ハ海軍法會議ニ依リ職務ヲ執行スルノ外其軍法會議ノ庶務ヲ幹理ス

第二條 各軍法會議ノ上席主理ハ長官ヨリ處刑及治罪ニ關スル諮問アルトキハ其意見ヲ述フ

第五條 主理錄事ノ定員左ノ如シ

東京軍法會議	主理	四	錄事	四
橫濱鎮守府軍法會議	主理	三	錄事	五
吳鎮守府軍法會議	主理	三	錄事	四
佐世保鎮守府軍法會議	主理	三	錄事	四

朕農事試驗場分析手數料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十一日

農商務大臣 伯耆後藤 繁二郎

勅令第二百三十號(官報十二月十二日)

第一條 農事試驗場ニ分析ノ依頼ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一、土壤及肥料ノ定性分析ハ一成分毎ニ金三十錢トス

二、土壤ノ定量分析ハ一成分金二圓トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ

三、土壤ノ普通含有セサル成分ノ定性ハ一成分毎ニ金二圓トシ其ノ定量ハ一成分毎ニ金五圓トス

四、肥料ノ定量分析ハ一成分金五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金二十五錢ヲ加フ

但水分及灰分全量ノ定量ハ各金十錢トス

五、農産物及飼料ノ有機質成分ノ定量ハ一成分金五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金三十錢ヲ加フ

但水分及可燃物全量ノ定量ハ各金十錢トス

六、農産物及飼料ノ灰分ノ定量ハ一成分金五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金三十錢ヲ加フ

但灰分全量ノ定量ハ金十錢トス

七、農産製造品ノ定性分析ハ一成分毎ニ金五十錢トス

八、農産製造品ノ定量分析ハ一成分金一圓五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ

九、水ノ定性分析ハ一成分金二圓トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ

十、水ノ定量分析ハ一成分金三圓トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ

十一、以上列記シタルモノ、外農業上ニ關係アル物料ノ分析手數料ハ前示ノ割合ニ準シ時々農

商務大臣ノ定ムル所ニ依ル



第二條 前條ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

附 則

第三條 本令ハ明治二十六年十二月十五日ヨリ施行ス

朕監軍部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十六年十二月十六日

内閣總理大臣伯耆伊藤博文  
陸 軍 大 臣 伯耆大山 巖

勅令第二百三十一號(官報 十二月十八日)

監軍部條例中左ノ通改正ス

第六條 中將校學校監一人ヲ置キ少將ヲ以テ之ニ補シ十九字ヲ削ル

第七條 中將校學校監ノ下ニ副官一人ヲ置キ中少佐及大尉ヲ以テ之ニ補シ二十八字ヲ削ル

第八條 左ノ通り改ム

士官學校戸山學校幼年學校教導團及將校生徒試驗常設委員ハ直ニ監軍ニ隸ス

第九條 左ノ通り改ム

〔參照〕

勅令第十八號監軍部條例(明治二十年六月二日官報)抄録

第六條 監軍ノ下ニ將校學校監一人ヲ置キ少將ヲ以テ之ニ補シ騎兵監一人ヲ置キ少將若クハ騎兵大佐ヲ以テ之ニ補シ野戰砲兵監一人ヲ置キ少將若クハ砲兵大佐ヲ以テ之ニ補シ要塞砲兵監一人ヲ置キ少將若クハ砲兵大佐ヲ以テ之ニ補シ工兵監一人ヲ置キ少將若クハ工兵大佐ヲ以テ之ニ補シ輜重兵監一人ヲ置キ輜重兵大(中)佐ヲ以テ之ニ補ス

第七條 將校學校監ノ下ニ副官二人ヲ置キ中少佐及大尉ヲ以テ之ニ補シ騎兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ騎兵少佐及騎兵大尉ヲ以テ之ニ補シ各砲兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ砲兵少佐及砲兵大尉ヲ以テ之ニ補シ工兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ工兵少佐及工兵大尉ヲ以テ之ニ補シ輜重兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ輜重兵大尉ヲ以テ之ニ補ス  
第八條 將校學校監ハ將校學校ノ教育ヲ統轄シ士官學校及幼年學校ヲ管轄ス但陸軍大學校ハ營分ノ内務課本部ノ管轄ニ屬ス  
第九條 戸山學校及教導團ハ直ニ監軍ノ管轄ニ屬ス

朕陸軍砲工學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣伯耆大山 巖

勅令第二百三十二號(官報 十二月十八日)

陸軍砲工學校條例中左ノ通改正ス

第二條 ノ職員中副官砲兵若クハ工兵大尉同中尉ヲ砲兵若クハ工兵大(中)尉ニ改ム

第十二條 左ノ如ク改ム

校長ハ每學年ノ終リニ於テ教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ以テ修得證明書ヲ作リ之ニ署名捺印シ野戰砲兵ノ學生ハ野戰砲兵監ニ要塞砲兵ノ學生ハ要塞砲兵監ニ工兵ノ學生ハ工兵監ニ進達シ各監ハ之ヲ監軍ニ呈ス又別ニ一本ヲ製シ師團長ヲ經テ之ヲ本人所屬ノ隊長ニ交附スヘシ

第十三條 左ノ如ク改ム

本校ニ所要ノ馬匹及其材料ハ士官學校所要ノモノヲ兼用ス

〔參照〕

勅令第七十六號陸軍砲工學校條例(明治二十二年六月一日官報抄録)

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 砲兵若クハ工兵大佐  
副官 砲兵若クハ工兵大尉同中尉  
教官 砲兵若クハ工兵大尉同中尉  
軍吏 砲兵若クハ工兵大尉同中尉

第十二條 毎學年ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メテ會議シ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ以テ修得證明書ヲ作ラシム但修得證明書ニハ當該教官署名捺印スルモノトス  
校長ハ修得證明書ニ意見ヲ加ヘ署名捺印シテ野砲砲兵ノ學生ハ野砲砲兵監ニ要塞砲兵ノ學生ハ要塞砲兵監ニ工兵科學生ハ工兵監ニ進達シ監ハ之ヲ陸軍ニ呈ス又別ニ一木ヲ製シ師團長ヲ經テ之ヲ本人所屬ノ隊長ニ交付スヘシ  
第十三條 學生所要ノ馬匹ハ陸軍士官學校監署ノモノヲ以テ供用セシム

朕陸軍士官學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第二百三十三號(官報 十二月十八日)

陸軍士官學校條例

第一條 陸軍士官學校ハ陸軍各兵科ノ士官候補生ヲ召集シテ生徒トナシ初級士官タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

大佐

副官

中尉

教官

中尉

馬術教官

騎兵大尉

中隊長

大尉

中隊附士官

中尉

軍醫

獸醫

軍吏

第三條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第四條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官及下士陸軍屬ヲ置ク

第五條 武官教官ハ各學科ノ教授ヲ分擔シ其中佐若クハ少佐ノ教官ヲ以テ科長トス

第六條 各科長中戰術軍制學科長ハ本科教授ノ外副官ニ屬スル術科ノ監督ヲ兼ヌルモノトス

第七條 馬術教官ハ諸生徒ノ馬術及騎兵科生徒ノ教練ニ任シ兼テ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌理ス其下ニ騎兵科下副官同下士ヲ置ク

第八條 文官教官ハ外國語學科ノ教授ヲ分擔ス尙ホ教授ノ外助教ヲ置ク

第九條 中隊長ハ專ラ副官ノ事ヲ掌リ中隊附士官ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシメ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且ツ内務及室内ノ整頓竝ニ生徒ノ行狀ヲ監視スルヲ任トス

第十條 中隊附士官ハ中隊長ノ下ニ在テ副官ノ諸科目ヲ分擔シ殊ニ生徒ノ身上ニ就テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルヲ任トス但シ騎兵科士官ハ生徒ノ馬術及騎兵科生徒ノ教練上ニ就テハ馬術教官ニ隸ス

第十一條 中隊附士官ハ總テ校内ノ官舎ニ居住シ生徒ノ監視ニ便ナラシム

第十二條 各中隊ニ下副官及下士ヲ置キ下副官ハ中隊ノ庶務ヲ整理シ下士ハ武器被服諸給與炊  
 爨等ノ事ヲ掌ル但シ下士中ノ若干員ハ本文勤務ノ外劔術體操ノ助教ヲ分擔ス

第十三條 兵卒ヲ師團各隊ヨリ分遣セシメ生徒ノ使用ニ供フ

第十四條 軍醫ノ下ニ看護長獸醫ノ下ニ蹄鐵工長(下長)軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第十五條 生徒ノ學期ハ一年七箇月トシ毎年十二月上旬ニ始リ翌々年六月下旬ニ終ルモノトス

第十六條 生徒ハ二中隊ニ編制シ各中隊ハ同學期ノ生徒ヲ以テス

第十七條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ士官學校長案ヲ具シ監軍ニ進達シ其認  
 可ヲ得テ之ヲ定ム

第十八條 生徒ハ其兵籍素ヨリ本隊ヲ離ルハコトナシト雖モ入校中ハ總テ本校ノ管轄トス

第十九條 生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ據ル

第二十條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第二十一條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校歸隊セシム

其一 學術科ノ豫習全カラズシテ實際勤務練習ノ識力ニ乏シク卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢々法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ悔悟ノ目途ナキ者

其四 自己ノ不攝生ヨリ發病シ久シク休業スル者

其五 長病ニ由リ卒業ノ目途ナキ者

第二十二條 校長ハ學期ノ終リニ於テ生徒ノ卒業試験ヲ施行シ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ  
 全學期中ノ諸結果ト卒業試験ノ成績ヲ對照シ序列ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ監軍ノ認可  
 ヲ得テ教則ニ定ムル所ノ課程卒業ノ證書ヲ附與ス

第二十三條 學期中ノ諸結果劣等ノ爲メ卒業試験ヲ受クルヲ得ス若クハ卒業試験ニ落第セシ者ハ

本條例第二十一條ニ據ル

第二十四條 毎年七月中旬ヨリ九月上旬マテノ間ニ於テ凡ソ六週間生徒ニ休暇ヲ與フ此間校附諸  
 官ハ教科書編纂訂正等ノ事ニ服ス

第二十五條 毎年六月全學期ヲ終リタル生徒ノ教授及訓育ニ任セシ教官及中隊長中隊附士官ハ九  
 月上旬ヨリ十一月中旬マテノ間師團各隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

第二十六條 前條隊附勤務ヲ爲スニハ中隊長及中隊附士官ハ各本科ノ兵隊ニ限ルト雖モ教官ニ在  
 テハ歩騎砲工輜重兵隊中ニ就キ已レノ屬スヘキ兵種ヲ希望スルコトヲ得

第二十七條 本校ニ所要ノ馬匹及其材料ヲ備フ其馬匹材料ハ他諸學校ニ兼用ス

第二十八條 生徒野營演習ノ際所要ニ依リ校園若クハ第一師團ノ諸隊ヲ使用スルコトヲ得

朕陸軍幼年學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第二百三十四號(宣報 十二月十八日)

陸軍幼年學校條例

第一條 陸軍幼年學校ハ陸軍幼年生徒ニ概テ尋常中學ト同一ナル教授並ニ軍人ノ豫備教育ヲ與ヘ  
 陸軍各兵科ノ士官候補生ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 佐官

副官 大(中)尉  
 教官 陸軍教授  
 馬術教官 騎兵中尉  
 中隊長 大尉  
 中隊附士官 中尉  
 軍醫  
 軍吏

第三條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス  
 第四條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士及陸軍屬ヲ置ク  
 第五條 教官ハ各學科ノ教授ヲ分擔ス尙ホ教授ノ外助教ヲ置ク  
 第六條 馬術教官ハ生徒馬術ノ教練ニ任ス其下ニ騎兵科下士ヲ置ク  
 第七條 中隊長ハ專ラ訓育ノ事ヲ掌リ中隊附士官ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシメ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且内務及室内ノ整頓並ニ生徒ノ行狀ヲ監視スルヲ任トス  
 第八條 中隊附士官ハ中隊長ノ下ニ在テ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ殊ニ生徒ノ身上ニ就テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルヲ任トス  
 第九條 中隊附士官ハ總テ校内ノ官舎ニ居住シ生徒ノ監視ニ便ナラシム  
 第十條 各中隊ニ下副官及下士ヲ置キ下副官ハ中隊ノ庶務ヲ整理シ下士ハ武器被服諸給與炊爨等ノ事ヲ掌リ且シ劍術及體操ノ助教ヲ分擔ス  
 第十一條 軍醫ノ下ニ看護長軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク  
 第十二條 生徒ハ官費半官費自費ノ三種ニ分ツ  
 官費生徒ハ一切ノ經費ヲ官給シ且手當金ヲ給ス半官費生徒ハ小被服膳料ノ經費自費生徒ハ被服

糧食一切ノ經費ヲ納メシム其金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム  
 第十三條 戰死シタル平時公務ノ爲メ死亡シ 將校同相當官 高等文官ノ孤兒ハ官費生徒トス  
 第十四條 前條ノ外官費生徒 半官費生徒 自費生徒ト爲スヘキ者ハ監軍之ヲ裁定ス  
 第十五條 前條ノ區分ハ專ラ資産ノ多少ヲ察知シ之ニ應シテ取捨スヘシト雖モ仍ホ左ニ列記スル者ハ特ニ願慮スヘシ

其一 在職士官ノ子弟  
 其二 現職ニアラサル上長官ノ子弟  
 其三 死亡シタル將校同相當官ノ子弟  
 其四 前三項ニ均シキ高等文官ノ子弟  
 其五 在職上長官現職ニアラサル將官同相當官ノ子弟  
 其六 前項ニ均シキ高等文官ノ子弟

第十六條 生徒修學期限ハ三箇年トス而シテ其一年期ハ九月上旬ニ始マリ翌年七月上旬ニ終ル但最終ノ一年期ハ翌年五月中旬ニ終ル  
 第十七條 生徒ハ之ヲ二中隊ニ編成ス  
 第十八條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ幼年學校長案ヲ具シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ之ヲ定ム  
 第十九條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス  
 第二十條 第三年生徒中特ニ學術ニ長シ品行方正ニシテ他ノ望標トナルモノ若干員ヲ撰拔シ會長ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシム  
 第二十一條 校長ハ學期末ニ於テ生徒ノ卒業試験ヲ施行シ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ全學

期中ノ諸結果ト卒業試験ノ成績ヲ對照シ序列ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ監軍ノ認可ヲ得テ教則ニ定ムル所ノ課程卒業ノ證書ヲ附與ス其學術品行共ニ優等ナル者ハ同時ニ二等軍曹ノ階級ニ進ルコトヲ得

第二十二條 生徒中定期内ニ卒業シ得サル者ト雖モ尙ホ望ミアル者ハ定期外一箇年延期修學セシムルコトヲ得

第二十三條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

其一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢々法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ悔悟ノ目途ナキ者

其四 病ニ由リ卒業ノ目途ナキ者

但自己ノ不攝生ヨリ生セサル長病ニシテ尙ホ卒業ノ見込アル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトヲ得

第二十四條 生徒中全學期ヲ終ルモ病氣其他ノ事故ニ因リ士官候補生ト爲スヲ得サル者ハ單ニ教則卒業ノ證書ヲ附與シ退校セシム

第二十五條 前三條ニ該ル者アルトキハ幼年學校長事由ヲ悉シ監軍ニ上申シ監軍之ヲ裁定處分ス

第二十六條 毎年七月中旬ヨリ八月下旬ノ間ニ於テ凡ソ三十日間生徒ニ休暇ヲ與フ此間校附諸官ハ教科書編纂訂正等ノ事ニ服ス

第二十七條 毎年六月上旬ヨリ八月下旬マテ中隊附士官若干ヲ師團本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲナサシム

第二十八條 本校ニ所要ノ馬匹及其材料ハ士官學校所要ノモノヲ兼用ス

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第二百三十五號(官報十二月十八日)

陸軍乘馬學校條例中左ノ通改正ス

第十七條左ノ如ク改ム

校長ハ學期ノ終リニ於テ教官ヲ集メ學生修學ノ成績ヲ調査シ學術成績表ヲ製シ騎兵監ニ呈シ士官ニアリテハ學術修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニアリテハ考科列序ヲ定メ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交附ス尙ホ下士ニハ學術修得ノ證ヲ附與ス

〔参照〕

勅令第十三號陸軍乘馬學校條例(明治二十一年三月二十二日官報抄録)

第十七條 學期ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メ學生修學ノ成績ヲ調査シ士官ニアリテハ修得證明書ヲ作り校長之ニ署名捺印シ下士ニアリテハ考科列序ヲ定メ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交附ス尙ホ下士ニハ學術修得ノ證ヲ附與ス

朕陸軍教導團條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第二百三十六號(官報十二月十八日)

明治二十六年十二月 勅令 第二百三十五號 第二百三十六號

陸軍教導團條例中左ノ通改正ス  
第四條中ノ職員ヲ左ノ如ク改ム

- 團長 歩兵佐官
- 副官 大(中)尉
- 病院長 二等軍醫正
- 生徒隊長 大尉
- 生徒隊附 中尉
- 歩兵生徒隊副官 中尉

第五條中「維持シ」ノ下ニ「教育一般ノ事ヲ總括シ且」ノ十一字ヲ加フ  
第八條ヲ左ノ如ク改ム

軍醫ノ下ニ看護長藥劑官ノ下ニ調劑手獸醫ノ下ニ蹄鐵工(下)長軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク  
第九條中「經理」以下二十六字ヲ削リ「團長ニ隸スト雖モ各科専門ノ教育ニ就テハ尙ホ當該兵監ニ屬  
ス」ト改ム  
附則ノ二字及第十九條ヲ削ル

〔參照〕

勅令第四百七號陸軍教導團條例(明治二十三年三月二十六日官報抄録)  
第四條 本團ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

- 團長 歩兵大佐若クハ歩兵中佐
- 副官 中尉
- 病院長 二等軍醫正
- 生徒隊長 少佐
- 隊附士官 大尉
- 歩兵砲兵生徒隊副官 中尉
- 軍醫 中尉
- 藥劑官 中尉

第五條 團長ハ陸軍ニ隸シ本團ノ軍紀風紀ヲ維持シ經理事務ヲ召集事務及人事ヲ統轄シ歩兵生徒隊長ヲ兼ヌ  
第八條 本部ノ經理事務ハ歩兵生徒隊ノ一等軍吏之ヲ兼掌ス  
第九條 騎兵野戰砲兵工兵輜重兵科ノ生徒隊長ハ經理事務ヲ召集事務及人事ニ就テハ團長ニ隸シ教育上ニ就テハ各當該ノ  
兵監ニ隸ス  
附則  
第十九條 從前ノ教導團生徒中陸軍諸卒ヨリ採用シタル者ニシテ第十六條ニ依リ退團セシムル者ハ入團前ノ服役日數ヲ通  
算シ成規ノ年期間現役豫備役後備役ニ服セシム

朕陸軍將校生徒試験委員條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第二百三十七號(官報十二月十八日)

陸軍將校生徒試験委員條例中左ノ通改正ス

第二條ヲ左ノ如ク改ム

常置委員ハ士官候補生幼年學校生徒及一年志願兵志願者ノ試験問題ヲ起草シ而シテ士官候補生幼年學校生徒志願者試験ノ成績ヲ調査スルモノニシテ監軍ニ隸ス其職員左ノ如シ

委員長

大佐

委員

中少佐大尉

特ニ委員中ノ一人ニ命ジ試験ニ關スル事務ヲ取扱ハシム

第六條ヲ左ノ如ク改ム

常置委員長ハ常置委員ニ各種ノ試験事務ヲ分任セシメ之ヲ監督整理シ監軍ニ對シテ共責ニ任ス

(參照)

勅令第九十九號陸軍將校生徒試験委員條例(明治二十五年十一月二十二日官報抄録)

第二條 常置委員ハ士官學校生徒ノ將校試験幼年學校生徒ノ終末試験ヲ行ヒ士官候補生幼年學校生徒一年志願兵志願者ノ試験問題ヲ起草シ及其成績ヲ調査スルモノニシテ將校學校監ニ隸ス其職員左ノ如シ

委員長

大佐

委員

中少佐大尉

第六條 將校學校監ハ常置委員ニ各種ノ試験事務ヲ分任シ委員長ヲシテ之ヲ監督セシメ監軍ニ對シテ共責ニ任ス

朕陸軍定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣 伯耆大山 巖

勅令第二百三十八號(官報十二月十八日)

陸軍定員令中附表第十號乙監軍部定員表同第十四號乙陸軍砲工學校定員表同丙陸軍士官學校定員表同丁陸軍幼年學校定員表同己陸軍乘馬學校定員表及同于陸軍教導團定員表左ノ通改正ス

第十號乙

監軍部定員表

計	將校 二	將校馬 三六	各兵監	副官部	參謀部	監軍	大將	中將	少將	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	下士	文官
計	將校 二	將校馬 三六	工兵監 一	野戰砲兵監 一	騎兵監 一	參謀長 一	參謀 三	參謀 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一
計	將校 二	將校馬 三六	工兵監 一	野戰砲兵監 一	騎兵監 一	參謀長 一	參謀 三	參謀 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一
計	將校 二	將校馬 三六	工兵監 一	野戰砲兵監 一	騎兵監 一	參謀長 一	參謀 三	參謀 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一	副官 一

第十四號乙

陸軍砲工學校定員表

階級	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	下士
本部分	一	二	一	一	一	一	一
參謀官	一	一	一	一	一	一	一
騎兵科	一	一	一	一	一	一	一

數官部	砲兵科	六
	工兵科	五
	陸軍教授	八
學生		一四
計	將校同相當官並陸軍教授	三一
	將校馬	二一
考備	學生ハ編制完備ニ至ルマナ本表ノ定員ヨリ超過スルコトアルヘシ	

第十四號丙

陸軍士官學校定員表

階級	大佐	乘馬	一
	中佐	乘馬	一
本部長	一		
	二		
教員	教官一		
	教官二		
副官	副官一		
	副官二		
軍醫	軍醫一		
	軍醫二		
獸醫	獸醫一		
	獸醫二		
軍吏	軍吏一		
	軍吏二		
陸軍教授	陸軍教授		
	陸軍教授		
中隊長	中隊長		
	中隊長		
高等教官	高等教官		
	高等教官		
計	將校同相當官並陸軍教授	六二	三
	將校馬	二〇	
考備	教官二ハノ内軍醫一獸醫一ヲ包含ス又教官一ハ軍醫ニシテ共ニ本部附ヲ以テ之ヲ兼ス		

第十四號丁

陸軍幼年學校定員表

階級	大尉	乘馬	一
	中尉	乘馬	一
本部長	一		
	二		
副官	副官		
	副官		
軍醫	軍醫一		
	軍醫二		
陸軍教授	陸軍教授		
	陸軍教授		
中隊長	中隊長		
	中隊長		
高等教官	高等教官		
	高等教官		
計	將校同相當官並陸軍教授	三六	
	將校馬	一〇	
考備	教官及下士ハ本表定員ノ外他ニ本職アル者ヲシテ兼勤セシメ又教官ハ學識アル者ヲ選テ囑託スルコトヲ得		

第十四號己

陸軍乘馬學校定員表

階級	大(中)(少)佐	乘馬	一
副官	副官		
大尉	大尉	乘馬	一
中尉	中尉	乘馬	一
少尉	少尉	乘馬	一
准士官	准士官		
下士	下士		
校馬	校馬		





陸軍砲工學校定員表

階級		分	部		官	教	部	本	分	階級	
大佐	中佐		長	二大長						副官	文官
大佐	中佐	相	當	官	並	奏	任	文	官	大	佐
										中	佐
										大	尉
										中	尉
										中	尉
										少	尉
										少	尉
										下	士
										文	官
										下	士
										文	官
										卒	
										校	馬
計	學生	將校	同	相	當	官	並	奏	任	文	官
		三	五	三	五	二	四	一		六	〇
		將校	馬	二	四						
		一	四								
											一
											〇

陸軍士官學校定員表

階級		分	部		官	教	部	本	分	階級	
大佐	中佐		長	二大長						副官	文官
大佐	中佐	相	當	官	並	奏	任	文	官	大	佐
										中	佐
										大	尉
										中	尉
										中	尉
										少	尉
										少	尉
										下	士
										文	官
										下	士
										文	官
										卒	
										校	馬
計	學生	將校	同	相	當	官	並	奏	任	文	官
		三	五	三	五	二	四	一		六	〇
		將校	馬	二	四						
		一	四								
											一
											〇

陸軍幼年學校定員表

階級		分	部		官	教	部	本	分	階級	
大佐	中佐		長	二大長						副官	文官
大佐	中佐 <td>相</td> <td>當</td> <td>官</td> <td>並</td> <td>奏</td> <td>任</td> <td>文</td> <td>官</td> <td>大</td> <td>佐</td>	相	當	官	並	奏	任	文	官	大	佐
										中	佐
										大	尉
										中	尉
										中	尉
										少	尉
										少	尉
										下	士
										文	官
										下	士
										文	官
										卒	
										校	馬
計	學生	將校	同	相	當	官	並	奏	任	文	官
		三	五	三	五	二	四	一		六	〇
		將校	馬	二	四						
		一	四								
											一
											〇

備考 獸醫ハ東京在職ノ者之ヲ兼ヌ	計	陸軍同相當官位 三七	將校馬 九	陸軍教授 一七	中隊長 二	中隊附 一三	馬術教官 一	三〇〇	四四八
	計	陸軍同相當官位 三七	將校馬 九						

第十四號已

陸軍乘馬學校定員表

備考 教官大尉ノ内各一ハ本部附獸醫之ヲ兼ヌ	計	學生	学生会	教官部	木部長 一 二	教官 二	獸醫 二	軍醫 二	副官 一	大尉 一	中尉 一	少尉 一	中尉 一	少尉 一	下士 一	卒 一	校馬 一
計	將校同相當官一六ヶ二	將校馬二〇															

第十四號子

陸軍教導團定員表

備考 同職兵生徒隊	工兵生徒隊	砲兵生徒隊	騎兵生徒隊	歩兵生徒隊	本部長 一 二	副官 一	大尉 一	中尉 一	少尉 一	中尉 一	少尉 一	下士 一	卒 一	生徒 一	隊馬 一
計															

備考	ケハ兼務ヲ示ス	軍醫	一
計	將校同相當官	五二	一
	一	一	一
	將校	二二	一

朕砲兵方面條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第二百三十九號(官報十二月十八日)

砲兵方面條例

- 第一條 砲兵方面ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所要兵器彈藥ノ購買貯藏保存修理支給交換及要塞備砲共ノ他之ニ關スル砲兵事業ヲ掌ル所トス
- 第二條 砲兵方面ハ第一方面第二方面トス第一方面ハ本署ヲ東京ニ置キ第一第二第三師管及北海道ヲ管轄シ第二方面ハ本署ヲ大阪ニ置キ第四第五第六師管ヲ管轄ス
- 第三條 師團司令部屯田兵司令部並要塞所在ノ地ニ砲兵方面支署ヲ置キ其ノ他樞要ナル衛戍地ニ武庫ヲ置ク但武庫ハ支署ノ管轄トス
- 支署ハ四等ニ區分シ其ノ新設及等位並武庫ノ新設ハ陸軍大臣之ヲ定ム
- 第四條 砲兵方面本支署ニ在ノ職員ヲ置ク

本署

本署長 砲兵大中佐  
署員 砲兵少佐大中尉

支署

支署長 砲兵中少佐大尉  
署員 砲兵大中尉

軍吏

第五條 前條ニ掲グル職員ノ外本支署ニ砲兵上等監護砲兵科下士軍吏部下士及要塞所在地支署ニ  
技手ヲ置キ武庫ニ砲兵科下士ヲ置ク但支署及武庫附下士ニ在テハ該地隊附下士ヲシテ其ノ業務ヲ兼ネシムルコトヲ得

第六條 本署長ハ陸軍大臣ニ隸シ砲兵方面ノ事務ヲ總理シ管掌ノ事項ニ就テハ其ノ責ニ任ス  
前項ノ外第一方面本署長ハ特ニ全國要塞ノ新設若クハ補修ニ關スル砲兵事業ノ調査ニ任ス

第七條 支署長ハ本署長ニ屬シ砲兵方面ノ事務ヲ分擔シ管掌ノ事項ニ就テハ其ノ責ニ任シ且所在地砲兵工廠派出所ノ事業ヲ管掌ス

第八條 師團屯田兵及要塞ノ兵器彈藥ノ事ニ就テハ當該師團長屯田兵及要塞司令官ノ命ヲ受ク  
師團屯田兵及要塞ハ本支署長ノ命ヲ受ケ各事務ヲ分擔シ其ノ責ニ任ス但要塞所在地支署附軍吏ハ

第九條 武庫附下士ハ支署長ノ統轄ニ屬スト雖トモ其ノ職務ニ就テハ尙ホ所在地衛戍司令官ノ監督ヲ受ク

第十條 砲兵方面所管ノ兵器彈藥ハ之ヲ分テ本須及支須トシ本須ハ本署及一二等支署ニ貯藏シ支須ハ各支署及武庫ニ貯藏ス

第十一條 砲兵方面所管ノ兵器彈藥庫ニハ衛兵ヲ置キ尙ホ所要ニ應シ下士又ハ定番人ヲ置クコトヲ得但場地ノ便宜ニ依リ衛兵ヲ要セサルトキハ本署長ノ上中ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム  
 新ニ衛兵ヲ置クトキハ本署長又ハ支署長ヨリ該地衛戍司令官ニ請求スルモノトス  
 要塞備付ノ兵器彈藥ハ砲臺監守ヲシテ之ヲ監守セシム  
 第十二條 兵器彈藥庫附近ノ地ニ騷擾警戒ノ事アレハ本署長又ハ支署長ヨリ該地衛戍司令官ニ牒告シ守衛ヲ嚴ニスヘシ

附則

第十三條 要塞條例制定ニ至ルマテ本署長及支署長ハ其所管要塞ノ防務ニ參與セシムルコトアリ

朕工兵方面條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣 伯爵 大山 巖

勅令第二百四十號 (官報十二月十八日)

工兵方面條例

第一條 工兵方面ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ要塞堡壘砲臺及附屬營造物ノ建築修繕保管共ノ他之ニ關スル工兵事業ヲ掌リ歩工兵ノ器具材料ヲ調辨シ且所屬地ヲ管轄スル所トス  
 第二條 工兵方面ハ本署支署、本廠、支廠ヨリ成リ本署ハ東京ニ置キ各支署及本支廠ヲ統轄シ支署

ハ要塞所在地ニ置キ專ラ築城ノ事業ヲ擔任シ本廠ハ東京及大阪ニ支廠ハ各工兵隊所在地ニ置キ專ラ器具材料ノ保管ニ任ス但支署ハ三等ニ區分シ共ノ新設及等位ハ陸軍大臣之ヲ定ム  
 第三條 工兵方面本支署及本支廠ニ左ノ職員ヲ置ク

- |     |         |
|-----|---------|
| 本署長 | 工兵大中佐   |
| 署員  | 工兵少佐大中尉 |
| 軍吏  |         |
| 支署  |         |
| 支署長 | 工兵中少佐大尉 |
| 署員  | 工兵大中尉   |
| 軍吏  |         |
| 本廠  |         |
| 本廠長 | 工兵大中尉   |
| 支廠  |         |
| 支廠長 | 工兵大中尉   |
- 第四條 前條ニ掲グル職員ノ外本支署及本廠ニ工兵上等監護、工兵監護、技手及軍吏部書記ヲ支廠ニ工兵監護及軍吏部書記ヲ置キ猶支署ニハ砲臺監守ヲ置ク  
 第五條 本署長ハ陸軍大臣ニ隸シ本署ノ事務ヲ總理シ管轄ノ事項ニ就テハ其ノ責ニ任シ且全國要塞ノ新設若クハ補修ニ關スル工兵事業ノ調査ニ任ス  
 第六條 支署長ハ本署長ニ屬シ支署ノ事務ヲ處理シ擔任ノ事項ニ就テハ其ノ責ニ任ス  
 第七條 本支廠長ハ本署長ニ屬シ廠務ヲ處理シ擔任ノ事項ニ就テハ其ノ責ニ任ス

第八條 署員軍吏ハ本支署長ノ命ヲ受ケ各事務ヲ分擔シ其ノ責ニ任ス  
第九條 本署長ハ業務ノ繁閑ニ應ジ必要ト認ルトキハ本支署ノ官俵ヲ彼是應用スルコトヲ得

附則

第十條 特種ノ技術ニ従事セシムル爲メ當分本署ニ技師二名ヲ置クコトヲ得  
第十一條 工兵監護ハ當分工兵曹長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得  
第十二條 要塞條例制定ニ至ル迄本署長ハ全國支署長ハ其ノ所管要塞ノ防務ニ參與セシムルコトアリ  
第十三條 工兵方面支廠ハ追テ設置スルモノトス

朕陸軍砲兵會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第二百四十一號(官報十二月十八日)

陸軍砲兵會議條例

第一條 陸軍砲兵會議ハ砲兵技術ニ關シ陸軍大臣ノ諮詢ニ應スル所トス  
第二條 陸軍砲兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク

- 議長 砲兵大佐
- 議員 砲兵上長官
- 臨時議員 各兵科各部長官或ハ陸軍技師

審査官 砲兵中少佐大尉

第三條 前條ニ掲グル職員ノ外審査官ノ下ニ砲兵上等監護砲兵下士並屬技手ヲ置ク  
 第四條 議長ハ陸軍大臣ニ隸シ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス  
 第五條 審査官ハ審査試験ノ事ヲ分擔シ其ノ分擔事項ニ關シテハ議事ニ列シ答辯説明ノ任ニ當リ且會議ノ事務ヲ處理ス  
 第六條 議員ハ他ニ木職アル者ヲ以テ兼補ス  
 臨時議員ハ議事ノ必要ニ方リ陸軍大臣他ニ木職アル者ヲ以テ之ヲ命シ議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス  
 第七條 議長不在ノトキハ議事ニ關シテハ議員中事務ニ關シテハ審査官中高級故參ノ者其ノ代理ヲナスヘシ  
 第八條 陸軍砲兵會議ハ砲兵技術ニ關シ必要ト認ムル事件ハ陸軍大臣ニ建議スルコトヲ得  
 第九條 陸軍砲兵會議ハ議事規則ヲ議定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ  
 第十條 總議員二分一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス但緊急ノ場合ニ在テハ總議員三分一以上出席スルトキハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得  
 第十一條 議長ハ議事表決ノ數ニ預ルコトヲ得ス  
 第十二條 議事ハ出席議員ノ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル  
 第十三條 試験等ノ爲メ軍隊ヲ要スルトキハ議長ハ師團長及當該兵監ニ稟議シ之ヲ使用スルコトヲ得  
 第十四條 砲工兵兩科ノ技術ニ跨ル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討論セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ在テハ陸軍大臣之ヲ特達ス

第十五條 合同會議ヲ開クトキハ砲工兵兩會議議長中高級故參ノ者議長トナリ下級ノ者ハ議員ニ列シ表決ニ預ルモノトス第二項ノ場合ニ於テハ高級故參ノ者モ亦同シ  
 議事ノ必要ニ依リ陸軍大臣ハ特ニ將官ヲ以テ議長ニ命スルコトヲ得但共ノ議事了レハ直ニ解任スルモノトス

第十六條 合同會議ハ總テ本會議ノ規定ニ據ル

朕陸軍工兵會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第二百四十二號(官報 十二月十八日)

陸軍工兵會議條例

- 第一條 陸軍工兵會議ハ工兵技術ニ關シ陸軍大臣ノ諮詢ニ應スル所トス
- 第二條 陸軍工兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 議長 工兵大佐
  - 職員 工兵上長官
  - 臨時議員 各兵科各部長官或ハ陸軍技師
  - 審査官 工兵中少佐大尉
- 第三條 前條ニ掲グル職員ノ外審査官ノ下ニ工兵上等監護工兵下士並關技手ヲ置ク
- 第四條 議長ハ陸軍大臣ニ隸シ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス

第五條 審査官ハ審査試験ノ事ヲ分擔シ其ノ分擔事項ニ關シテハ議事ニ列シ答辯説明ノ任ニ當リ且會議ノ事務ヲ處理ス

第六條 議員ハ他ニ本職アルモノヲ以テ兼補ス

臨時議員ハ議事ノ必要ニ方リ陸軍大臣他ニ本職アルモノヲ以テ之ヲ命シ議事了レハ直ニ解任スルモノトス

第七條 議長不在ノトキハ議事ニ關シテハ議員中事務ニ關シテハ審査官中高級故參ノ者其ノ代理ヲナスヘシ

第八條 陸軍工兵會議ハ工兵技術ニ關シ必要ト認ムル事件ハ陸軍大臣ニ建議スルコトヲ得

第九條 陸軍工兵會議ハ議事規則ヲ議定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 總議員二分一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス但緊急ノ場合ニ在テハ總議員三分一以上出席スルトキハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得

第十一條 議長ハ議事表決ノ數ニ預ルコトヲ得ス

第十二條 議事ハ出席議員ノ過半數ニ依リ之ヲ決ス可キハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十三條 試験等ノ爲メ軍隊ヲ要スルトキハ議長ハ師團長及當該兵監ニ稟議シ之ヲ使用スルコトヲ得

第十四條 砲工兵兩科ノ技術ニ跨ル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ在テハ陸軍大臣之ヲ特選ス

第十五條 合同會議ヲ開クトキハ砲工兵兩會議議長中高級故參ノ者議長トナリ下級ノ者ハ議員ニ列シ表決ニ預ルモノトス第二項ノ場合ニ於テハ高級故參ノ者モ亦同シ

議事ノ必要ニ依リ陸軍大臣ハ特ニ將官ヲ以テ議長ニ命スルコトヲ得但共ノ議事了レハ直ニ解任スルモノトス

第十六條 合同會議ハ總テ本會議ノ規定ニ據ル

朕砲兵工廠條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月十六日

陸軍大臣 伯爵 大山 巖

勅令第二百四十三號 (官報十二月十八日)

砲兵工廠條例

第一條 砲兵工廠ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所要ノ兵器彈藥ヲ製造修理シ及海軍所要ノ火藥ヲ製造スル所トス

第二條 砲兵工廠ハ之ヲ東京及大阪ニ置キ其ノ製造所ヲ設クルコト左ノ如シ

東京砲兵工廠

小銃製造所

銃包製造所

砲具製造所

目黒火藥製造所

板橋火藥製造所

岩鼻火藥製造所

大阪砲兵工廠

火砲製造所

砲架製造所

彈丸製造所

火具製造所

第三條 兵器ノ修理ハ東京大阪ニ在テハ直ニ工廠ニ於テ之ヲ執行シ其ノ他ハ砲兵方面支署所在地ニ工廠ノ派出所ヲ置キ方面支署長ヲシテ其ノ事ヲ掌管セシム但其ノ經費ハ總テ工廠ノ負擔トス

第四條 砲兵工廠ニ左ノ職員ヲ置ク

提理

砲兵大中佐

副提理

砲兵少佐

検査官

砲兵少佐 大中尉

製造所長

砲兵少佐 大尉若クハ技師

所員

砲兵大中尉若クハ技師

軍醫

軍吏

技師

第五條 第四條ニ掲グル職員ノ外副技手ヲ置ク但之ニ代ユルニ砲兵上等監護及砲兵科下士ヲ用井ルコトヲ得

第六條 提理ハ陸軍大臣ニ隸シ工廠ノ事務ヲ總理シ特ニ工廠ニ屬スル建築工事ヲ掌リ掌管ノ事務ニ於テハ其ノ責ニ任ス

第七條 副提理ハ提理ヲ補佐シ特ニ經理事務ヲ擔任ス

東京砲兵工廠提理ハ砲兵工科學會ヲ管理ス



- 第八條 検査官ハ製造ノ兵器彈藥及其ノ材料ノ検査ヲ掌ル
- 第九條 製造所長ハ製造所ノ工務ヲ擔任シ所員ハ所長ノ命ヲ受ケ所務ニ從事ス
- 第十條 砲兵工廠製造所長ハ砲兵工科學會ノ實業教授ヲ擔任ス
- 第十條 砲兵方面支署所在地ノ工廠派出所ニハ副ヲ分派シ方面支署長ノ命ヲ受ケ兵器修理ニ關スル費用及材料ノ出納ヲ掌ラシム
- 第十一條 軍用制式ノ兵器彈藥ハ陸軍大臣ノ許可ヲ經ルニアラサレハ製造スルコトヲ得ス但海軍造兵廠長ヨリ要求スル火藥並砲兵會議議長ヨリ試驗用ノ爲メ要求スルモノハ此限ニアラス
- 第十二條 官廳又ハ八民ヨリ物品ノ製造ヲ依頼スルトキハ軍用ノ製造事業ニ妨ケナキ限リハ之ニ應スルコトヲ得
- 第十三條 工廠及製造所附近ノ地ニ騷擾警戒ノ事アレハ提理ヨリ衛戍司令官ニ陳告シテ衛兵ノ派遣ヲ請フコトヲ得
- 附則
- 第十四條 連發銃並海岸砲創製中各工廠ニ佐官一人ヲ置ク

朕陸軍砲兵工科學會條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣 伯爵 大山 巖

勅令第二百四十四號(官報十二月十八日)

陸軍砲兵工科學會條例

- 第一條 陸軍砲兵工科學會ハ東京砲兵工廠ニ置キ提理ノ管理ニ關シ砲兵諸工專門ノ工術ヲ教授シ火工下士及較工銃工木工鍛工諸長ニ任用ス可キモノヲ養成スル所トス
- 第二條 火工ハ砲兵隊上等兵中尙ホ現役二十箇月以上アルモノヲ選抜分遣シテ學生トナシ他ノ諸工ハ現役六箇月以上ヲ經タル各兵諸卒中志願ノ者ヲ選抜シテ生徒トナス
- 但諸工生徒ニ在テハ時宜ニ因リ一般人民ヨリ採用スルコトアル可シ
- 第三條 學舍ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 舍長 砲兵大尉
  - 教官 砲兵大中尉
- 第四條 前條ニ掲グル職員ノ外砲兵科衛生部軍吏部下士及陸軍助教ヲ置ク
- 第五條 學舍ニハ軍醫及軍吏ヲ置カス東京砲兵工廠附ヲシテ其ノ事務ヲ掌ラシム
- 第六條 舍長ハ東京砲兵工廠提理ニ隸シ舍務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任シ且教官ヲ兼ス
- 第七條 教官ハ副育ニ從事シ學術ノ教授ヲ分擔シ殊ニ學生及生徒ノ身上ニ就テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルモノトス
- 助教ハ專ラ圖書授業ノ事ヲ擔任セシム
- 第八條 學期ハ學生ニ在テハ概ネ一箇年トシ生徒ニ在テハ概ネ二箇年半トス但修業中疾病又ハ止ムヲ得サル事故アリテ定期ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ延期スルコトヲ得
- 第九條 學生及生徒各工科專門ノ實業ハ東京砲兵工廠ニ於テ之ヲ教授ス學舍ノ内務ハ概ネ軍隊内務ノ規定ニ依ル
- 第十條 生徒召募ノ方法及學生生徒ノ人員ハ陸軍大臣之ヲ定メテ告達ス
- 第十一條 師團長ハ召募ノ告達ニ依リ學生ニ在テハ砲兵隊長ヲレテ身體行狀學術等ヲ調査シ火工

術ニ適當ノ者ヲ選拔セシメ入舍期十日前茅テニ其ノ名簿ニ履歷書ヲ添ヘ提理 東軍砲兵工廠提  
 送達セシム  
 生徒ニ在テハ各隊長ヲシテ志願者中行狀方正ニシテ検査格ニ適スル者ヲ選拔セシメ其ノ名簿ヲ  
 提理ニ送達セシム  
 第十二條 學生所用ノ書籍器具機械雜具消耗品並修業用ノ原料ハ貸與又ハ支給スルモノトス  
 第十三條 生徒修業ノ費用其ノ他被服食料旅費等ハ一切官給トシ且手當金ヲ給ス  
 第十四條 學生分遣入舍中願屆等ニ關スル事件ハ總テ提理ノ管理ニ屬ス  
 第十五條 學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退舍スルヲ許サス然レトモ傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ  
 依リ卒業ノ目途無キ者ハ退舍セシム其ノ諸卒ヨリ入舍ノ生徒ニ在テハ永久服役ニ堪ヘサル者ヲ  
 除クノ外總テ原兵科ニ復シ舊所管ニ於テ前役 入舍中ノ日ヲ通算シ定規ノ年限間現役又ハ豫備役  
 又ハ後備役ニ服セシム  
 第十六條 學期末ニ於テ終末試験ヲ施行シ及第スル者ニハ卒業證書ヲ附與シ學生ニ在テハ其ノ試  
 驗成績表ヲ提理ヨリ師團長ヲ經テ聯隊長ニ移ス  
 第十七條 學生ハ卒業後原隊ニ復歸シ再服役ヲ許サレタル者ハ該隊ニ於テ缺員アル毎ニ火工二等  
 軍曹ニ任シ生徒ハ卒業後直ニ工下長ニ任ス

陸軍定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣 伯爵 大山 巖

勅令第二百四十五號 (官報十二月十八日)

陸軍定員令中附表第十一號子砲兵方面定員表同第十一號丑工兵方面定員表同第十二號丙陸軍砲兵  
 會議定員表同第十二號丁陸軍工兵會議定員表同第十二號辛砲兵工廠定員表同第十四號丑陸軍砲兵  
 工科學舍定員表左ノ通改正ス

第十一號子

砲兵方面定員表

考 備	武 庫	支 隊				本 營		區 分								
		四 等	三 等	二 等	一 等	第一方面長	第二方面長	大 尉	中 尉	少 尉	准士官下士	大 尉	中 尉	少 尉	准士官下士	
(一)東京大砲支隊ニ在テハ學員ヲ置カス且准士官下士ノ内東京支隊ハ一名大阪支隊ハ三名ヲ減ス																
(二)支隊附軍更ハ要所所在地ノ支隊ニ限リ置クモノニシテ工兵方面支隊附ラシテ兼務セシム(三)要																
所所在地支隊ニ在テハ本表ノ外技手三名増置スルコトヲ得(四)武庫附ノ内下士一名ハ隊附ヲシテ兼																
務セシム(五)支隊長少佐ナルトキハ乘馬一頭トス																

工兵方面定員表

區分	階級		大尉	中尉	少尉	准尉	士官	准士官	下士官	文官
	大(中)佐	中(少)佐								
本	長	二	一	二	一	一	一	一	一	一
支	長	二	一	二	一	一	一	一	一	一
醫	長	二	一	二	一	一	一	一	一	一
木	長	二	一	二	一	一	一	一	一	一
支	長	二	一	二	一	一	一	一	一	一
備	(一)本表ノ外當分ノ内本署ニ技師二名ヲ置ク(二)砲臺建築工ヲ施行中各支署ニ下士官ニ判任文官九名以内ヲ増加スルコトヲ得(三)支隊長ハ工兵大隊附大中尉ヲシテ兼ス(四)支隊長少佐ナルトキハ砲臺一頭大尉ナルトキハ砲臺七シメス									

陸軍砲兵會議定員表

大	佐	中(少)佐	中(少)佐	大	尉	准士官	下士官
馬	大(中)少	陸同	陸同	馬	尉	准士官	下士官
職長	二	職長	二	職長	三	職長	二
職長	一	職長	一	職長	一	職長	一

陸軍工兵會議定員表

大	佐	中(少)佐	中(少)佐	大	尉	准士官	下士官
職長	二	職長	二	職長	三	職長	二
職長	一	職長	一	職長	一	職長	一

砲兵工廠定員表

區分	階級		大(中)佐	中(少)佐	大	尉	准士官	下士官
東	本	馬						
本	長	二	一	二	一	一	一	一
小銃製造所	所長	一	一	二	一	一	一	一
銃包製造所	所長	一	一	二	一	一	一	一
砲具製造所	所長	一	一	二	一	一	一	一
目擊火藥製造所	所長	一	一	二	一	一	一	一
板橋火藥製造所	所長	一	一	二	一	一	一	一
岩鼻火藥製造所	所長	一	一	二	一	一	一	一
計	將校	同	同	同	同	同	同	同
計	同	同	同	同	同	同	同	同





陸軍砲兵工科學會定員表

階級	大尉	中尉	少尉	下士	卒	學生	生徒
	相	當	官	判任	文	生	徒
區分	少佐	佐	少佐	下士	文	生	徒
本部	長	一	副官	一	一	一	一
本	軍醫	一	軍吏	一	一	一	一
生徒隊	長	一	一	一	一	一	一
計	七	七	七	五	五	五	五
備考	學會長ハ東京砲兵工廠副提理之ヲ兼ヌ						

朕陸軍經理學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣 伯爵 大山 巖

勅令第二百四十六號(官報十二月十八日)

明治二十三年勅令第二百六十五號陸軍經理學校條例中左ノ通改正ス

第三條第五條及第十一條中「會計」ヲ「經理」ニ改ム

第四條ヲ左ノ如ク改ム

本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 二等監督

副官 一二等軍吏

教官 參謀中少佐若クハ大尉

同 二三等監督 監督補

同 騎兵科大尉

同 一二等軍吏

同 陸軍教授及陸軍技師

第六條中「幹事」ヲ「副官」ニ改ム

第七條ヲ左ノ如ク改ム

教官ノ内參謀官ハ監督教育科軍吏ハ軍吏教育科ノ教授ヲ擔任シ其他ハ總テ兩教育科ノ教授ヲ擔任ス但教官ハ翻譯ニ從事セシムルコトアルヘシ

〔參照〕

勅令第二百六十五號陸軍經理學校條例(明治二十三年十一月四日官報)抄録

第三條 本校ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省會計局長ノ管理ニ屬ス

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 一等監督

幹事 監督補

副官 二三等監督

監督補 二三等軍吏

教官 一二等軍吏

教授 一二等軍吏

教官ハ定員外他ニ本職アル者ヲシテ兼務セシムルコトヲ得

- 第五條 校長ハ陸軍省會計局長ニシテ校務ヲ總理シ教育ノ方法ヲ規畫シ及學生教育ノ責ニ任ス
- 第六條 幹事ハ庶務ヲ擔任ス其下ニ陸軍部ヲ置ク
- 第七條 教官ノ内監督及教授ハ兩教育科ノ教授ヲ擔任シ軍吏ハ專ラ軍吏教育科ノ教授ヲ擔任ス但翻譯ニ從事セシムルコトアルヘシ
- 第十一條 監督學生ノ人員及入學試験資格例ハ會計局長ノ申渡ニ因リ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

陸軍被服工長學會條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

陸軍大臣伯耆大山 巖

明治二十六年十二月十六日

勅令第二百四十七號(官報十二月十八日)

明治二十三年勅令第三十號陸軍被服工長學會條例中左ノ通改正ス

- 第一條中「會計局」ヲ「經理局長ノ管理」ニ改ム
- 第二條ヲ左ノ如ク改ム
- 本會ニ左ノ職員ヲ置ク
- 學舍長 陸軍一等軍吏
- 第三條及第十五條中「會計」ヲ「經理」ニ改ム
- 第四條ヲ削ル
- 第六條中「若干名」ノ三字ヲ削ル

〔參照〕

- 勅令第三十號陸軍被服工長學會條例(明治二十三年三月十九日官報)抄録
- 第一條 陸軍被服工長學會ハ陸軍省會計局ニ屬シ陸軍被服工長職工長ト爲ルヘキ者ヲ養成スル所トス
- 第二條 本會ニ左ノ職員ヲ置ク

- 學舍長 陸軍三等監督
- 幹事 陸軍一等軍吏
- 第三條 學舍長ハ陸軍省會計局長ニシテ校務ヲ總理シ學生教育技術進歩ノ責ニ任ス
- 第四條 幹事ハ學舍長ノ命ヲ奉シ學舍中一切ノ事務ヲ擔當ス
- 第六條 第二條ニ掲グル職員ノ外下士屬若干名ヲ置ク
- 第十五條 疾病ノ故ヲ以テ缺課多キモノハ軍醫ノ診斷ニ依リ學舍長ノ意見ヲ以テ學期ヲ延ルコトアルヘシ但會計局長ノ認可ヲ請フヘシ

陸軍被服廠條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

陸軍大臣伯耆大山 巖

明治二十六年十二月十六日

勅令第二百四十八號(官報十二月十八日)

- 明治二十三年勅令第五十八號陸軍被服廠條例中左ノ通改正ス
- 第一條中「及被服標本ノ格納」ノ八字ヲ削ル
- 第三條中「會計」ヲ「經理」ニ改ム
- 第四條中「ヲ分掌」ヲ「ニ履行」ニ改ム
- 第五條中「若干人」ノ三字ヲ削ル

〔參照〕

- 勅令第五十八號陸軍被服廠條例(明治二十三年三月二十八日官報)抄録
- 第一條 陸軍被服廠ハ東京ニ之ヲ置キ軍隊及各部ニ給スル被服地質ノ調辨分配及被服標本ノ格納並豫備被服及地質ヲ貯藏スル所トス
- 第三條 主管ハ會計局長ニシテ廠務ヲ總理シ管理ノ事務ニ於テハ其實ニ任ス
- 第四條 被服官ハ主管ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第五條 第二條ニ掲クル職員ノ外軍吏部下士若クハ屬若千人ヲ置ク

陸軍定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣 伯爵 大山 巖

勅令第二百四十九號(官報十二月十八日)

陸軍定員令中附表第十四號ヲ陸軍經理學校定員表及同第十四號卯陸軍被服工場學舍定員表左ノ通改正ス

第十四號壬

階級	本 部		分 部		大尉	二等軍吏	判任文官	監督學生	軍吏學生
	長	副官	長	副官					
參謀官	一								
騎兵科									
監督部			四						
軍吏部									
委任文官									
學生								一〇	三二

階級	長	一 等 軍 吏	下 任 士 文 官	官 員	學 生
備 考		二		四	二五

第十四號卯

陸軍被服工場學舍定員表

階級	長	一 等 軍 吏	下 任 士 文 官	官 員	學 生
備 考		二		四	二五

〔参照〕

勅令第二百六十七號陸軍定員令(明治二十三年十一月四日官報)抄録

第十四號壬

陸軍經理學校定員表

階級	長	一 等 軍 吏	下 任 士 文 官	官 員	學 生
備 考		二		四	二五

第十四號卯

陸軍被服工場學舍定員表



三等	監督	乘馬	一等	軍吏	下任	士官	並	學生
長	一	一	幹事	一	四	二五		

朕海軍高等武官任用條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

内閣總理大臣 伯耆伊藤博文  
海軍大臣 伯耆西郷從道

勅令第二百五十號 (官報十二月十八日)

海軍高等武官任用條例

- 第一條 海軍高等武官ハ各共ノ武官候補生ヨリ任用ス
- 第二條 候補生ハ一箇年以上實務練習ノ後學術及實務試験ヲ行ヒ合格シタル者ニ就キ候補名簿ヲ作り本官ニ缺員アル毎ニ候補名簿ノ列序ニ從ヒ本官ニ任用ス
- 第三條 候補名簿ノ列序ハ學術及實務試験ノ成績順序ニ依リ之ヲ定ム
- 第四條 海軍ノ官費生徒ト爲リ外國ニ留學シ適當ノ卒業證書ヲ得タル者ハ其ノ成績ニ應シ相當ノ本官ニ任用スルコトヲ得
- 私費ヲ以テ外國ニ留學シ相當ノ學術ヲ修メ卒業ノ後海軍出身志願ノ者ハ試験ヲ行ヒ其ノ成績ニ應シ特ニ其ノ學科相當ノ本官ニ任用スルコトアルヘシ
- 前二項ノ場合ニ於テモ初メテ海軍高等武官ニ任用スルハ少尉若クハ其ノ相當官ニ限ル
- 第五條 海軍少軍醫ハ必要ノ場合ニ於テ帝國大學醫科大學卒業ノ者ニ就キ身體検査學術試験ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ任用スルコトヲ得

第六條 海軍少主計ハ必要ノ場合ニ於テ文官高等試験ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者ニ就キ身體検査ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ任用スルコトヲ得

第七條 海軍高等武官ニシテ特別ノ學術技能ヲ有シ且事績顯著ナル者ハ其ノ學術技能ヲ要スル他ノ海軍高等武官ニ轉任セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ實役停年ハ前後通算ス

第八條 海軍少軍醫及海軍少主計ヲランコトヲ欲スル者ハ海軍大臣ノ告示ニ從ヒ出願スヘシ

第九條 第四條第二項及第五條ノ者ニシテ左ニ掲グル事項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ任用スルコトヲ得ス

- 一 年齢二十年未滿及滿二十八年以上ノ者
- 二 禁錮以上ノ刑ヲ受ケタル者又ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
- 三 復権ヲ得サル家資分散者、破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人

第十條 身體検査及學術試験ニ關スル規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十一條 身體検査委員並ニ學術試験委員ハ海軍大臣之ヲ命ス

第十二條 明治二十八年マテハ少尉候補生ヲ少機關士ニ任用スルコトヲ得

第十三條 海軍少技士ハ當分ノ帝國大學工科大学卒業ノ者及共ノ他相當ノ學術ヲ修メタル者ニ就キ身體検査學術試験ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ任用スルコトヲ得

第九條ノ規程ハ前項ニ掲グル者ニモ適用ス

朕海軍高等武官候補生規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文  
海軍大臣伯爵西郷從道

勅令第二百五十一號 (官報十二月十八日)

海軍高等武官候補生規則

- 第一條 海軍高等武官候補生ハ海軍少尉候補生、海軍少機關士候補生、海軍少技士候補生、海軍少軍醫候補生、海軍少藥劑官候補生、海軍少主計候補生トス
- 第二條 海軍少尉候補生ハ海軍兵學校ノ全學科ヲ卒業シタル者ヨリ採用ス
- 海軍少機關士候補生ハ海軍機關學校ノ全學科ヲ卒業シタル者ヨリ採用ス
- 第三條 海軍少軍醫候補生ハ醫術開業免狀ヲ有スル者ニ就キ身體検査學術試験ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ採用ス
- 第四條 海軍少藥劑官候補生ハ藥劑師免狀ヲ有スル者ニ就キ身體検査學術試験ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ採用ス
- 第五條 海軍少主計候補生ハ官立公立尋常中學校若クハ海軍大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ノ卒業證書ヲ有シ且法律及經濟學ヲ教授スル學校ニ於テ三年以上ノ課程ヲ終ヘタル者ニ就キ身體検査學術試験ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ採用ス
- 第六條 海軍少軍醫候補生、海軍少藥劑官候補生又ハ海軍少主計候補生トランコトヲ欲スル者ハ海軍大臣ノ告示ニ從ヒ出願スヘシ
- 第七條 海軍ノ官費生徒ト爲リ外國ニ留學シ適當ノ卒業證書ヲ得タル者ハ其ノ成績ニ應シ相當ノ候補生ニ採用スルコトヲ得

私費ヲ以テ外國ニ留學シ相當ノ學術ヲ修メ卒業ノ後海軍出身志願ノ者ハ試験ヲ行ヒ其ノ成績ニ應シ特ニ其ノ學科相當ノ候補生ニ採用スルコトアルヘシ

第八條 海軍少軍醫候補生、海軍少藥劑官候補生、海軍少主計候補生及前條第二項ノ者ニシテ左ニ掲グル事項ノ一ニ該ルトキハ候補生ニ採用スルコトヲ得ス

- 一 年齡二十年未滿及滿二十五年以上ノ者
  - 二 有妻ノ者
  - 三 禁錮以上ノ刑ヲ受ケタル者又ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
  - 四 復讐ヲ得サル家資分散者、破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人
- 第九條 候補生ハ現役海軍軍人トシ其ノ身分ハ委任官ノ待遇トス
- 第十條 候補生ハ情願ヲ以テ辭スルコトヲ得ス
- 第十一條 候補生ハ各共ノ本官ノ實務ヲ練習スルモノトス
- 第十二條 候補生ヲ直轄スル各長官ハ一箇年以上實務ヲ練習シタル各候補生ノ材能、品行、勤惰、傷痕、疾病等ノ事實ヲ詳記シ之ニ意見ヲ附シ所管長官ニ差出シ所管長官ハ之ニ意見ヲ附シ毎年一回海軍大臣ニ報告スヘシ
- 第十三條 海軍大臣ハ候補生ノ品行不正或ハ傷痕疾病等ノ故ヲ以テ高等武官ニ適セスト認ムルトキハ之ヲ免ス
- 第十四條 候補生海軍高等武官任用條例第二條ノ學術試験ニ合格セサルトキハ六箇月ノ後再試験ヲ行ヒ仍不合格ノ者ハ之ヲ免ス
- 第十五條 身體検査學術及實務試験ニ關スル規程ハ海軍大臣之ヲ定ム
- 第十六條 各候補生ノ身體検査委員並ニ學術試験委員ハ海軍大臣之ヲ命ス

附則

- 第十七條 本令施行ノ際海軍軍醫學校ニ在ル生徒ハ全學科卒業ノトキ海軍少軍醫候補生ニ採用ス
- 第十八條 海軍少技士候補生ハ當分ノ内帝國大學工科大学卒業ノ者及其ノ他相當ノ學術ヲ修メタル者ニ就キ身體検査學術試験ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ採用スルコトヲ得
- 第八條ノ規程ハ前項ニ掲クル者ニモ適用ス
- 第十九條 明治二十二年勅令第十八號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治二十二年七月二十勅令第十八號ハ海軍少軍醫候補生採用規則ナリ

朕海軍軍人俸給令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

内閣總理大臣 伯爵 伊藤博文  
海軍大臣 伯爵 西鄉從道

勅令第二百五十二號 (官報十二月十八日)

海軍軍人俸給令

- 第一條 高等武官ノ俸給ハ第一表 准士官ノ俸給ハ第二表 下士卒ノ俸給ハ第三表ニ依ル
- 准士官以上及下士ニシテ其ノ俸給ニ等級アルモノハ各等級ニ付海軍大臣共ノ定員ヲ定ム
- 第二條 候補生ノ俸給ハ日給八十錢トス
- 第三條 准士官以上ニ待命ヲ命シタルトキハ俸給十分ノ八ヲ給シ休職ヲ命シタルトキハ俸給十分ノ六ヲ給シ停職ヲ命シタルトキハ俸給十分ノ三ヲ給ス

第四條 下士卒ノ俸給ハ定員ニ在ル者ニ甲額ヲ給シ定員外ニ在ル者ニ乙額ヲ給ス

海兵團ニ於テ定員外ニ在ル者ニ須要ニ依リ特ニ執務ヲ命シタルトキハ執務中甲額ヲ給ス

第五條 士官以上ニ上官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ上官ノ最下級俸十分ノ二ヲ加給ス

下士ニ准士官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ准士官最下級俸十分ノ一ヲ加給ス

第六條 航行ノ役務ニ服スル軍艦ノ定員及乗組候補生ニハ第四表ニ依リ航海加俸ヲ給シ航行ノ役務ニ服スル水雷艇ノ乗員ニハ第五表ニ依リ航海加俸ヲ給ス

第七條 士官以上ニ上官ノ職務心得ヲ命シ若クハ下士ニ准士官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ其ノ職務相當ノ航海加俸ヲ給ス

第八條 官有船舶若クハ官ニテ借入傭入タル船舶ノ運轉及其ノ他ノ職務ニ服スル爲メ乗組ヲ命シタル者ニハ第六條ニ準シ航海加俸ヲ給ス但炊具臥具ノ設備ナキ船舶ニ乗組ヲ命シ旅費ヲ給スルトキハ航海加俸ヲ給セス

第九條 下士卒ニシテ善行章ヲ有スル者ニハ一線毎ニ一日一錢ノ加俸ヲ給ス

第十條 下士卒ニシテ教員ノ職ヲ奉スル者ニハ一日三錢ノ加俸ヲ給ス

第十一條 下士卒ニシテ砲術教員適任證書ヲ有スル者ニハ一日四錢 一等掌砲證狀ヲ有スル者ニハ一日三錢 二等掌砲證狀ヲ有スル者ニハ一日二錢ノ加俸ヲ給ス

砲術教員適任證書及掌砲證狀ヲ併有スル者ニハ多額ニ就キ加俸ヲ給ス

第十二條 下士卒ニシテ水雷術教員適任證書ヲ有スル者ニハ一日四錢 一等掌水雷證狀ヲ有スル者ニハ一日三錢 二等掌水雷證狀ヲ有スル者ニハ一日二錢ノ加俸ヲ給ス

水雷術教員適任證書及掌水雷證狀ヲ併有スル者ニハ多額ニ就キ加俸ヲ給ス

第十三條 准士官以上ニシテ他職ヲ兼務シタルトキ共ノ航海加俸ハ多額ニ就キ之ヲ給ス

第十四條 准士官以上ニシテ豫備 後備 退役トナリタルトキハ服役終期ノ日マテ共ノ俸給及加俸

ヲ給ス  
 第十五條 准士官以上ニシテ免官廢官トナリ若クハ候補生ニシテ候補生ヲ免セラレ又ハ下士卒ニシテ現役ヲ離レ若クハ歸休兵トナリタルトキハ其ノ當日マテ俸給及加俸ヲ給ス  
 第十六條 准士官以上ノ待命・休職・停職・豫備・後備・退役者若クハ免官廢官トナリタル者事務引繼・殘務調理ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ公務ニ従事スルトキハ其ノ間俸給及加俸ハ在職ノ例ニ依ル但海軍高等武官進級條例第十三條ニ依リ進級シタル者本條ノ場合ニ於テハ前官職ニ依リ其ノ俸給及加俸ヲ給ス  
 第十七條 豫備・後備ノ准士官以上及豫備兵・後備兵・歸休兵召集中准士官以上ハ在職ニ準シ下士卒ハ現役ニ準シ俸給及加俸ヲ給ス  
 第十八條 准士官以上及候補生ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ間俸給十分ノ五ヲ給ス但停職ニ在ル者ニハ停職中ノ俸給額ヲ給ス  
 第十九條 下士卒ニシテ傷病ヲ受ケ疾病ニ罹リ入院若クハ陸地療養ノ者若クハ陸上勤務外宿中又ハ公務出張中傷病ヲ受ケ疾病ニ罹リ一週日以上缺勤スル者ハ其ノ間俸給十分ノ四ヲ給ス但公務ニ原因シ傷病ヲ受ケ疾病ニ罹リタルトキ若クハ外國出張中ニ在ルトキハ其ノ全額ヲ給ス  
 第二十條 下士卒ニシテ依願歸郷・收禁・拘留・處刑・處罰中若クハ被告事件ノ爲メ護送中ハ其ノ間俸給十分ノ二ヲ給ス但無罪若クハ免訴ニ歸スルトキハ其ノ不給額ヲ追給ス未決中死亡スルトキ亦同シ  
 下士卒ニシテ裁罪服務中ノ者ハ俸給全額ヲ給ス  
 第二十一條 下士卒ニシテ擅ニ職役ヲ離レ若クハ他方ニ赴キ歸著ノ期ニ後レタル者ハ其ノ間俸給ヲ停止ス但自首又ハ捕縛ニ因リ護送中ノ者ハ前條ノ例ニ依ル  
 第二十二條 准士官以上候補生及下士卒ニシテ請願休職・陸地療養・公務ニ原因シ傷病ヲ受ケ疾病ニ罹リタルトキ若クハ外國出張中ニ在ルトキハ其ノ全額ヲ給ス

ニ在ルトキヲ除ク入院・收禁・拘留・處刑・處罰中若クハ被告事件ノ爲メ護送中若クハ擅ニ職役ヲ離レ若クハ他方ニ赴キ歸著ノ期ニ後レタルトキハ其ノ間加俸ヲ停止ス但准士官以上及候補生ニシテ處罰中勸務ニ服スルトキ若クハ下士卒ニシテ裁罪服務中ハ加俸ヲ給ス  
 第二十三條 艦船ノ乗員航海中ハ俸給三分ノ二以內ヲ其ノ家族ニ下渡スコトヲ得  
 第二十四條 准士官以上ノ俸給ハ三百六十五分シ共ノ月ノ日數ニ應シ給ス但太平洋ヲ渡航シ日數ニ一日ノ増減アルトキハ曆ノ日數ニ依ル又二月ハ閏年ト雖二十八日分ヲ給ス  
 第二十五條 俸給及加俸ハ毎月下旬ニ於テ之ヲ給ス  
 第二十六條 本令施行ノ細則ハ海軍大臣之ヲ定ム  
 附則  
 第二十七條 本令ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

第一表 海軍高等武官俸給表

大將	中將	少將及相當官	大佐及相當官	少佐及相當官	大尉及相當官	少尉及相當官
一年俸 六千圓	四千圓	三千五百圓	二千四百九十圓六十錢	一千七百七十七圓五十錢	一千八百七十六圓	一千四百九十六圓二十錢
			二千八百九十八圓	二千七百七十七圓五十錢	二千八百七十四圓六十錢	二千四百九十六圓二十錢
				二千八百七十八圓九十錢	二千八百七十四圓六十錢	二千四百九十六圓二十錢
				二千八百七十八圓九十錢	二千八百七十四圓六十錢	二千四百九十六圓二十錢

第二表 海軍准士官俸給表

一級	二級	三級	四級	五級
一年俸 五百四十四圓二十錢	四百七十四圓五十錢	四百十六圓十錢	三百五十七圓七十錢	二百九十九圓三十錢

第三表 海軍下士卒俸給表

一級	二級	三級	四級	五級
一年俸 五百四十四圓二十錢	四百七十四圓五十錢	四百十六圓十錢	三百五十七圓七十錢	二百九十九圓三十錢

第四表 軍艦航海加俸表

官	職	加俸日當額		加俸日當額	加給額
		水邦沿岸	支那、朝鮮、南洋羣島、南洋南洋羣島		
大將	司令長官	二圓	一圓	四圓	八圓
中將	司令長官	一圓六十錢	八圓	三圓四十錢	六圓四十錢
少將	司令官	一圓三十錢	六圓五十錢	二圓六十錢	五圓二十錢
大佐及相當官	艦長	一圓	五圓	二圓	四圓
少佐及相當官	副艦長	八十錢	四圓	一圓六十錢	三圓二十錢
相當官	其他	六十錢	三圓	一圓四十錢	二圓四十錢
艦長	其他	六十錢	三圓	一圓四十錢	二圓四十錢
副艦長	其他	六十錢	三圓	一圓四十錢	二圓四十錢
其他	其他	六十錢	三圓	一圓四十錢	二圓四十錢

第五表 水雷艇航海加俸表

官	職	加俸日當額		加俸日當額	加給額
		水邦沿岸	支那、朝鮮、南洋羣島、南洋南洋羣島		
大尉及相當官	司令	八十錢	四圓	二圓四十錢	三圓四十錢
中尉及相當官	長	七十錢	三圓五十錢	一圓四十錢	二圓八十錢
少尉及相當官	長	五十錢	二圓五十錢	一圓五十錢	二圓
候補生及准士官	士	二十錢	一圓	八十錢	一圓六十錢
下等	士	二十錢	一圓	八十錢	一圓六十錢
一等	卒	三十錢	一圓三十錢	一圓四十錢	二圓六十錢
二等	卒	二十錢	一圓	八十錢	一圓六十錢
三等	卒	二十錢	一圓	八十錢	一圓六十錢
四等	卒	二十錢	一圓	八十錢	一圓六十錢
五等	卒	二十錢	一圓	八十錢	一圓六十錢

候補生及准士官	三十錢	十五錢	六十錢	九十錢	一圓二十錢
下士	十錢	五錢	二十錢	三十錢	四十錢
卒	六錢	三錢	十二錢	十八錢	二十四錢

大西洋亞米利加洲沿岸ハ第五欄ノ加給額ヲ給ス

朕海軍下士卒手當金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

内閣總理大臣伯露伊藤博文  
海軍大臣伯露西郷從道

勅令第二百五十三號(官報十二月十八日)

海軍下士卒手當金規則

- 第一條 陸上勤務ノ下士卒ニシテ外宿セシムルトキハ下士ニハ一日二十錢卒ニハ一日十五錢ノ手當金ヲ給ス但入院シタルトキ若クハ旅行中旅費ヲ給スルトキハ之ヲ給セス
- 第二條 下士卒ニシテ水底事業若クハ艦底汽罐内部汽罐室底部水罐底部ノ掃除ニ從事シ若クハ難破船漂流人救助其ノ他非常ノ場合ニ於テ勞働セシムルトキハ一日二十錢以内ノ手當金ヲ給スルコトヲ得
- 第三條 下士卒ニシテ夏期九十日間若クハ熱帶地方ニ於テ艦船ノ汽罐小蒸汽船ニ點火シ汽罐部ノ事業ニ從事セシムルトキハ服務日數ニ應シ一日十錢以内ノ手當金ヲ給スルコトヲ得
- 第四條 徵兵ニシテ再服役ノ許可ヲ受ケタル者ニハ一度限り十圓ノ手當金ヲ給ス

- 第五條 此ノ規則ノ手當金ハ處刑處罰、收禁拘留中ノ者若クハ被告事件ノ爲メ護送中ノ者若クハ擅ニ職役ヲ離レタル者若クハ他方ニ赴キ歸著ノ期ニ後レ復歸セサル者ニハ之ヲ給セス但戴罪職務中及處罰中勤務ニ服スル者ハ此ノ限ニアラス
- 第六條 此ノ規則施行ノ細則ハ海軍大臣之ヲ定ム

附則

- 第七條 此ノ規則ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス
- 第八條 海軍軍人ノ手當金規則ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ廢止ス

朕海軍生徒手當金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

内閣總理大臣伯露伊藤博文  
海軍大臣伯露西郷從道

勅令第二百五十四號(官報十二月十八日)

海軍生徒手當金規則

- 第一條 海軍將校生徒及機關生徒ニハ一日二十錢ノ手當金ヲ給シ被服共ノ他日用品ノ費用ニ充テシム
- 第二條 海軍技生生徒ニハ一日二十五錢ノ手當金ヲ給シ糧食被服共ノ他日用品ノ費用ニ充テシム但傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ入院中ハ海軍糧食條例ニ依リ糧食ヲ給ス
- 第三條 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ病院ニ入ル者若クハ在校セサル者ニハ其ノ間第一條及第二條ノ手當金ヲ停止シ一日二錢ノ手當金ヲ給ス

第四條 處刑處罰收禁拘留逃亡若クハ被告事件ノ爲メ護送中ノ者及其ノ他事故ヲ以テ在校セサル者ニハ手當金ヲ給セシム

第五條 將校生徒若クハ機關生徒ヲ命シタル者ニハ其ノ際一度限リ被服費トシテ四十五圓ヲ給ス

第六條 將校生徒若クハ機關生徒天災其ノ他避ク可カラサル事由ニ因リ被服ヲ亡失シタルトキハ四十五圓ヲ最上限トシ適宜被服費ヲ給スルコトヲ得

第七條 生徒手當金ハ毎月下旬ニ於テ之ヲ給ス

第八條 此ノ規則施行ノ細則ハ海軍大臣之ヲ定ム

附則 第九條 此ノ規則ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

第十條 明治二十二年勅令第五百二十號海軍生徒手當金規則及明治二十四年勅令第五十三號海軍造船工學校生徒手當金規則ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ廢止ス

朕海軍被服條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽 海軍大臣伯爵西鄉從道

勅令第二百五十五號(官報十二月十八日)

海軍被服條例中左ノ通改正ス 第一條 海軍士官准士官ニハ武裝手當トシテ初任ノ際士官ニハ八十圓准士官ニハ四十圓ヲ支給ス

海軍下士卒現役中ハ第一表ニ依リ官職相當ノ被服物品ヲ交付ス

(參照) 勅令第六十五號海軍被服條例(明治二十三年三月二十八日官報)抄録 第一條 海軍下士卒現役中ハ第一表ニ依リ官職相當ノ被服物品ヲ交付ス

朕海軍機關生徒及技手生徒手當金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽 内閣總理大臣伯爵伊藤博文 海軍大臣伯爵西鄉從道

勅令第二百五十六號(官報十二月二十日)

明治二十六年度ニ於テ海軍機關生徒ノ手當金ハ海軍兵學校生徒手當金ノ例ニ依リ技手生徒手當金ハ海軍造船工學校生徒手當金ノ例ニ依リ支給ス

朕師團監督部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽 陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第二百五十七號(官報十二月二十一日)

明治二十三年勅令第五十六號師團監督部條例中左ノ通改正ス 第一條 陸軍司計部ノ五字及ニ近衛師團監督部ノ劃注ヲ削ル

明治二十六年十二月 勅令 第二百五十六號 第二百五十七號

附則  
本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第五十六號師團監督部條例(明治二十三年三月二十八日官報)抄録  
第一條 師團監督部ハ師團司令部所在地ニ之ヲ置キ陸軍司計部陸軍糧餉部陸軍經務部ヲ管理シ  
陸軍司計部事務ヲ監督シ陸軍官衛會計事務ヲ監視シ總テ官金ノ收支官有物出納ニ關スル計算及物件  
檢査且管區内軍吏部士官下士ノ人事ヲ掌ル所トス

朕陸軍司計部條例廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治二十六年十二月二十日

勅令第二百五十八號(官報十二月二十二日)

明治二十三年勅令第五十七號陸軍司計部條例ヲ廢ス

附則

本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

朕陸軍定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治二十六年十二月二十日

勅令第二百五十九號(官報十二月二十二日)

陸軍定員令中左ノ通改正ス

一 第六條其六中「中央司計部(附表第十五號丙)並司計部(附表第十五號戊)ヲ削除ス

一 附表第十一號王師團監督部定員表中第一課ノ縱畫「(一)」「(二)」「(三)」「(四)」ヲ「(一)」「(二)」「(三)」ニ計ノ區畫  
「六」ヲ「七」ニ下士及計ノ區畫各「四」ヲ「一六」ニ改ム

一 附表第十五號丙陸軍中央司計部定員表及同第十五號戊陸軍司計部定員表ヲ削除ス

附則

本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第二百六十七號陸軍定員令(明治二十三年十一月四日官報)抄録

第十一號五

師團監督部定員表

區分	階級		乘馬		下士	
	第一課	第二課	第一課	第二課	第一課	第二課
第一課	課長	課長	一	一	一	一
第二課	課長	課長	一	一	一	一
第三課	課長	課長	一	一	一	一
計	一	二	三	三	六	一四

第十五號丙

陸軍中央司計部定員表



第十五號

陸軍會計部定員表

主管	一等軍吏	一	計算官	二(三)等軍吏	五	下士	一四
	一等軍吏	二	二等軍吏	三	三等軍吏	下	士
	一	計算官	一				四

陸軍會計部定員表

御名 御璽

明治二十六年十二月二十日

文部大臣 井上毅

勅令第三百六十號(官報十二月二十一日)

市町村立小學校教員任用令

第一條 市町村立小學校教員ハ市長又ハ郡長ノ推薦ニ由リ小學校教員銓衡委員ノ銓衡ヲ經テ府縣知事之ヲ任ス

第二條 小學校教員銓衡委員ハ府縣知事ノ指命スル所ノ府縣高等官及判任官各一人尋常師範學校長及其ノ教員二人ヲ以テ組織ス

第三條 明治二十三年勅令第三百十五號小學校令第五十九條第一項第二項第三項ハ删除ス

(參照)

勅令第三百十五號小學校令(明治二十三年十月七日官報)抄錄  
第五十九條 市町村立小學校ノ教員ハ市町村長ニ於テ薦舉スル所ノ三名以下ノ候補者ニ就キ府縣知事之ヲ任スルモノトス

府縣知事ハ前項ノ候補者適當ナラスト認ムルトキハ再ヒ薦舉ヲナシテ適當ナラスト認ムルトキハ薦舉ニ依ラスシテ直ニ之ヲ任スヘシ  
本條第一項ノ薦舉ハ教員ノ缺員ヲ生シ又ハ新ニ其位地ヲ設ケタル日ヨリ二十八日以内ニ之ヲ施行シ第二項ノ薦舉ハ其薦舉ヲ命セラルタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ施行スヘシ若シ此期限内ニ施行セザルトキハ府縣知事ハ薦舉ニ依ラスシテ直ニ之ヲ任スヘシ

朕明治二十四年勅令第五十五號ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月二十六日

内閣總理大臣 伊藤博文  
大藏大臣 渡邊國武

勅令第三百六十一號(官報十二月二十七日)

明治二十四年勅令第五十五號左ノ通改正ス

第一條 政府ヲ第三債務者トシテ發スル差押命令ハ左ノ二項ニ掲クルモノ、外仕拂命令官ニ宛テ之ヲ發スルモノトス

仕拂命令官既ニ現金前渡ノ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ於テハ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ向テ差押命令ヲ發スルモノトス但記名公債元利ニ對スル差押命令ハ公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ向テ發スルモノトス

預金保管金、供託金ニ對スル差押命令ハ中央金庫ニ係ルモノハ金庫出納役、本支金庫ニ係ルモノハ關係ノ金庫出納役代理人ニ向テ發スルモノトス  
第二條 繼續收入ノ債權差押ノ場合ニ於テ關係官廳又ハ金庫ニ變更アルトキハ甲官吏又ハ甲金庫ノ受ケタル差押命令ハ乙官吏又ハ乙金庫ニ於テ之ヲ承繼スルモノトス

第三條 差押債權者差押命令送達ノ通知ヲ受ケタルトキ緊急ノ場合ニ於テハ仕拂ヲ執行スヘキ金庫ニ向ヒ假リニ仕拂ノ停止ヲ求ムルコトヲ得

第四條 仕拂命令、仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書及現金引出切符ヲ政府ノ債權者ニ交付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ當該仕拂命令官又ハ現金前渡ヲ受ケタル當該官吏ハ速カニ金庫ニ向テ差押金額ノ仕拂ヲ停止スヘシ

第五條 差押ヘラレタル金額ヲ裁判所ノ命令ニ依リ差押債權者ニ仕拂フヲ要スルトキハ當該仕拂命令官、現金前渡ヲ受ケタル當該官吏、銀行又ハ金庫ニ於テ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 配當要求ノ送達又ハ民事訴訟法第六百七條ノ命令ヲ受ケタル場合ニ於テハ當該仕拂命令官、現金前渡ヲ受ケタル當該官吏、銀行又ハ金庫ニ於テ供託ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 差押金額ノ仕拂停止、仕拂執行又ハ、供託ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第八條 假差押命令ノ場合ニ於テハ本令ヲ準用ス

附則

第九條 本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

明治二十四年六月廿九號勅令第五十五號ハ政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受ケタル場合ニ於ケル會計上ノ規程ナリ

法律第二十九號民事訴訟法(明治二十三年四月二十一日官報)抄録

第五百五條第二項  
債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申出テサルトキハ債務者ノ申立ニ因リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルコトヲ許ス可シ

シメテ執行ヲ免カルコトヲ許ス可シ

第六百七條 第五百五條第二項ニ從ヒテ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルコトヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金額債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムル效力ノミヲ有ス

朕海軍服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月二十七日

海軍大臣伯爵西鄉從道

勅令第二百六十二號(官報十二月二十八日)

海軍服制將校以下服制表中禮服上衣製式大將ノ部ヲ「フロックコート」製胸二重ト改メ同正服上衣製式大將ノ部ヲ禮服ニ同シト改メ常服上衣製式大將ノ部中「一條ヲ」ノ下ニ附シ左右下部ニ各一箇ノ隠シヲノ十四字ヲ加フ

同表中大禮服ヲ「正服」ト改メ「正服」ヲ「軍服」ト改メ「常服」ヲ「通常軍服」ト改ム

下士卒服制表中禮服ヲ「正服」ト改メ「正服」ヲ「軍服」ト改メ「常服」ヲ「通常軍服」ト改メ「夏正服」ヲ「夏軍服」ト改メ「夏常服」ヲ「夏通常軍服」ト改メ「夏軍服」ト改ム

下士卒事業服制表中「夏常服」ヲ「夏通常軍服」ト改ム

軍樂師以下服制表中「禮服」ヲ「正服」ト改メ「正服」ヲ「軍服」ト改メ「常服」ヲ「通常軍服」ト改ム

生徒服制表中「正服」ヲ「軍服」ト改メ「常服」ヲ「通常軍服」ト改ム

明治二十六年十二月勅令

五二六

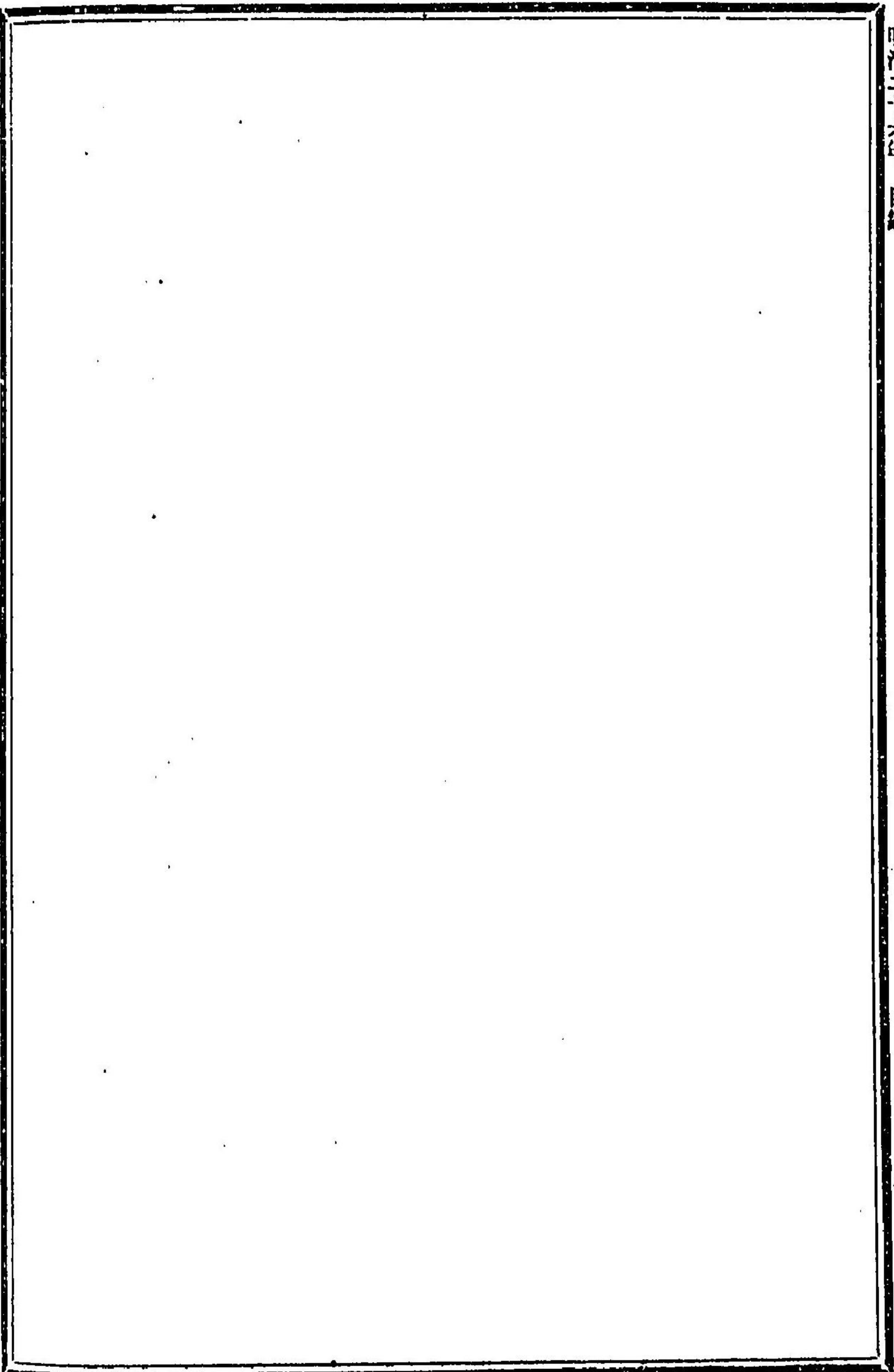
法令全書目錄

三月十八日 製艦費ノ獻金ヲ受納セス特ニ其愛國ノ志ヲ感賞ス

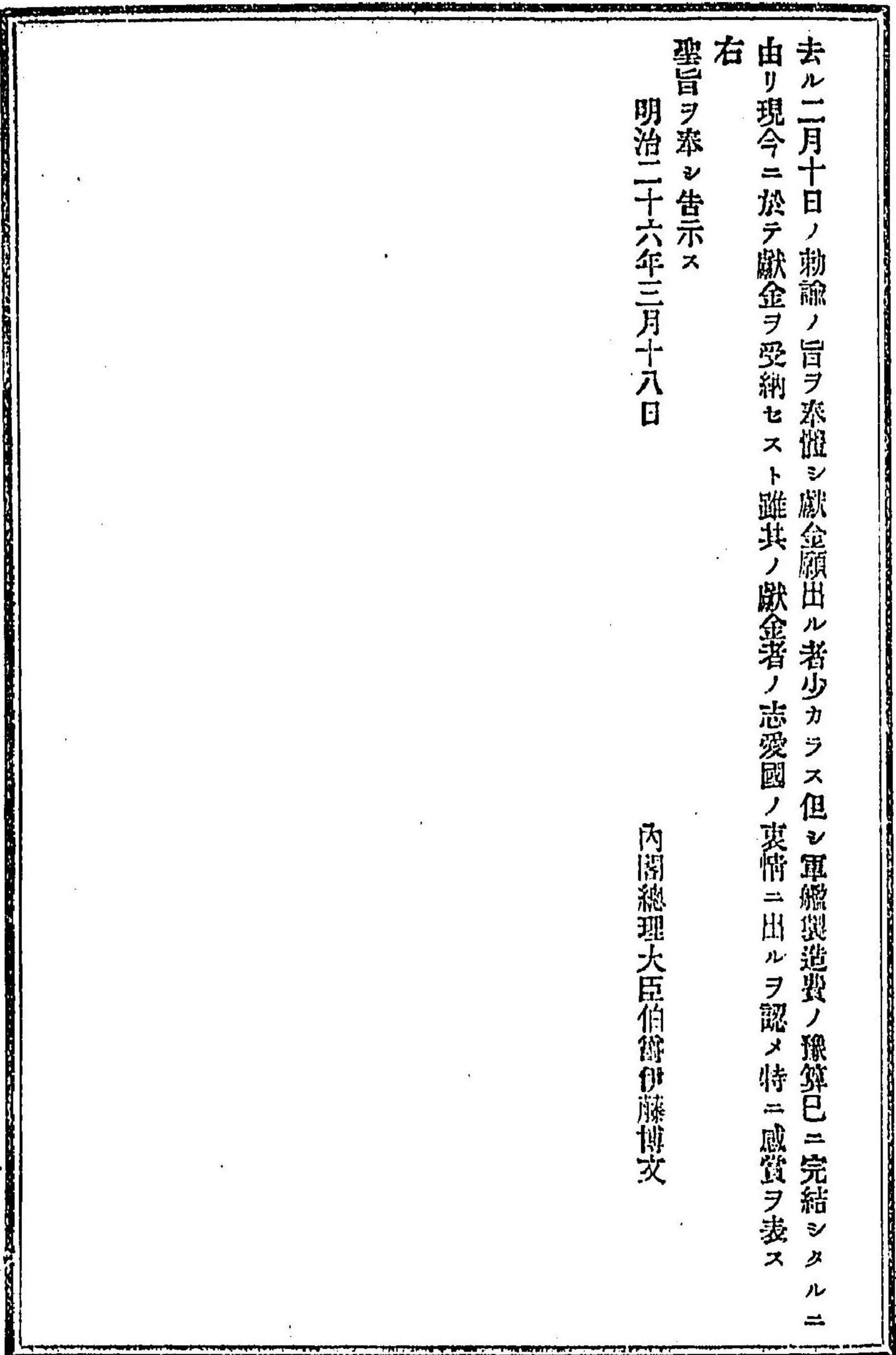
三三三

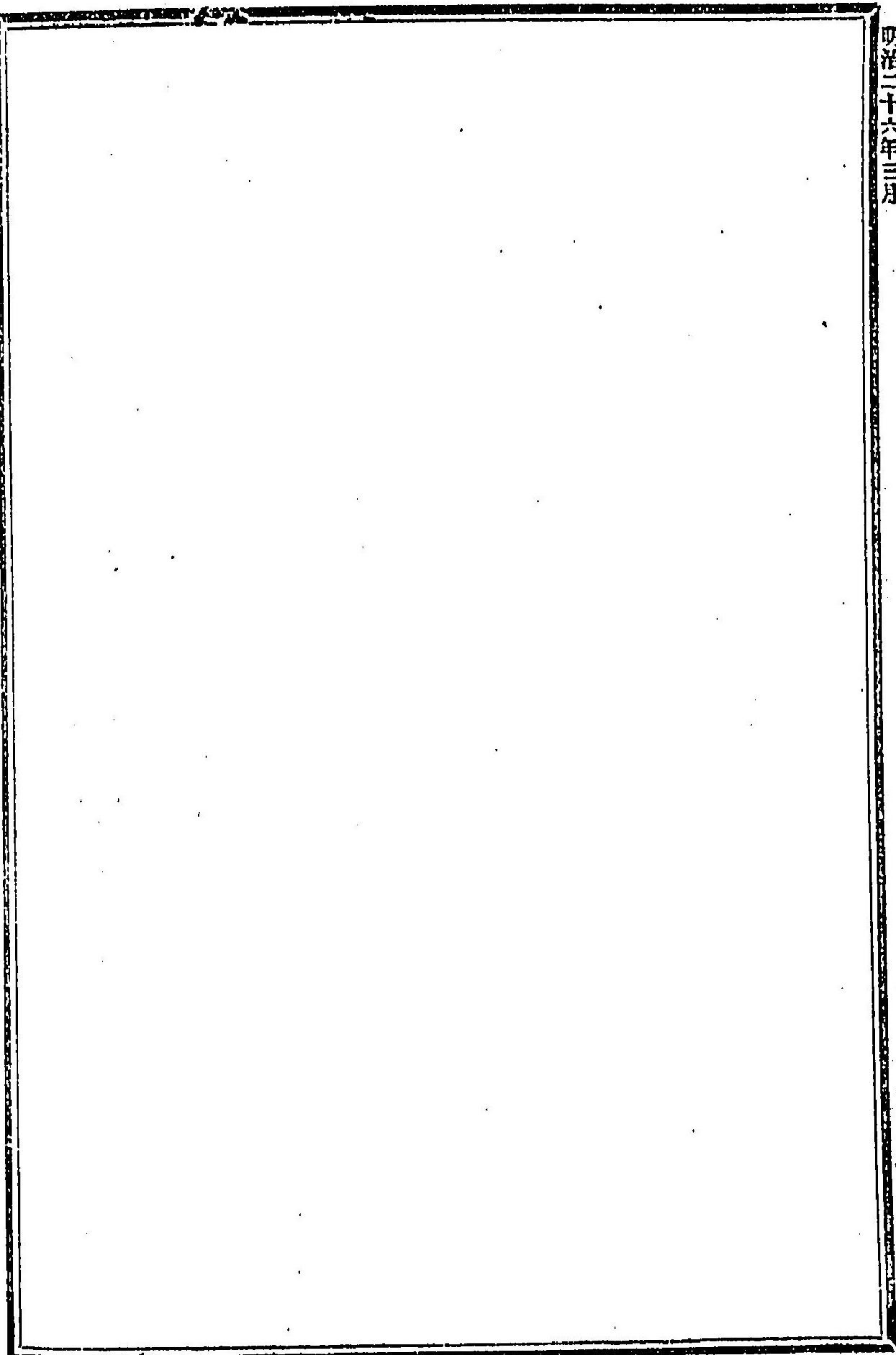
一頁

明治二十六年 目錄



去ル二月十日ノ勅諭ノ旨ヲ奉愷シ獻金願出ル者少カラス但シ軍艦製造費ノ豫算已ニ完結シタルニ  
由リ現今ニ於テ獻金ヲ受納セスト雖共ノ獻金者ノ志愛國ノ衷情ニ出ルヲ認メ特ニ感賞ヲ表ス  
右  
聖旨ヲ奉シ告示ス  
明治二十六年三月十八日  
内閣總理大臣伯爵伊藤博文





法令全書

閣令

○閣令第一號

明治二十五年十一月閣令第六號中但書ノ次ヘ左ノ一項ヲ加フ  
地方ノ狀況又ハ廳務ノ性質上止ムヲ得サルモノニ限リ主務大臣ハ閣議ヲ經テ右時間ノ繰替ヲ爲  
スコトヲ得

明治二十六年一月六日

内閣總理大臣臨時代理  
内務大臣伯耆井上 馨

〔參照〕

閣令第六號(明治二十五年十一月二十二日)

各省廳職務時間自今左ノ通改定ス

四月二十日ヨリ七月十日迄

午前八時ヨリ午後四時ニ至ル

七月十一日ヨリ九月十日迄

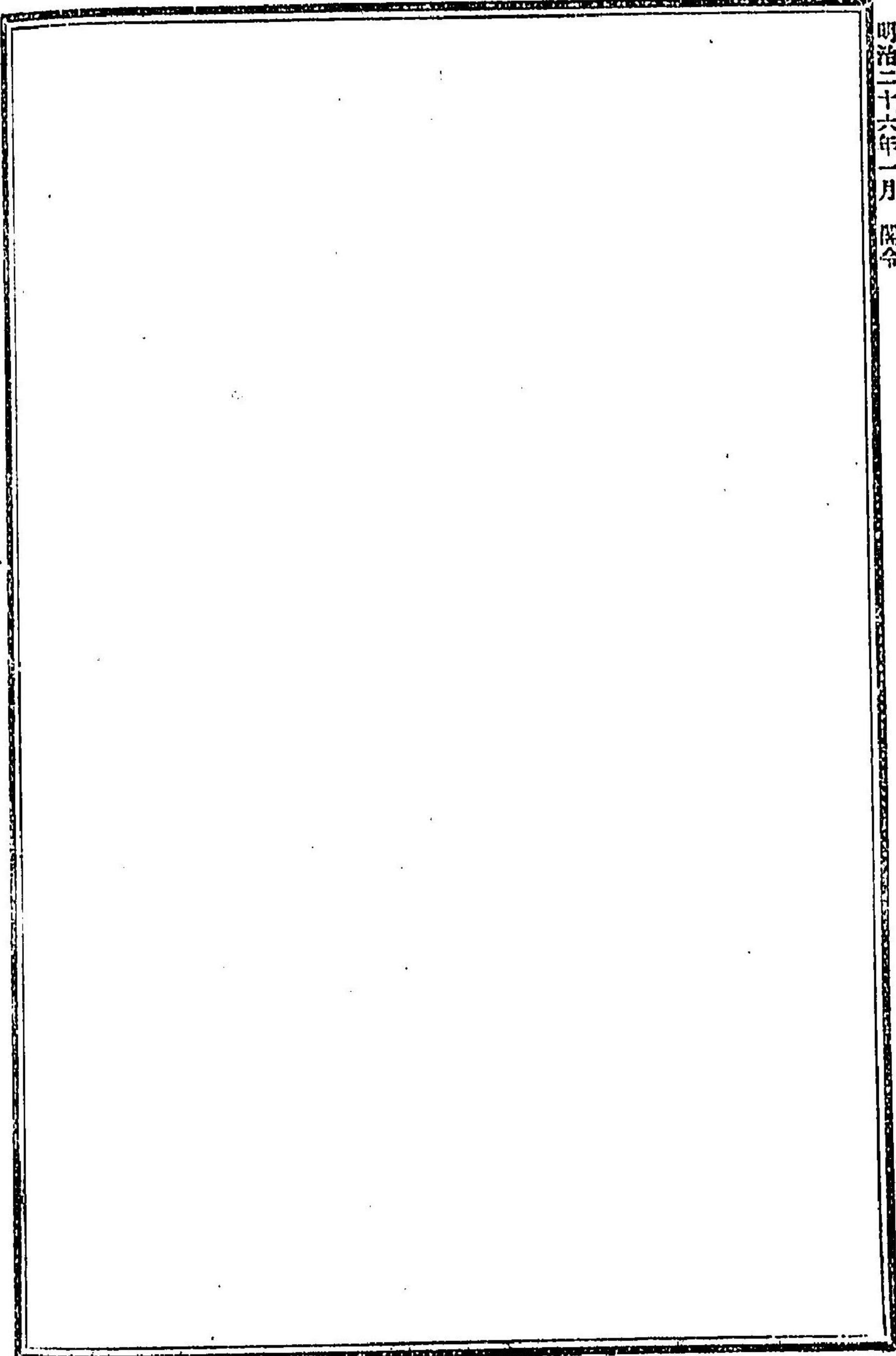
午前八時ヨリ午後十二時ニ至ル

九月十一日ヨリ四月十九日迄

午前九時ヨリ午後五時ニ至ル

但土曜日日曜日ハ從前ノ通

奉養齋則ノ場合ニ於テハ上官ノ指揮ニ依リ晝夜ニ拘ハラヌ職務スヘシ



○閣令第二號

明治二十二年閣令第十二號歳入歳出豫算概定順序中左ノ通改正ス

第一條及第三條中前々年度三月三十一日ヲ前年度五月三十一日ニ改ム

第五條中四月十五日ヲ六月三十日ニ改ム

第七條中四月二十日ヲ七月十五日ニ改ム

第八條中六月二十日ヲ八月三十一日ニ改ム

明治二十六年十一月十一日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

〔参照〕

閣令第十二號歳入歳出豫算概定順序(明治二十二年三月二十七日)抄録

第一條 歳入ノ事務管理廳ハ毎年度歳入概算書ヲ調製シ前々年度三月三十一日マテニ之ヲ大蔵大臣ニ送付スヘシ

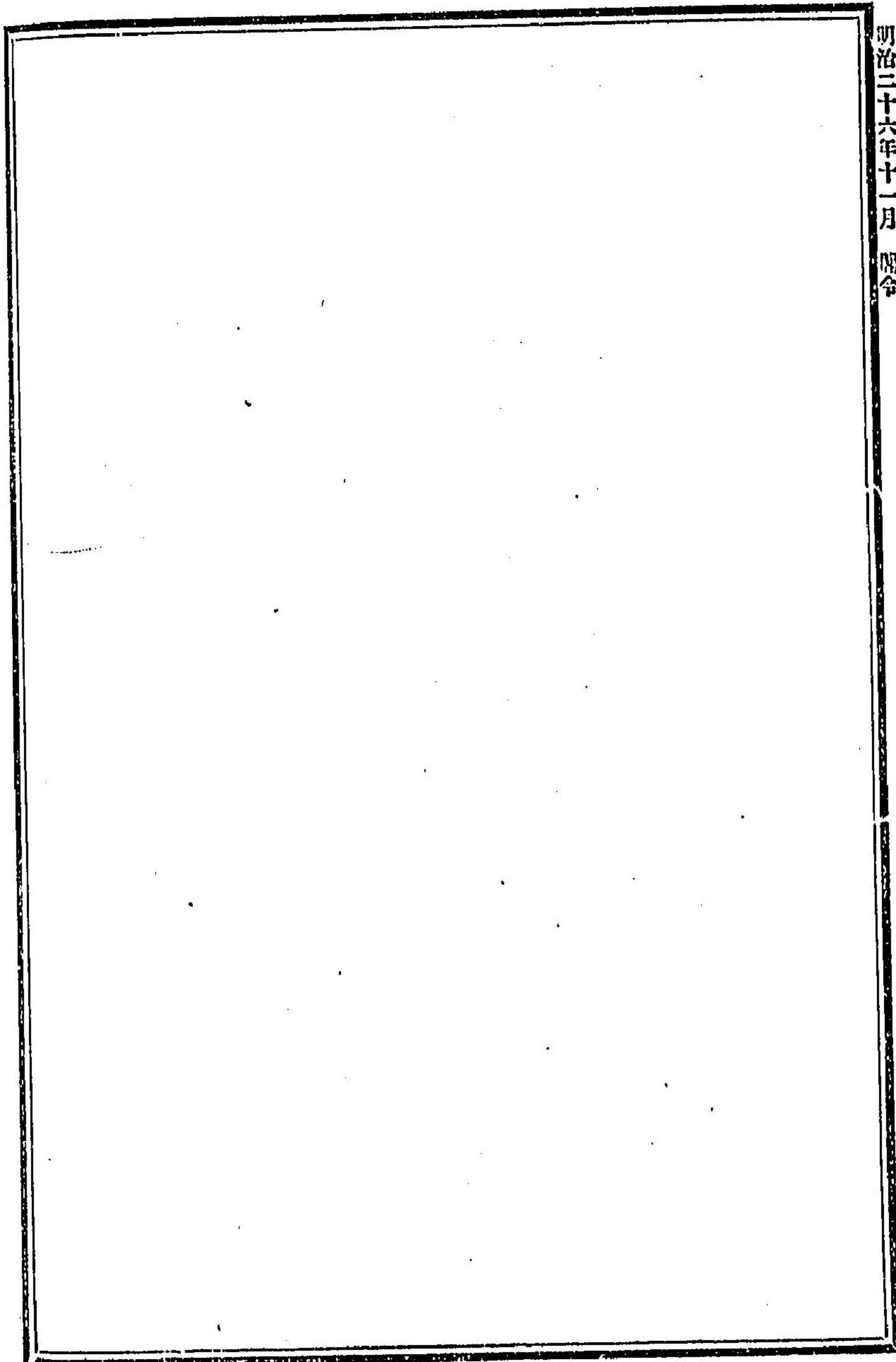
第三條 各省大臣ハ毎年度歳入概算書ヲ調製シ前々年度三月三十一日マテニ之ヲ大蔵大臣ニ送付スヘシ

第五條 大蔵大臣ハ各廳ノ歳入概算書及歳出概算書ヲ檢案シ歳入出ヲ對照調理シ歳入出總概算書ヲ調製シ前年度四月十五日マテニ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第七條 内閣ニ於テハ前年度四月三十日マテニ歳入出總概算書ヲ決定スヘシ

第八條 各省大臣ハ内閣ニ於テ決定シタル各省所管經費毎項ノ概算額以内ニ於テ節約ヲ旨トシ毎年度ノ各省豫定經費要求書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ大蔵大臣ニ送付スヘシ

明治三十六年十二月 附令



法令全書

省令

○司法省令第一號

新潟地方裁判所管内新發田支部ニ於テハ明治二十六年二月一日ヨリ重罪公判及ヒ民事、刑事第二  
審ヲ除ク外地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル事務ヲ取扱ハシム

明治二十六年一月十二日

司法大臣伯耆山縣有朋

○大藏省令第一號

明治二十三年十一月當省令第三十五號船稅徵收手續ハ船籍規則實施ノ期日迄之ヲ實施セス

明治二十六年一月十六日

大藏大臣渡邊國武

○司法省令第二號

安濃津地方裁判所管内四日市、山田兩支部及ヒ岐阜地方裁判所管内高山支部ニ於テハ來ル二月一  
日ヨリ地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル民事第一審ノ事務ヲモ取扱ハシム

明治二十六年一月十六日

司法大臣伯耆山縣有朋

○海軍省令第一號

海軍志願兵徵募細則第二條中「一月」ヲ「四月」ニ第三條中「三月十日」ヲ「六月十日」ニ第五條中「四月一  
日」ヲ「七月一日」ニ改正ス

明治二十六年一月十七日

海軍大臣子爵仁禮景範

(參照)

海軍省令第五號海軍志願兵徵募細則(明治二十二年六月二十日抄録  
第二條 志願兵徵募ノ數額ハ毎年一月ニ於テ告示ス

明治二十六年一月 省令 司法省第一號 第二號 大藏省第一號 海軍省第一號



第三條 前條ノ骨示アリタルトキ地方長官ハ其年海軍志願兵徵募規則第三條ノ年令ニ適スル者ヲシテ出願セシメ島郡市長ヲシテ之ヲ調査セシメ島郡市長及兵種ヲ區別シ志願人員表ヲ作り三月十日迄ニ之ヲ海軍志願兵徵募區ヲ管スル郡守府司令長官ニ送付ス可シ

島郡市長ハ志願人ヲ調査スルニ當リ海軍志願兵徵募規則第四條ニ關ルハ若キヤ否ヤヲ審査ス可シ

第五條 保守府司令長官ハ四月一日後左ノ諸官ヲ派出シ志願人ヲ検査シ採用セシム

海軍副官 志願人検査採用ノ事務ヲ掌ル

軍醫官 志願人ノ身體検査ヲ掌ル

主帳 志願人ノ身體検査ニ從事ス

看護手 軍醫官ニ關シ身體検査ニ從事ス

○内務省令第一號

衛生試驗所ノ印紙ヲ貼付シタル藥品ノ外凡ソ物品ノ廣告揭示印刷物又ハ其容器包紙ニ衛生局又ハ衛生試驗所ノ保證又ハ試驗濟其他之ニ類スル文字ヲ記入スルコトヲ得ス若シ衛生試驗所ノ試驗成績ヲ表示セントスル者ハ其成績書ノ全文ヲ記載スヘシ之ヲ増減變更スルコトヲ得ス

此省令ニ違背シタル者又ハ衛生試驗所ノ検査ヲ詐稱シタル者ハ拾圓以内ノ罰金ニ處ス

本令ハ明治二十六年七月一日ヨリ施行ス

明治二十六年一月十九日 内務大臣伯耆井上 馨

○海軍省令第二號 吳軍港規則中左ノ通改正ス

明治二十六年一月二十六日

海軍大臣子爵仁禮景範

第二條ヲ左ノ通改ム

第二條 軍港ニ入港スル軍艦及西洋形商船ハ島小島ヨリ小麗女島ニ至ル線外三里ノ所ヨリ投錨マテ又出港スルトキハ航進ヲ始メタルトキヨリ該線外ニ出ルマテ艦船名符字信號旗ヲ掲揚ス

第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

但島小島ヨリ城山 觀測所ヲ設ニ至ル線内ニハ何タル艦船ヲ問ハス火藥劇發物ヲ積載シ進入スルコトヲ許サス

〔參照〕

海軍省令第十一號吳軍港規則(明治二十三年八月五日)抄録

第二條 軍港ニ入港スル軍艦及西洋形商船ハ軍港外三里以外ノ所ヨリ投錨マテ出港スルトキハ航進ヲ始メタルトキヨリ港外ニ出ルマテ艦船名符字信號旗ヲ掲揚スヘシ

第七條 軍艦ノ外火藥劇發物ヲ積載セル船舶ハ司令長官ノ許可ヲ得ルニアラザレハ小麗女島小島以内ニ航進スルコトヲ得ス

及田島ヨリ南島ニ至ル線外ニ出ルコトヲ得ス

明治二十六年一月 會令

寄大に 別冊 目録の部より

○逓信省令第一號

明治二十三年逓信省令第十七號電報局渡規則中第八條第十條及第十一條左ノ通改正シ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

明治二十六年二月二日

逓信大臣伯爵黒田清隆

第八條 電報局渡證書ヲ受領シタル者ハ電報局渡料トシ一箇年六圓ヲ納ムヘシ

其料金ハ年額ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニヨリ一期分毎ニ之ヲ當該局ニ前納スヘシ  
但二期以上ノ分ヲ一時ニ前納スルモ妨ケナシ

第一期 一月ヨリ三月マテ

第二期 四月ヨリ六月マテ

第三期 七月ヨリ九月マテ

第四期 十月ヨリ十二月マテ

第十條 電報局渡料金ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第十一條 料金ノ既納ニ係ルモノハ一期ノ中途ニ於テ證書ヲ還納スルト雖モ之ヲ還付セズ

但證書ヲ還納シタル次期以下ニ屬スル局渡料前納アルトキハ其次期以下ノ分ハ郵便切手ヲ以テ還付ス

〔参照〕

逓信省令第十七號電報局渡規則(明治二十三年八月二十五日)抄録

第八條 電報局渡證書ヲ受領シタル者ハ電報局渡料トシテ一箇年六圓ヲ納ムヘシ

其料金ハ年額ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ依リ一期分毎ニ之ヲ當該局ニ前納スヘシ但特ニ納期ヲ定ムルモノハ此限ニテラス  
第一期 一月ヨリ三月マテ

第二期 四月ヨリ六月マテ  
第三期 七月ヨリ九月マテ  
第四期 十月ヨリ十二月マテ

第十條 料金を既納ニ係ルモノハ一期ノ中途ニ於テ電票ヲ返納スルト雖之ヲ還付セス  
第十一條 電報局渡料金ハ一等郵便電信局又ハ二等郵便電信局ニ於テハ通貨ヲ以テ之ヲ當該局ニ納付シ二等電信局又ハ三等郵便電信局電信局ニ於テハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

○逓信省令第二號

明治二十四年六月逓信省令第五號長崎烏拉日阿斯德間海底電信線經由本邦及露西亞國西伯利亞間發着電報ノ一語料金八拾六錢四厘ヲ壹圓八厘ト改正シ明治二十六年二月十一日ヨリ施行ス  
明治二十六年二月四日 逓信大臣伯耆黒田清隆

○大藏省令第二號

明治二十一年四月大藏省令第三號烟草稅則施行細則中左ノ通り改正ス  
明治二十六年二月十三日 大藏大臣渡邊國武  
第十條第二項ノ次ヘ左ノ一項ヲ追加ス  
烟草營業人ニ於テ所持ノ製造烟草ヲ定價以上ニ賣捌カントスルトキハ原製造人ニ托シ定價ヲ改メ改定定價ニ相當スル印紙ヲ増貼セシムヘシ

〔參照〕

大藏省令第三號烟草稅則施行細則(明治二十一年四月二十六日)抄録  
第十條 稅則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種烟草一束毎ニ各之ヲ紙袋入り又ハ紙包入りトシ其包裏ノ控キ目合セ目等ハ糊類ヲ以テ完全ニ之ヲ固着シテ貼用印紙ヲ破毀セサレハ烟草ヲ取り出スヲ得サル様ニ密封スヘシ  
製造烟草每箇ノ本額定價氏名住所及製造年月日ハ普通ノ文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ其包裏ノ表面ニ記入スヘシ

○逓信省令第三號

西洋形船登符船免狀ヲ受有スヘキ船舶ヲ製造シ若クハ之ヲ取得シ該免狀ノ下付ヲ願出ツルモ其下付ヲ待ツノ暇ナク至急航海ヲ要スルトキ又ハ船籍港外ニ在テ同上ノ船舶ヲ製造シ若クハ之ヲ取得シタルトキハ國內ニ於テハ地方官廳外國ニ於テハ日本領事館ニ假免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得其效用期限ハ免狀下付ノ日ヨリ起算シ地方官廳ヨリ交付シタルモノハ三箇月領事館ヨリ交付シタルモノハ六箇月トス但正當ノ理由アルモノハ此ノ限ニアラス  
明治二十六年二月十五日 逓信大臣伯耆黒田清隆

○陸軍省令第一號

徵兵令第二十一條第二項ニ當ル者ノ内公使及領事ヲ置カサル國ニ留學ノ者ハ其徵集檢豫願書ニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ證明書ヲ添ヘ差出ス可シ  
明治二十六年二月十七日 陸軍大臣伯耆大山 熾

〔參照〕

法律第一號徵兵令(明治二十二年一月二十二日官報)抄録  
第二十一條第二項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歳迄徵集ヲ猶豫ス二十六歳迄ニ歸朝シ又ハ二十六歳ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

○農商務省令第一號

明治二十四年八月農商務省令第十一號度量衡法施行規則第一條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス  
明治二十六年二月二十八日 農商務大臣伯耆藤象二郎  
地方長官ニ於テ地方ノ狀況ニ依リ該廳所在地外ニ當置檢定所ヲ設置スヘキ必要アリト認ムルトトハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

〔參照〕

農商務省令第十一號度量衡法施行規則(明治二十四年八月十九日)抄録

第一條 度量衡檢定所ハ常置特設ノ二トシ常置檢定所ニ於テハ製作修置若ハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定シ特設檢定所ニ於テハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定ス  
常置檢定所ハ地方廳所在地ニ一箇所ヲ置キ特設檢定所ハ定期檢定ヲ施行スルトキ地方長官便宜其ノ場所ヲ指定スヘシ  
前項特設檢定所ノ場所及檢定ノ期日ハ其ノ檢定ヲ施行スル期日ヨリ少クモ一箇月以前ニ之ヲ告示スヘシ

○大藏省令第三號

本年勅令第五號ニ據リ文武官及雇員ヨリ納ムヘキ製鐵費納金收入規程左ノ通相定ム

明治二十六年三月一日

大藏大臣渡邊國武

第一條 製鐵費納金ハ俸給仕拂ノトキ金庫ニ於テ之ヲ領收スヘシ但現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ俸給ノ仕拂ヲナストキハ該官吏ニ於テ之ヲ徵收スヘシ  
第二條 前條ニ依リ金庫ニ於テ領收シタル金員ハ收入官吏ノ計算ニ移シ直ニ報告書ヲ作り之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ  
現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ納金ヲ徵收シタルトキハ現金ヲ領收スル收入官吏トシテ其收入ヲ取扱フヘシ  
前項ノ場合ニ於テ他ニ普通ノ諸收入ヲ收入スル收入官吏アルトキハ納金額表ヲ添ヘテ其納金ヲ該收入官吏ニ送付スヘシ  
第三條 製鐵費納金ニ係ル俸給支給ノ仕拂命令仕拂請求書及金額氏名表ハ明治二十三年當省令第十七號書式ニ準據シ製鐵費納金引去高トシテ整理スヘシ但官吏遺族扶助法納金アルモノハ其國庫納金引去高ノ次位ニ製鐵費納金引去高ノ項ヲ設ケテ整理スルモノトス

〔參照〕

明治二十三年七月廿四日大藏省令第十七號ハ官吏遺族扶助法納金ニ係ル文官判任以上ノ者俸給支給ノ仕拂命令仕拂請求書及金額氏名表書式ナリ

○陸軍省令第二號

明治二十三年當省令第十號陸軍給與令細則旅費ノ部中左ノ通改正ス

明治二十六年三月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第十六條本文中但書ヲ一時宜ニ依リ該定額内ヲ以テ實費支辨スルコトヲ得ニ改メ及ヒ左ノ一項ヲ

加フ

測量班ヲ設ケサル要塞堡壘砲臺地ニ關シ測量ノ爲メ出張ノ者モ亦本條ニ準シ旅費ヲ給ス  
同條第一項中「十里」ヲ「十二里」「六里」ヲ「七里」ニ改ム

(參照)

陸軍省令第十號(明治二十三年四月一日)抄條

陸軍給與令細則

第九章 旅費

第十六條 陸地測量及修技所生徒測量修業ノ爲メ出張セシムル者ハ左ノ各項ニ依リ乙表ノ旅費ヲ給ス但測量班ヲ設ケサル

要塞堡壘砲臺地ニ關シ測量ノ爲メ出張ノ者モ亦本條ニ準シ旅費ヲ給ス

一 在職ノ地ヨリ測量地ニ至ルル途程ニ到ル往返及測量地敷班ニ分別シタルトキ甲班ヨリ乙班ニ轉スル旅行ハ陸

路十里毎ニ甲額ヲ給ス十里以上ノ端里數一里未満ハ給セス一里以上六里未満ハ半額六里以上ハ全額トス但海路ニ非

ラサルハ至リ難キ地方ハ之ヲ陸路ニ改算スヘシ

○遞信省令第四號

明治十九年七月 遞信省令第十九號船燈信號器製造販賣規則第十條ノ次ヘ左ノ一條ヲ加ヘ以下順次繰

下

明治二十六年三月二日

遞信大臣 伯耆黒田清隆

第十一條 第一條ニ違背シ船燈若クハ發火信號器ヲ製造シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

ニ處ス

○遞信省令第五號

海難取調手續左ノ通り相定ム

明治二十六年三月三日

遞信大臣 伯耆黒田清隆

第一條 本令ハ船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者ノ乘組タル船舶ノ海難ニ罹リタル場合ニ適

用ス

第二條 船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者其職務ニ從事シ海難ニ罹リタルトキハ書面又ハ口

頭ヲ以テ遭難地又ハ遭難後始メテ著シタル地ノ船舶司檢所又ハ警察署(船舶司檢所設置ナキ地)

ヘ直ニ其事由ヲ届出ツヘシ

第三條 何人タリト雖トモ船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者其職務ニ從事シ海難ニ罹リタル

コトヲ知リタルトキハ書面又ハ口頭ヲ以テ其地ノ船舶司檢所又ハ警察署ニ届出ツヘシ

第四條 船舶司檢所又ハ警察署第二條及第三條ノ届出ニ依リ又ハ自ら其事實ヲ知リタルトキハ

船長運轉手機關手ハ勿論場合ニ依リテハ關係人ヲモ召喚シ左ノ事項ヲ取調ヘ取調書ヲ作ルヘシ

警察署ノ取調ニ係ルトキハ其取調書ヲ最近ノ船舶司檢所ニ遲滞ナク送致スヘシ取調書ニハ取調

ヲ爲シタル者ノ官氏名及ヒ年月日ヲ記入スルヲ要ス

一 取調ヲ受ケタル者ノ住所氏名職業年齡

二 遭難船ノ名稱種類積置馬力(汽船ナキ)船主ノ住所氏名及積荷ノ有無

三 發航地到達地及遭難地ノ名稱年月日時

四 發航以後遭難迄ノ天候航路及遭難ノ顛末

五 船舶被損ノ箇所及ヒ其再用適否

六 乘組員及ヒ船客ノ員數死傷ノ有無

七 船長運轉手機關手ノ住所氏名免狀ノ種類番號

八 人命及ヒ船舶救護ノ方法

九 發航以後船長運轉手機關手能取及ヒ看守ノ當直時間並其氏名

十 本船平均速力及ヒ遭難當時ノ速力

十一 使用海圖ノ種類及ヒ番號

- 十二 航路ヲ指定シタル羅針盤ノ所在及ヒ其航路ニ於ケル羅針盤ノ自差(自差トハ通常羅針ノ指  
示スル位地カ船内ノ鐵  
氣ニ感シ左若クハ右ヘ其位ヲ移  
轉シ爲メニ生シタル差違ヲ謂フ)
- 十三 航海日誌ノ存否
- 十四 取調ヲ受ケタル者其地ニ滞在シ又ハ何日以後ハ何地ニ至ルヘキコト
- 右ノ外必要ト思料スル諸件アルトキハ適宜之ヲ取調ルコトヲ要ス
- 第五條 前條ノ場合ニ於テ船舶司檢所又ハ警察署ハ船名、避難地名時日及ヒ避難模様ノ大略ヲ記  
シ遲滞ナク遞信省ニ報告スヘシ
- 第六條 船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者ニシテ第二條ノ規定ニ違背シ海難ノ届出ヲ爲サ、  
ル者ハ貳圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

○農商務省令第二號

明治二十五年十一月十一日農商務省令第十七號特許條例施行細則中左ノ通加除改正ス  
明治二十六年三月七日 農商務大臣伯爵後藤象二郎

- 第三十條第七項ヲ削除シ第八項ヲ七項ト改ム
- 第四十三條第七項ヲ削除シ第八項ヲ七項ト改ム
- 第四十四條第四十六條第五十四條ヘ各左ノ但書ヲ追加ス  
但特許局審査官ハ被請求人トシテ記載スルノ限ニアラス

〔參照〕

農商務省令第十七號特許條例施行細則(明治二十五年十一月十八日抄録)  
第三十條 特許ヲ拒絕スル査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ  
七 査定ヲナシタル審査官ノ官氏名

- 第四十三條 紙圖ノ査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ
- 七 査定ヲナシタル審査官ノ官氏名
- 第四十四條 審判ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ請求書ヲ作り特許條例第三十條第五號ノ手数料金額ニ相  
當スル登記印紙ヲ貼用シテ再査定書又ハ紙圖査定書ノ日附ヨリ六十日以内ニ提出スヘシ
- 一 請求人及ヒ被請求人及ヒ其代人ノ氏名身分職業及ヒ住所
- 二 係争事件ノ表示
- 三 請求ノ要旨
- 四 事實上若クハ法律上ノ辯論
- 五 事實上主張ノ證明
- 六 請求人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
- 七 年月日
- 第四十六條 答辯書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ
- 一 審判ノ番號
- 二 請求人及ヒ被請求人及ヒ其代人ノ氏名身分職業及ヒ住所
- 三 係争事件ノ表示
- 四 答辯ノ要旨
- 五 事實上若クハ法律上ノ辯論
- 六 事實上主張ノ證明又ハ對手人ノ申出タル證據方法ニ對スル辯論
- 七 請求人若クハ被請求人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
- 八 年月日
- 第五十四條 審決書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ
- 一 審判ノ番號
- 二 請求人及ヒ被請求人及ヒ其代人ノ氏名身分職業及ヒ住所
- 三 請求人及ヒ被請求人ノ陳述ノ要領
- 四 審決ノ理由
- 五 明細書ニ對照シ査定書アルトキハ其査定書ニ對照シテ適切ニ且ツ明確ニ記載スルヲ要ス
- 六 審決ノ主文
- 七 年月日

○農商務省令第三號

明治二十五年十一月十一日 農商務省令第十八號意匠條例施行細則中左ノ通削除改正ス

農商務大臣伯耆後藤象二郎

明治二十六年三月七日

第十七條第八項ヲ削除シ第九項ヲ八項ト改ム

〔參照〕

農商務省令第十八號意匠條例施行細則(明治二十五年十一月十八日)抄錄  
第十七條 登錄ヲ拒絕スル其定款ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ  
八 査定ヲナシタル審判官ノ官氏名

○農商務省令第四號

明治二十五年十一月十一日 農商務省令第十九號商標條例施行細則中左ノ通削除改正ス

農商務大臣伯耆後藤象二郎

明治二十六年三月七日

第十六條第七項ヲ削除シ第八項ヲ七項ト改ム

〔參照〕

農商務省令第十九號商標條例施行細則(明治二十五年十一月十八日)抄錄  
第十六條 登錄ヲ拒絕スル其定款ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ  
七 査定ヲナシタル審判官ノ官氏名

○農商務省令第五號

明治二十四年八月 農商務省令第十一號度量衡法施行規則中左ノ通改正ス

農商務大臣伯耆後藤象二郎

明治二十六年三月八日

第三十三條ニ左ノ一項ヲ加フ  
度量衡法第八條第三項ニ依リ桿秤ノ取緒及錘絲ノ修葺ヲナサントスル者ハ本條ニ依リ豫メ其ノ設計ノ承認ヲ受クヘシ

第四十條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ同條末項中原器ノ下ニ及前項ノ分銅ヲ六字ヲ加フ  
桿秤ノ取緒及錘絲ノ修葺ヲナス販賣者ハ其ノ修葺ニ要スル分銅及秤架ヲ備フヘシ

第四十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第四十四條ヲ第四十五條トシ以下順次繰下ク

第四十四條 度量衡法第八條第三項ニ依リ桿秤ノ取緒及錘絲ノ修葺ヲナシタルトキ差狂アリト  
認ムルニ於テハ其ノ旨ヲ地方廳若クハ市長町村長ニ届出ツヘシ

第四十五條中第八條ノ下ニ第三十三條第二項及第四十四條ノ十四字ヲ加フ

〔參照〕

農商務省令第十一號度量衡法施行規則(明治二十四年八月十九日)抄錄  
第三十三條 度量衡器ノ製作、修葺者ハ販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ願書ニ明治二十四年勅令第七十七號第六條ノ  
設計書ヲ添ヘ地方長官ノ經由シ農商務大臣ニ提出スヘシ但シ輸入販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ願書ニ記スヘシ

第四十條 度量衡器ノ製作者ハ修葺ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ原器ヲ備フヘシ但シ其ノ賣渡ツ地方長官ノ經由シ農商務  
大臣ニ請求スルコトヲ得  
製作ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ原器ヲ製作スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地方長官ノ檢定ヲ受クヘシ  
製作者ハ修葺ニ用非ル原器ハ毎年一回以上地方長官ノ檢定ヲ受クヘシ

第四十四條 第八條ニ違背シタル者ハ拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

○司法省令第三號

第一條 區裁判所及其出張所並ニ登記所ニ於テハ管轄内ノ地所建物及船舶所有者ノ印鑑簿ヲ備ヘ  
登記照合ノ用ニ供スヘシ

第二條 地所建物及船舶ノ所有者ハ地所建物ニ付テハ其所在地船舶ニ付テハ其定款場ヲ管轄スル  
區裁判所若クハ其出張所又ハ登記所ニ印鑑ヲ差出スヘシ

改印シタルトキ亦前項ニ同シ但前印紛失ニ因リ改印シタルトキハ同一ノ區裁判所若クハ其出張  
所又ハ登記所ニ印鑑ヲ差出シタル者二名以上ノ連署シタル書面ヲ以テ改印ノ事由ヲ疏明スヘシ



印鑑ハ郵便ヲ以テ差出スモ妨ケナシ

第三條 印鑑ハ左ノ離形ニ從フヘシ

印鑑離形(用紙厚紙五寸横一寸)

印鑑

郡市町村番地  
姓名

明治二十六年三月九日

司法大臣伯耆山縣有朋

○陸軍省令第三號

明治十九年十一月 陸軍省令第四十三號但書ヲ廢ス

明治二十六年三月十日

陸軍大臣伯耆大山 巖

〔參照〕

陸軍省令第四十三號(明治十九年十二月二十八日)  
本年省令甲第三十九號(明治二十年四月二十日)ヨリ施行ス  
但豫備役職員及ヒ後備軍兵員ノ定時演習召集ハ當分ノ内施行セズ

○陸軍省令第四號

明治二十四年十一月 陸軍省令第一號陸軍教導團生徒召募規則中左ノ追加改正ス  
明治二十六年三月十日 陸軍大臣伯耆大山 巖

第二條中「末條ノ下ニ「乃至五ノ四字ヲ加ヘ」一妻アル者」ノ前ニ「一陸海軍現役、豫備役、後備役ニ在ル者」ノ一項ヲ加ヘ以下各項ノ番號ヲ順次繰リ下ク  
第一號書式ハ願書文中「規定期」ノ服役年限ヲ相終リ可申ノ十四字ヲ削除ス

〔參照〕

陸軍省令第一號陸軍教導團生徒召募規則(明治二十四年二月十六日)抄録  
第二條 左ニ記スル者ハ志願者タルノ資格ヲ有セス但志願者ハ願書差出ノ後本條ノ事故ヲ生セシ者アラハ島司郡市(以下ハ以下同)長ハ速ニ教導團ニ報告スヘシ

- 一 妻アル者
- 二 復権ヲ得サル家賃分敷者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ其債ノ辨償ヲ替ヘサル者
- 三 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
- 四 前項ノ外平常進行修マラス同郷ニ於テ積戻セラル者

第一號書式

教導團入學願

某 儀

陸軍出身志願ニテ此度教導團生徒入團仕度候間御試験ノ上御採用被下度入團ノ上ハ四日ヨリ御規則嚴重ニ相守リ得テ陸軍ニ從事可仕萬一行狀不正又ハ卒業ノ目的無之ヨリ退團ヲ命セラレ候共決シテ違背不仕御定期ノ服役年限ヲ相終リ可申且又本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元保證人ニ於テ引受可仕依テ願書及月籍簿相添保人連署此段奉願候也

○内務省令第二號

本年三月法律第十二號ヲ以テ神奈川縣下武藏國西多摩郡北多摩郡南多摩郡ヲ東京府ノ境域ニ移リレタルニ付テハ地方稅備蓄儲蓄ノ分割及府縣會議員ニ關スル手續左ノ通之ヲ定ム

第一條 神奈川縣ニ於テ二十五年年度地方稅收支決算ニ至リ殘餘金アルトキハ其年度實收入ノ割合ニ依リ分割シ東京府ヘ引繼ヘシ若シ不足アルトキハ其年度實收入ニ割合各共府縣ニ於テ分擔スヘシ

第二條 地方稅及備蓄儲蓄經濟中土地建物等ハ總テ其物件所在ノ府縣ニ屬スルモノトス

第三條 神奈川縣ニ於テ備蓄儲蓄金穀ハ明治二十三年二月法律第五號備蓄儲蓄法改正前迄ニ徵收シタル金額ノ割合ニ依リ之ヲ分割シ東京府ヘ引繼クヘシ但地租貸與金ニ屬スルモノハ將來共所屬

ノ府縣ニ收入スルモノトシ其額ハ現金分割ノ内ニ算入シテ差引ヲ爲スヘシ

第四條 神奈川縣東京府府縣會議員及正副議長常置委員ハ改選ヲ要セス但神奈川縣西多摩郡北多摩郡南多摩郡縣會議員ハ本年三月法律第十二號施行ノ日ヨリ當然其職ヲ解キ東京府ニ於テハ右三郡ニ於テ其府既定ノ選出法ニ依リ每郡ノ人員ヲ定メ更ニ府會議員ヲ選舉セシムヘシ

第五條 囚人ハ犯罪地逮捕地等土地ニ依リ其裁判管轄ヲ定ムルモノハ其土地所屬ノ地其他ノ囚人竝ニ懲治人ハ其裁判ヲ言渡シタル地ニ依リ之ヲ分割スヘシ

明治二十六年三月十四日  
内務大臣 伯耆井上 馨

○遞信省令第六號

失踪船取扱規則左ノ通相定ム

明治二十六年三月十六日

遞信大臣 伯耆黒田清隆

失踪船取扱規則

第一條 船舶發航ノ後到達港ニ到達セス其所在分明ナラザルトキハ船主ハ左記ノ事項ヲ記シ市町村長ノ加印ヲ受ケ地方官廳ヲ經由シテ遞信省ニ届出ツヘシ

一 船舶ノ名稱 種類 積貨 馬力(汽船ナルハ)及ヒ船主ノ氏名

二 積貨ノ種類 量目及ヒ其見積代價

三 船舶乘組員及ヒ旅客ノ族籍 身分 氏名 年齢

四 發港地ノ名及ヒ其日時

第二條 前條ノ届出ハ之ヲ官報ニ掲載ス

官報掲載ノ日付ヨリ起算シ内國航海船ニ在テハ六箇月外國航海船ニ在テハ一箇年ヲ經過スルモ

船舶ノ所在尙水分明ナラザルトキハ踪跡ヲ失ヒタルモノト看做シ市町村長ニ於テ其船籍ヲ削除スルト同時ニ其旨ヲ記シ地方官廳ヲ經由シテ遞信省ニ報告スヘシ

第三條 船籍ヲ削除セラレタル後其船舶ノ所在ヲ發見シタルトキハ船主ハ其旨ヲ記シ市町村長ニ届出ツヘシ市町村長ハ其船籍ヲ復活スルト同時ニ其旨ヲ記シ地方官廳ヲ經由シテ遞信省ニ報告スヘシ

○大藏省令第四號

明治二十二年三月十二 當省令第十八號支金庫中橫濱本金庫所屬南多摩郡 八王子西多摩郡 青梅北多摩郡府中ノ三支金庫ヲ二十六年四月一日ヨリ中央金庫所屬ニ改ム

明治二十六年三月十七日  
大藏大臣 渡邊國武

○外務省令第一號

清國及朝鮮國駐在 日本帝國領事ニ於テ徵收スル左ノ種目ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ納付スヘシ

旅券並査證手数料  
清國及朝鮮國內地旅行免狀手数料  
船舶ノ國旗掲揚認可書手数料  
船舶健康證書手数料  
海員雇入雇止證書公認手数料  
錄事手数料(船主船員發取手数料其他日本帝國領事規則第二十五條ニ係ル手数料)  
右實施ノ場所及期日ハ其時々告示スヘシ

船難報告及證書並謄寫手数料  
居住婚姻出生死亡證明書手数料  
船舶出入港手数料  
船舶賣却及抵當公認手数料

明治二十六年三月十八日  
外務大臣 陸奥宗光

〔參照〕

勅令第八十號日本帝國領事規則明治二十三年五月二十日官報抄錄  
第二十五條 各地ノ法律規則又ハ慣例ニ依リ領事ノ職權又ハ取扱ヲ要スヘキ事項ニシテ該員中明文ナキモノニ付テハ其地ノ慣例ニ從ヒ五圓以内ノ手数料ヲ徴收スヘシ

○文部省令第一號

北海道廳長官府縣知事ニ於テ特ニ小學校正教員ノ急需アリト認ムル場合ニ於テハ明治二十四年十一月一號文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則第七條第一款ノ者ニ限リ公立小學校准教員ノ職ニ在リシコト一箇年以内ト雖モ檢定ノ上小學校正教員ノ免許狀ヲ授與スルコトヲ得  
明治二十六年三月十八日 文部大臣 井上毅

〔參照〕

文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則(明治二十四年十一月十七日)抄錄  
第七條 甲種ノ檢定ハ左ニ揚クル者ニ限リ之ヲ行フモノトシ第九條乃至第十二條ニ掲クル科目及其程度ヲ參照シテ其力及經歷ヲ調査スルモノトス但テ尋常小學校專科教員ニ關スル檢定ハ之ヲ行ハス  
一 高等師範學校女子高等師範學校又ハ尋常師範學校卒業生

○農商務省令第六號

明治二十五年農商務省令第六號鑛業條例施行細則中左ノ通改正ス  
農商務大臣 伯耆後藤象二郎

明治二十六年三月十八日

第五條 鑛業人ノ承諾ヲ經スシテ其試掘地若クハ鑛區ニ接近シ試掘地若クハ鑛區ヲ得ントスル者ハ其中間ニ十間以上ノ距離ヲ置キ出願スヘシ  
所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛利ヲ保護スル爲メ必要ト認メタルトキハ五十間迄前項ノ距離ヲ延長セシムルコトヲ得  
第七條 第一項中「三ヲ五ニ改ム  
第十條 但書左ノ通り改ム

但書坑又ハ地質鑛床ノ狀況ニ依リ出願鑛物ノ存在ヲ證明シ得ルトキハ標品ヲ採取スル能ハサル場合ニ限リ證明書ヲ以テ標品ニ代フルコトヲ得此場合ニ於テハ採掘願書ニ其證明書ヲ添フヘシ

第十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十二條 試掘又ハ採掘ノ出願人所轄鑛山監督署ヨリ出願地臨檢ノ通知ヲ受ルトキハ指定ノ期日ニ臨檢ニ立合フヘシ

第十二條ヲ第十三條トス

第十三條ヲ第十四條トシ其第二項前項製期月ノ下ニ「翌月」ノ三字ヲ加フ第十四條ヲ第十五條トシ第十五條ヲ第十六條トシ第十六條ヲ第十七條トシ第十七條ヲ第十八條トシ第十八條ヲ第十九條トシ第十九條ヲ第二十條トシ第二十條ヲ第二十一條トス

第二十一條ヲ第二十二條トシ左ノ通り改ム

第二十二條 鑛業人自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ其鑛山ニ代理人ヲ置キ其行ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

前項代理人ノ權限左ノ如シ

- 一、鑛山監督署ヨリ發スル命令通知ヲ受クルコト
- 二、鑛業施業案ノ認可ヲ受クルコト
- 三、坑内實測圖ヲ差出スコト
- 四、鑛業條例第三十九條ノ届書ヲ差出スコト
- 五、鑛夫使役規則及鑛夫救恤規則ノ認可ヲ受クルコト
- 六、鑛業稅及鑛區稅ヲ納ムルコト
- 七、本則第十七條ノ届書ヲ差出スコト

- 八、 鑛業警察規則第十七條及第十九條ノ所書ヲ差出スコト
- 九、 鑛業警察規則第十八條ノ場合ニ於テ必要ノ事務ヲ處辨スルコト
- 第二十二條又第二十三條トス
- 第二十三條削除
- 第二十六條第二項中若クハ補充ノ五字削除
- 第二十九條中左ノ通り改ム
- 二、 圖面添屬ナキ試掘願書又ハ鑛業條例第十二條若クハ本則第二條ノ圖面添屬ナキ探掘願書
- 三、 書留郵便ヲ以テ差出サ、ル試掘又ハ探掘願書及其添附圖面
- 四、 書留郵便ヲ以テ差出サ、ル試掘地又ハ鑛區訂正願書及其添附圖面
- 五、 書留郵便ヲ以テ差出サ、ル試掘又ハ探掘願書又ハ證明書ヲ差出サ、ルトキ
- 六、 他人ノ許可地内ニ於テ同一鑛物ヲ試掘又ハ探掘セントスルモノナルトキ
- 七、 正當ノ理由ナク本則第十二條ニ依リ立合ヲ爲サ、ルトキ
- 八、 出願地臨檢ノ際出願區域ヲ明示スル能ハサルトキ
- 九、 出願地臨檢ノ際指示スル區域願書ニ添附セシ圖面ノ區域ト若シク相違スルトキ
- 第三十條中左ノ通り改正追加ス
- 一、 本則第十條及第十一條ノ手續ニ依リ鑛物標品又ハ證明書ヲ差出サ、ルトキ
- 二、 他人ノ許可地内ニ於テ同一鑛物ヲ試掘又ハ探掘セントスルモノナルトキ
- 三、 正當ノ理由ナク本則第十二條ニ依リ立合ヲ爲サ、ルトキ
- 四、 出願地臨檢ノ際出願區域ヲ明示スル能ハサルトキ
- 五、 出願地臨檢ノ際指示スル區域願書ニ添附セシ圖面ノ區域ト若シク相違スルトキ
- 六、 出願地臨檢ノ際指示スル區域願書ニ添附セシ圖面ノ區域ト若シク相違スルトキ
- 第三十一條中第十三條ヲ第十四條ニ第十六條ヲ第十七條ニ改ム
- 第三十二條中第二十條ヲ第二十一條ニ第二十一條ヲ第二十二條ニ改ム
- 第三十三條中第十五條ヲ第十六條ニ改ム第二十一條第二項ノ八字ヲ削リ其下ニ及ノ一字ヲ加ヘ第二十二條ヲ第二十三條ニ改ム及ヒ第二十三條ノ七字ヲ削ル

鑛形(川紙製鑛紙)  
第四號(正副四通) 鑛業條例第二十九條願書

鑛 年 何 治 明																		
鑛												種 類		位置區級				
探						掘						何 縣 何 郡 何 村 大字 小字 何 鑛 山						
高 越 リ ヲ 前			本 年 探 掘			高 越 リ ヲ 前			本 年 探 掘									
何	銅	銀	金	何	銅	銀	金	何	銅	銀	金	何	銅	銀	金	年 許 可 月 數	探 掘 種 類	住 所 族 籍 氏 名 印 又ハ施行規則第二十二條ニ依 ル代理人
製												種 類		位置區級				
出						製						何 縣 何 郡 何 村 大字 小字 何 鑛 山						
高 越 リ ヲ 前			本 年 出 製			高 越 リ ヲ 前			本 年 出 製									
何	銅	銀	金	何	銅	銀	金	何	銅	銀	金	何	銅	銀	金	年 許 可 月 數	探 掘 種 類	住 所 族 籍 氏 名 印 又ハ施行規則第二十二條ニ依 ル代理人

事 記	工 數 (何人)	業 明 細 表																					
		品 販 賣						品 買 入															
		價 代						量 數															
		何	銅	銀	金	何	銅	銀	金	何	銅	銀	金										

現十二月三十一日 在 八十八員

〔参照〕

農商務省令第六號鑛業條例施行細則(明治二十五年三月十六日)抄録

第五條 他人ノ試掘地者クハ鑛區ニ接近シ試掘地者クハ鑛區ヲ得ントスル者ハ其中間二十間以上ノ距離ヲ置キ出願スヘシ  
但し鑛業人ノ承諾ヲ經タルモノハ此限ニ非ラス

第七條 第一項 試掘又ハ採掘ヲ出願シタルトキ及ヒ試掘願書採掘願書又ハ其添付圖面ヲ修正若クハ補充シタルトキハ三日以内ニ其書類又ハ圖面ノ寫ヲ添ヘ鑛山所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第十條 鑛業條例第十三條ニ依リ鑛物ノ存在ヲ證明スルニハ其鑛物ノ標品ヲ所轄鑛山監督署長ニ提出スヘシ 但し若クハ地質鑛床ノ狀況ニ依リ出願鑛物ノ存在ヲ證明シ得ルトキハ標品ヲ要セス 此場合ニ於テハ採掘願書ニ其證明書ヲ添フヘシ

第十三條 坑内實測圖ハ毎年一月七月ノ兩度ニ之ヲ調製シ前半期末日ノ現況ヲ記載スヘシ

坑内實測圖ハ前項調製期月中ニ所轄鑛山監督署ニ提出スヘシ

第二十一條 鑛業人自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ其鑛山ニ代理人ヲ置クヘシ 前項ノ場合ニ於テハ該代理人ノ届書ヲ所轄鑛山監督署ニ提出スヘシ

第二十三條 鑛業人廢業シタルトキハ十日以内ニ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ 但し採掘人ハ其届書ニ鑛業特許證ヲ添フヘシ

第二十六條 第二項 試掘願書採掘願書及ヒ其添付圖面ハ總テ一件毎ニ別封トシ書留郵便ヲ以テ提出スヘシ 其修正若クハ補充ニ係ルモノ亦同

第二十九條 左ニ掲クル願書請求書及圖面ハ之ヲ受理セス

二、圖面添綴ナキ試掘又ハ採掘願書

- 五、本則第二十六條第二項ノ手續ニ據ラサル試掘又ハ探掘願書及圖面
- 六、本則第二十六條第二項ノ手續ニ據ラサル試掘地又ハ探掘地正願書及圖面
- 七、他人ノ許可地内ニ於テ同一礦物ノ試掘又ハ探掘願書

第三十條 左ノ場合ニ於テハ其出願ヲ無効トス

- 一、本則第六條ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ定メタル期限内ニ願書又ハ圖面ヲ提出サ、ルトキ
- 二、本則第十一條ノ手續ニ據リ鑛物標品又ハ證明書ヲ提出サ、ルトキ

第三十一條 本則第十三條第二項又ハ第十六條ヲ犯シタル者ハ罰金以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 本則第七條第一項第二十二條第二十一條第一項及ヒ第二十四條ヲ犯シタル者ハ罰金以上壹圓九拾五錢以下ノ料ニ處ス

第三十三條 本則第十五條第二十一條第二十二條及ヒ第二十三條ヲ犯シタル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ料ニ處ス

○農商務省令第七號

明治二十五年農商務省令第七號鑛業警察規則中左ノ通改正ス

農商務大臣伯爵後藤象二郎

明治二十六年三月十八日

第五條削除

第六條ヲ第五條ニ改メ同條中「安全機及」ノ四字ヲ削ル

第七條ヲ第六條トシ左ノ如ク改ム

第六條 入ヲ通行セシムル坑内ノ自轉車道及機械卷揚道ニハ軌道ノ一方ニ通行ニ差支ナキ入道ヲ設クヘシ

前項ノ入道ヲ設ケサルトキハ軌道ノ傍側ニ於テ便宜避害所ヲ設ケ白色ニ塗リ置クヘシ

第八條ヲ第七條ニ改メ其第一項ヲ削除ス

第九條ヲ第八條トシ左ノ如ク改ム

第八條 坑内ニハ鑛夫ノ衛生上必要ナル分量ノ新鮮空氣ヲ給送スヘシ

第十條ヲ第九條トシ左ノ如ク改ム

第九條 破裂瓦斯ヲ發出スル石炭坑ニ於テハ鑛山係員ヲシテ安全燈ヲ携ヘ鑛夫就業前ニ坑内各工場ヲ巡視セシムヘシ若シ危険ノ虞アルトキハ相當ノ豫防法ヲ施行スルニ非サレハ鑛夫ヲ入坑セシムルコトヲ得ス

第十一條削除

第十二條ヲ第十條ニ第十三條ヲ第十一條ニ第十四條ヲ第十二條ニ第十五條ヲ第十三條ニ改メ其次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十四條 鑛業ニ使用スル烟突汽鐘發電機又ハ燒鑛所ヲ新設セントスルトキハ使用ノ目的ヲ記シタル設計書ヲ所轄鑛山監督署長ニ提出シ其認可ヲ受クヘシ

第十六條ヲ第十五條ニ第十七條ヲ第十六條ニ第十八條ヲ第十七條ニ第十九條ヲ第十八條ニ第二十條ヲ第十九條ニ第二十一條ヲ第二十條ニ改メ其次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十一條 鑛山ノ狀況ニ依リ本則第一條第三條又ハ第四條ノ規定ヲ實施シ難キトキハ理由ヲ具シ所轄鑛山監督署長ニ出願シ其免除ヲ受クヘシ

〔參照〕

農商務省令第七號鑛業警察規則(明治二十五年三月十六日抄録)

第五條 採掘場ノ外圍ケ丸太柵子ヲ用ユルコトヲ得ス

第六條 入ヲ昇降セシムル卷揚機ニハ安全機及上蓋ヲ備フヘシ

前項ノ卷揚機ニ用非ル繩綱ハ少クシトモ重量ノ十倍ニ附ユルモノヲ要シ昇降ノ速力ハ一分時間ニ六百尺ヲ越ユルコトヲ得ス

第七條 坑内自轉車道及機械卷揚道ニハ軌道ノ一方ニ幅三尺以上ノ入道ヲ設クヘシ

前項ノ入道ヲ設ケサルトキハ軌道ノ傍側ニ於テ少クシトモ距離二十間毎ニ避害所ヲ設ケ白色ニ塗リ置クヘシ

第八條 鑛坑ノ上下周圍ニ於ケル交通運搬ノ用ニ供スル坑道ハ鑛坑ヨリ六尺以上ノ距離ヲ置クヘシ

交通運搬ニ供スル坑道ハ幅三尺高五尺以上タルヘシ

第九條 金剛山ニ於テ一分時間少クモ噴火一人ニ付五十立方尺半馬一頭ニ付二百五十立方尺ノ新鮮空氣ヲ給送スヘシ  
 石炭坑ニ於テハ前項通氣法ヲ二倍以上ニ増加スヘシ  
 第十條 破裂瓦斯ヲ發出スル石炭坑ニ於テハ之ヲ安全ノ度ニ稀薄ナラシムルマテ通氣法ヲ増給スヘシ  
 前項ノ石炭坑ニ於テハ前項通氣法ヲシテ安全燈ヲ携ヘ噴火就業前ニ坑内各工場ヲ巡視セシムヘシ若シ危險ノ成アルトキハ  
 相當ノ預防法ヲ施行スルニ非サレハ鋼夫ヲ入坑セシムルコトヲ得ス

○文部省令第二號

市町村立小學校ニ代用スル私立小學校又ハ設立以來三箇年ヲ經過シ北海道廳長官府縣知事ニ於テ  
 教育上相應ノ成績アリト認ムル私立小學校ニ於テ一箇年以上准教員ノ職ニ在リシ者ハ明治二十四  
 年十一月十一日文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則第四條第一款ニ準シ取扱フコトヲ得  
 明治二十六年三月二十三日 文部大臣井上毅

〔參照〕

文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則(明治二十四年十一月十七日抄録)  
 第四條 正教員ノ檢定ヲ請フ者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス  
 一 准教員ノ免狀ヲ有シ一箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在リシコト但第七條第七款ニ該當スル者ハ此限ニ在ラス  
 第七條 甲種ノ檢定ハ左ニ記スル者ニ限リ之ヲ行フモノトシ第九條乃至第十二條ニ掲ケル科目及其程度ヲ參照シテ其學力  
 及程度ヲ調査スルモノトス但尋常小學校專科教員ニ關スル檢定ハ之ヲ行ハス  
 七 其他學力品行等ニ關シ府縣知事ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

○文部省令第三號

明治二十四年十一月十一日 文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則施行以前ニ授與シタル小學  
 校教員免狀又ハ之ト同一ノ效力有スル小學師範學科卒業證書ニシテ同規則施行以後ニ有效期間  
 ノ滿ツルモノヲ所持スル者ニ就キテハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ免狀又ハ卒業證書ノ有效期  
 限ヲ同規則施行ノ時ヨリ起算シ五箇年以内延期スルコトヲ得  
 明治二十六年三月二十三日 文部大臣井上毅

○農商務省令第八號

砂鐵採取法施行細則左ノ通相定ム

明治二十六年三月二十三日

農商務大臣伯爵後藤藤三郎

砂鐵採取法施行細則

第一條 砂鐵採取ノ願書ハ書式ニ從ヒ之ヲ認メ第一號雛形ニ依リ調製シタル採取區域ノ實測圖ヲ  
 添フヘシ  
 第二條 採取區域内ノ土地他人ノ所有ニ係ルトキハ採取願書ニ土地所有者又ハ關係人ノ承諾書ヲ  
 添フヘシ若シ承諾ヲ得ル能ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ添フヘシ  
 土地所有者又ハ關係人砂鐵採取ノ出願ヲ承諾セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以内ノ期  
 限ヲ定メテ其土地所有者又ハ關係人ニ採取願書ノ差出シ命スヘシ若シ此期限内ニ願書ヲ差出サ  
 サルトキハ出願セサルモノト見做スヘシ  
 第三條 砂鐵採取ヲ出願シタルトキハ五日以内ニ願書及圖面ノ寫ヲ添ヘ採取地ノ地方長官ニ届出  
 ツヘシ  
 地方長官採取ノ事業公益ニ害アリト認ムルトキハ前項ノ届書ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其  
 意見ヲ農商務大臣ニ上申スヘシ  
 第四條 砂鐵採取ニ關スル願書若クハ圖面不完備ナルトキハ所轄鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ定  
 メ之ヲ修正若クハ補充セシムヘシ  
 第五條 砂鐵採取ノ出願人所轄鑛山監督署ヨリ出願地臨檢ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期日ニ  
 臨檢ニ立合フヘシ  
 第六條 砂鐵採取法第十條ニ依リ採取許可ノ取消ヲ請求スル者及同法第十八條ニ依リ所轄鑛山監  
 督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スル者ハ其理由ヲ記シタル請求書ニ關係書類ヲ添ヘ

所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第七條 鑛山監督署長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ通知シ和當ノ期限ヲ定メ辯明書ヲ差出サシムヘシ

第八條 採取人ハ毎年二月第二號雛形ニ從ヒ調製シタル前年中ノ採取業明細表ヲ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

採取人廢業シタルトキハ三十日以内ニ前項ノ明細表ヲ差出スヘシ

第九條 採取業ヲ相續シタル者ハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ十五日以内ニ共旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第十條 採取人廢業シタルトキハ共旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

前項届出ノ日ヲ以テ廢業ノ日ト見做ス

第十一條 鑛山監督署ニ差出スヘキ書類ハ鑛山監督署支署ノ管轄區域内ニ於テハ之ヲ支署ニ差出スヘシ

第十二條 砂鐵採取ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ發送郵便局消印ニ依リ差出ノ日時ヲ定ムルモノトス

第十三條 砂鐵採取ニ關シ農商務省又ハ鑛山監督署ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ強要スルコトヲ得ス

第十四條 左ノ場合ニ於テハ共出願ヲ無効トス

一、本則第一條ニ依リ願書ニ實測圖ヲ添ヘサルトキ

二、本則第二條第一項ニ依リ願書ニ承諾書又ハ承諾ヲ得ル能ハサル旨ノ書面ヲ添ヘサルトキ

三、本則第四條ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ定メタル期限内ニ修正若クハ補充セサルトキ

四、正當ノ理由ナクシテ本則第五條ノ立合ヲ爲サハルトキ

第十五條 本則第三條第一項又ハ第八條ヲ犯シタル者ハ一回以上一回九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十六條 本則第九條ヲ犯シタル者ハ十錢以上一回以下ノ科料ニ處ス

附則

第十七條 砂鐵採取法實施以前ニ差出シタル砂鐵採取願書ニシテ同法實施ノ日迄ニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ同法ニ依リ處分スヘシ

第十八條 明治十二年工部省第十四號布達明治十三年工部省第六號布達及明治二十五年農商務省令第十二號ハ砂鐵採取法實施ノ日ヨリ廢止ス

書式(用紙美濃紙正副三通)

砂(金)(錫)(鐵)採取願書

何府縣國郡市町村大字

何小字

何小字

官地又ハ民地

官地又ハ民地

右ノ場所ニ於テ砂(金)(錫)(鐵)存在候ニ付採取致度候間許可相成度實測圖相添此段相願候也

住所族籍

何人 氏 名印

住所族籍

何人 氏 名印

何組合人アラハ連署押印スヘシ

雛形(用紙美濃紙各三通)

第一號

砂何鐵採取地實測圖 尺度何分ノ一

住所族籍

何人 氏 名印

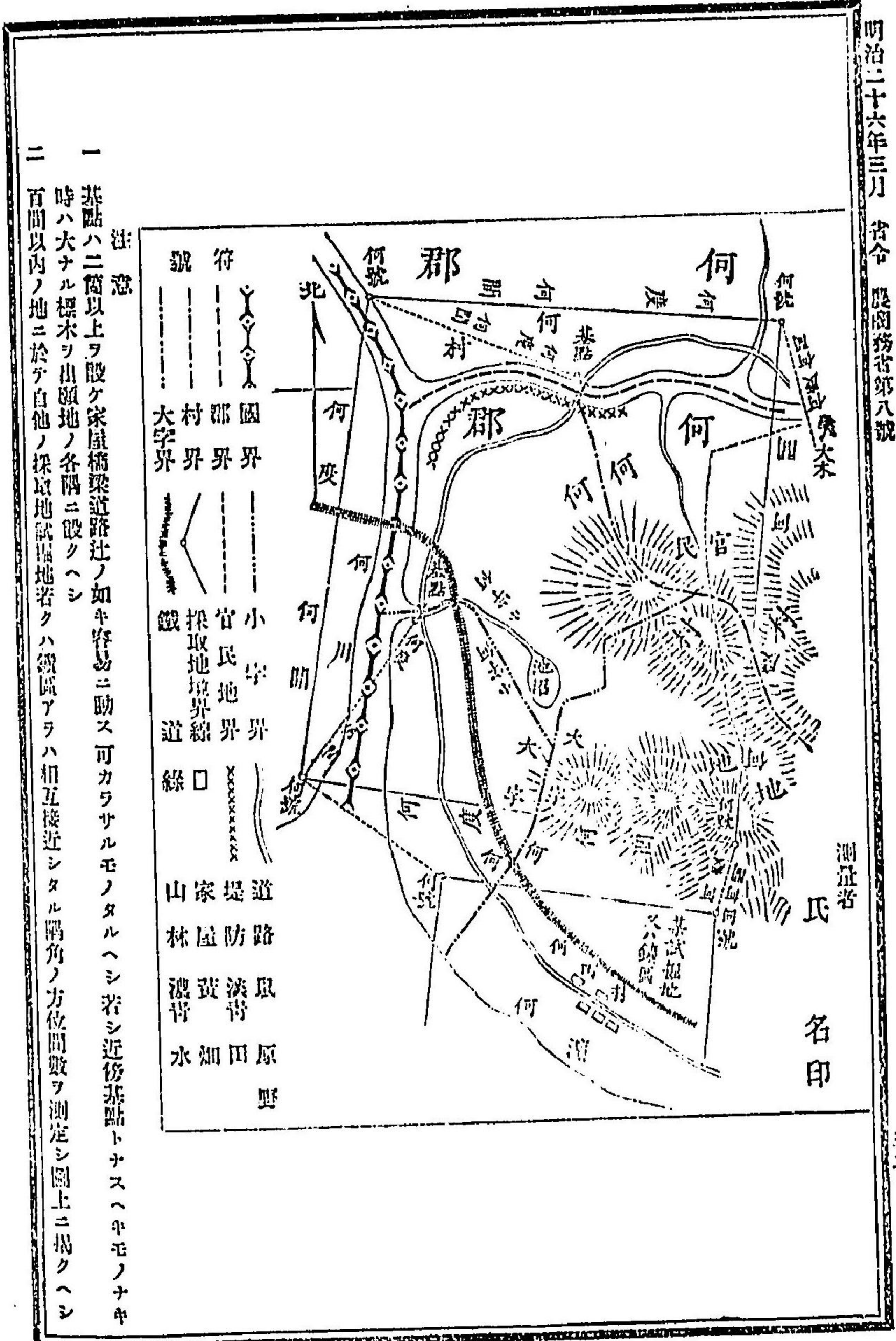
但シ組合人アラハ連署押印スヘシ

何府縣國郡何町市大字何小字何官地又ハ民地



表細明業行取採(錫)(金)鐵砂年何治明										
郡	村	字大	字小	住所族籍	姓名	名印	探取人	許可年月日	縣府廳	探取位置
										越
探取	高	探取	高	探取	高	探取	高	探取	高	探取
取	量	取	量	取	量	取	量	取	量	取
取	量	取	量	取	量	取	量	取	量	取
取	量	取	量	取	量	取	量	取	量	取
取	量	取	量	取	量	取	量	取	量	取

三 圖面用紙ハ方三尺ヨリ大ナルモノヲ使用ス可ラズ  
 四 探取地計正ノトキハ原圖ヲ製シ増減ハ本式ニ依リ原圖ハ其區域ヲ無彩色ニスヘシ  
 第二號



注意 數量ハ實ヲ單位トス 人員ハ其年十二月三十一日現在數ヲ記入スヘシ

〔参照〕

工部省第十四號布達(明治十二年十月二十八日) 砂鐵並砂金採行之者ハ日本坑法ニ基キ試掘借開坑ノ許可シ來候處自今都テ試掘借開坑之名稱相廢候條該地所之名字等詳細之繪圖面相添採取之儀出願スヘシ且從來既ニ試掘借開坑之許可ヲ受居候者ハ採取ニ願替假坑券ハ返納スヘキ儀ト可心得此旨布達候事

工部省第六號布達(明治十三年三月二十九日)抄録 昨十二年第十四號ヲ以砂金砂鐵試掘借開坑之名稱相廢候ニ付テハ該條業者ヨリ從前提出來候行業明細表之儀左之儀形ニ照準取調可差出此旨布達候事(御形略ス)

明治二十五年十月三日農商務省令第十二號ハ砂鐵採取出願手續ナリ

○大藏省令第五號

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法第四條ニ據リ募集スル公債ハ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例第三十二條ニ據リ取扱順序左ノ通相定ム

明治二十六年三月二十七日

大藏大臣渡邊國武

鐵道公債取扱順序

第一條 鐵道公債ノ應募者ハ大藏大臣ノ指定スル日限マテニ應募ノ金額並ニ價格ヲ取扱店(日本銀行本支店又ハ代理店)ヲ云フ以下之ニ做フ(ヘ申込ムヘシ) 整理公債條例第四條但書ニ據リ記名證書ノ交付ヲ望ムモノハ前項申込ト同時ニ其旨ヲ取扱店へ申出ヘシ

第二條 鐵道公債ノ應募者ハ申込ノトキ大藏大臣ノ指定スル割合ヲ以テ保證金ヲ差入ルヘシ 但取扱店ハ本文保證金ニ對シ領收證書ヲ交付スヘシ

前項保證金ハ應募額確定ノ日ヲ以テ之ヲ第一拂込金トシ此拂込金ニ對シテハ整理公債條例第十

二條ニ據リ本證書利子ノ割合ヲ以テ利子ヲ付ス

但取扱店ハ本文拂込金ニ對シ更ニ領收證書ヲ調製シ又還付スル現金アルトキハ共ニ保證金額收證書ト引換ヘシ

第三條 鐵道公債ノ應募者ハ大藏大臣ノ指定スル期日ニ於テ第二以下ノ拂込金ヲナスヘシ 但取扱店ハ本文拂込金ニ對シ領收證書ヲ交付スヘシ

第四條 保證金ヲ差入レタル後チ又ハ拂込金未タ全額ニ滿タサル内應募者死亡シタルトキハ其相續人ハ整理公債條例第十七條ニ準シ正當ノ相續人タルコトヲ取扱店へ届出ヘシ

第五條 保證金及拂込金額收證書ヲ紛失シ又ハ消滅シタルモノアルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ共事實ヲ取扱店ニ證明シ更ニ領收證書ヲ請求スルコトヲ得

第六條 拂込金額收證書ハ各應募者ニ於テ共申込ヲナシタル取扱店へ抵當ニ差入ル、外之ヲ授受賣買スルヲ得ス

第七條 應募者ニ交付スヘキ鐵道公債證書ハ大藏大臣其種類ヲ定メ日本銀行本店ニ交付スルモノトス

第八條 應募者ニ交付スヘキ鐵道公債證書ハ取扱店ニ於テ拂込金額收證書ト引換ニ交付スヘシ

第九條 鐵道公債利子支拂元金償還及證書ノ取扱ハ明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序第十三條以下ノ各條ニ據ル

〔参照〕

法律第四號鐵道敷設法(明治二十五年六月二十一日官報)抄録 第四條 鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ

勅令第六十六號整理公債條例(明治十九年十月十六日)抄録 第四條 整理公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札附ニシテ五千圓千圓五百圓百圓五拾圓ノ五種トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トスルコトヲ得

第十二條 整理公債ノ利子ハ其元金拂込ノ時月ノ十五日以前ニ在ルモノハ下半月分ヨリ支拂ヒ月ノ十六日以後ニ在ルモノハ翌月分ヨリ支拂ヒ元金償還ノ年ニ於テハ其償還ノ月マテ月割ヲ以テ支拂フモノトス

第十七條 記名證書ノ所有者死シタルトキ其相続人ハ請求書ニ正當ノ相續人タルコトヲ證スル月長ノ與書ヲ受ケ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十二條 整理公債ノ募集償還利子ノ拂渡證書ノ書換等ニ關スル取扱手續ハ大藏大臣之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

大藏省令第三十號整理公債取扱順序(明治十九年十月十九日)抄録

第二章 利子支拂

第十三條 整理公債ノ利子支拂期日ハ毎年六月一日ヨリ同二十五日マテ十二月一日ヨリ同二十五日マテトス

第十四條 整理公債ノ利金ハ各取扱店ニ於テ利札引換ニシテ持参スルモノニ支拂フヘシ但記名證書ノ利札ハ記名簿印ヲナシタル取扱店ニ限り記名者ニ之ヲ支拂フモノトス

第十五條 整理公債證書ノ當額又ハ満期償還ノ時拂渡スヘキ利子ハ償還スヘキ證書ニ付帶スル當期利札ニ對シ月割ヲ以テ仕拂フモノトス

第十六條 整理公債條例第二十五條ニ據リ利子ノ支拂ヲ請求スルモノアルトキハ取扱店ニ於テ領收證書ヲ發シ之レガ支拂ヲナスモノトス

第三章 元金償還

第十七條 整理公債條例第九條但書ニ據リ該公債償還金額ノ告示アルトキハ日本銀行本店ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ連環ノ期日ヲ定メ官報及五種以上ノ新聞紙ヲ以テ三日以上之ヲ廣告スヘシ

第十八條 前條ノ抽籤ヲ執行シタルトキハ日本銀行本店ヨリ連環前條同様ノ手續ヲ以テ當額證書ノ金額種類記號番號枚數等ヲ廣告スヘシ

各地取扱店ニ於テハ前項ノ廣告ニ據リ更ニ適宜ノ方法ヲ以テ其地方限リ同様ノ廣告ヲナスヘシ

第十九條 整理公債元金支拂ノ期日ハ各取扱店ニ於テ現金ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ十五日間ヲ過ルヲ得ス

第二十條 整理公債ノ元金ハ各取扱店ニ於テ證書引換ニシテ持参スルモノニ支拂フヘシ但記名證書ノ元金ハ記名簿印ヲナシタル取扱店ニ限り記名者ニ之ヲ支拂フモノトス

第二十一條 整理公債證書ノ當額後紛失ノ届出アルトキ無記名證書ハ整理公債條例第二十五條ニ準シ其届出ヨリ滿六箇年記名證書ハ順序第十九條ノ支拂期日後三十日ヲ經過シ尙發見セザレバ元金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得但取扱店ニ於テハ領收證書ヲ發シ之レガ支拂ヲナスモノトス

第二十二條 整理公債條例第二十二條ニ據リ該公債ニシテ償還ニ係ルモノ及當額後同條ニ據リ當額スルモノハ代證書ヲ交付セズ取扱店ニ於テ保單人連環ノ請求書及領收證書ヲ發シ元金ヲ持参スヘシ

第四章 證書取扱

第二十三條 整理公債條例第二十四條第二十五條ニ據リ代證書代利札ノ交付ヲ請求スルモノハ其旨ヲ取扱店ニ申出ツヘシ取扱店ニ於テハ領收證書ヲ發シ之ト引換ニ代證書代利札ヲ交付スルモノトス

第二十四條 整理公債證書ノ消滅紛失又ハ毀損汚損ニ由リ交付スヘキ代證書ニハ前證書ニ當時附屬セシ利札ヲ附シ其種類ハ前證書ノ種類ト異ナルコトアルヘシ

第二十五條 記名證書ヲ交付スルトキハ取扱店ニ於テ其證書ニ照印シ記名簿下割印スヘシ

第二十六條 無記名證書ヲ記名ニ變換スルノ請求アルトキハ取扱店ニ於テ本證書ニ對シテ請求書ヲ交付シ本店ハ(支店代理店ハ本店ヲ經由シテ)證書ニ記名印ノ押捺ヲ大藏省へ請求シ證書並ニ記名紙ヲ受取りタルトキハ先キニ交付シタル請求書ト引換ニ本證書ヲ交付スヘシ

第二十七條 整理公債條例第十七條第十八條及第十九條ニ據リ記名證書ノ名前書換ノ請求アルトキハ取扱店ニ於テ其證書ニ照印シ記名簿ニ刻印シテ證書ヲ交付スヘシ

第二十八條 整理公債記名證書ノ所有者其取扱店ヲ變換セントスルトキハ其旨ヲ甲店ニ申出テ其證書ヲ乙店ニ差出シ記名簿ハ發給簿ヲ附フヘシ

第二十九條 甲(讓渡又ハ買渡人)乙(領受又ハ買受人)取扱店ヲ異ニスルモノニシテ整理公債記名證書ヲ買渡讓渡ヲナレタルトキハ順序第二十七條及第二十八條ノ手續ヲナスヘシ

第三十條 記名證書所有者ハ月長ノ保護ヲ經テ其印鑑ヲ取扱店へ差出スヘシ但改印改姓名ヲナシタルトキモ亦本條ノ手續ヲナスモノトス

第三十一條 整理公債條例第二十八條ニ掲グル手数料ノ高ハ日本銀行ニ於テ之ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○文部省令第四號

神奈川縣 東京府

本年三月法律第十二號ヲ以テ神奈川縣下武藏國西多摩郡北多摩郡南多摩郡東東京府ニ移サレタルニ付テハ小學校教員恩給基金ノ分割及其他ノ事項ニ關スル手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十六年三月二十七日

文部 大臣 井上毅

第一條 神奈川縣小學校教員恩給基金ハ明治二十三年十月法律第九十號市町村立小學校教員恩給法及遺族扶助料法ニ依リ西多摩郡北多摩郡南多摩郡内ノ町村及町村立小學校正教員ヨリ納メタル

金額ノ割合ニ依リ之ヲ分割シ東京府ニ引續クヘシ

第二條 神奈川縣尋常師範學校生徒中西多摩郡長北多摩郡長南多摩郡長ノ聘請ニ係ル者ハ東京府ニ引續クヘシ

第三條 西多摩郡北多摩郡南多摩郡内小學校教員ノ所持スル小學校教員免許狀又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル小學校師範學校畢業證書ニシテ神奈川縣ニ於テ授與シタルモノハ效力ハ東京府内ニ移ルモノトス

第四條 神奈川縣尋常師範學校卒業生ニシテ明治十九年五月文部省令第十一號尋常師範學校卒業生服務規則ニ依リ西多摩郡北多摩郡南多摩郡内ニ於テ服務中ノ者ノ服務期限滿務ハ東京府内ニ移ルモノトス

○文部省令第五號

明治二十五年七月文部省令第九號第一條尋常師範學校生徒定員表中東京府ノ生徒定員百四十名ヲ百六十名ト改メ神奈川縣ノ生徒定員百二十名ヲ百名ト改ム

明治二十六年三月二十七日

文部大臣 井上 馨

○文部省令第六號

明治二十五年七月文部省令第十四號第五條ヲ左ノ通改正ス

明治二十六年三月二十七日

文部大臣 井上 馨

第五條 書記ノ人員ハ生徒定員百八十人未満ノ學校ニ於テハ專任二人トシ同百八十人以上ノ學校ニ於テハ專任三人トス

〔參照〕

文部省令第十四號(明治二十五年七月十一日)抄録  
第五條 書記ノ人員ハ生徒定員百五十人以下ノ學校ニ於テハ專任二人トシ同百八十人以上ノ學校ニ於テハ專任三人トス

○大藏省令第六號

明治二十六年四月一日ヨリ中央金庫所屬八王子支金庫ニ於テ供託事務ノ取扱ヲ爲スヘシ

明治二十六年三月二十九日

大藏大臣 渡邊 國武

○文部省令第七號

明治二十四年文部省令第十六號學齡兒童ヲ保護スヘキ者ト認ムヘキ要件第三條同年文部省令第二十六號尋常師範學校附屬小學校規程第四條明治二十五年文部省令第八號尋常師範學校ノ學科及其程度第四條同年文部省令第九號尋常師範學校生徒ノ定員第四條ニ掲ケタル事項ハ自今文部大臣ノ許可ヲ受クルヲ要セス北海道廳長官府縣知事ニ於テ處分シタル後文部大臣ニ報告スヘシ

明治二十五年文部省令第十二號尋常師範學校設備規則第十三條ニ依リ學校ノ位置ヲ選定スルハ仍文部大臣ノ許可ヲ受クヘキヲ除外其ノ校舍建築ニ係ル事項ハ前項ノ例ニ同シ

明治二十六年三月二十九日

文部大臣 井上 馨

〔參照〕

文部省令第十六號(明治二十四年十一月十七日)抄録  
第一條 父母後見人月主ハ左ノ順序ニ從ヒ學齡兒童ヲ保護スヘキモノトス但學齡兒童月主タルトキハ第二條ニ依ルヘシ  
一 父母  
二 父母及月主 父母共ニ月主タラサルトキ  
三 後見人 父母死亡シタルトキ又ハ父母生存スルモ失踪、心神喪失又ハ其他ノ事故ニ依リ其職務ヲ行フコト能ハサルトキ  
四 後見人及月主 前項ノ場合ニ於テ後見人月主タラサルトキ  
前項ノ場合ニ於テ授業料及其他就學ニ關スル費用ハ月主之ヲ負擔スヘシ  
第二條 學齡兒童月主タルトキハ父母後見人ハ左ノ順序ニ從ヒ之ヲ保護スヘキモノトス  
一 父母  
二 後見人 父母死亡シタルトキ又ハ父母生存スルモ失踪、心神喪失又ハ其他ノ事故ニ依リ其職務ヲ行フコト能ハサルトキ